

人権についての市民意識調査 結果報告書

2019年3月

尼崎市

目次

I. 調査概要	1
II. 調査結果	5
1. 人権全般について	5
1-1 人権についての意識	5
1-2 日本の人権尊重社会の実現度	6
1-3 関心をもっている人権問題	7
1-4 人権についての考え	9
1-5 自身の人権侵害の経験	10
1-6 受けた人権侵害の内容	11
1-7 人権侵害を受けた際の対応	14
1-8 障がいのある人・外国籍住民の人権についての考え	15
2. さまざまな人権問題について	17
2-1 女性の人権についての問題意識	17
2-2 子どもの人権についての問題意識	18
2-3 高齢者の人権についての問題意識	19
2-4 障がいのある人の人権についての問題意識	20
2-5 外国籍住民の人権についての問題意識	21
2-6 親しくしている外国人の有無	22
2-7 犯罪被害者の人権についての問題意識	23
2-8 インターネットを悪用した人権侵害についての問題意識	24
2-9 性的マイノリティ(少数者)の人権についての問題意識	25
2-10 性的マイノリティ(少数者)の友人・知人の有無	26
3. 結婚について	27
3-1 結婚相手として重視する条件	27
3-2 結婚差別の有無	29
4. 部落差別(同和問題)について	33
4-1 部落差別(同和問題)の有無の認識	33
4-2 部落差別(同和問題)について知ったきっかけ	34
4-3 住宅選択における忌避意識	36
4-4 学校での部落差別(同和問題)についての学習経験	37
4-5 親しくしている部落出身者(同和地区出身者)の有無	38
5. 人権問題の啓発活動について	39
5-1 人権啓発活動への接触状況	39
5-2 接触した人権啓発活動の感想	40
6. 人権に関する法などの認知について	42
6-1 人権三法の認知度	42
6-2 人権に関する条約等の認知度	43
6-3 本人通知制度の認知度	44
7. 市に対する意見・要望	45
7-1 市に対する意見・要望	45

Ⅲ. スコア分析	49
1. スコアの算出方法・カテゴリー分け.....	49
1-1 人権についての考えスコアの算出方法.....	49
1-2 人権三法の認知度スコアの算出方法.....	50
1-3 人権に関する条約等の認知度スコアの算出方法.....	51
2. スコア別の分析結果.....	52
2-1 人権についての意識.....	52
2-2 関心を持っている人権問題.....	53
2-3 住宅選択における忌避意識.....	54
3. 回答者の属性別スコア.....	55
3-1 回答者の属性別人権についての考えスコア.....	55
3-2 回答者の属性別人権三法の認知度スコア.....	57
3-3 回答者の属性別人権に関する条約等の認知度スコア.....	59
Ⅳ. 補論	61
Ⅴ. 調査票	89

I. 調査概要

1. 調査の概要

1. 調査目的

尼崎市における市民の人権に関する意識の変化等を把握し、「尼崎市人権教育・啓発推進基本計画」の策定及び今後の施策展開の基礎資料とすることを目的とし実施した。

2. 調査方法

(1) 調査対象

市内在住の 18 歳以上の市民(外国籍住民含む)

(2) 対象数

3,000 人

性別年代別に無作為抽出

(3) 調査期間

2018 年 10 月 16 日(火)～10 月 31 日(水)

(4) 調査方法

郵送調査

調査票を郵送してから 1 週間後に、お礼状兼督促葉書を郵送した。

(5) 調査項目

「V. 調査票」を参照

3. 回収状況

- 回収票数 1,000 件
- 無効票数(白紙回答) 2 件
- 有効票数 998 件
- 回収率 33.3%

4. 信頼区間

今回の調査は、標本調査であるので、標本による測定値(調査の結果)に基づいて、母集団値を推定できる。信頼度 95%における測定値(%)の信頼区間 1/2 幅(標準誤差)は、次の式で算出される。

$$\text{標準誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\left(\frac{N-n}{N-1}\right) \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N:母集団数(本調査では 396,771) / n:標本数(同 998) / P:測定値(%)

※母集団数は、平成 30 年 9 月 1 日現在の 18 歳以上の住民基本台帳登録者数

【信頼度 95%における主要な%の信頼区間の 1/2 幅】

		P (%) n	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
			95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	55%	50%
全体		998	1.4	1.9	2.2	2.5	2.7	2.8	3.0	3.0	3.1	3.1
性別	男性	489	1.9	2.7	3.2	3.5	3.8	4.1	4.2	4.3	4.4	4.4
	女性	476	2.0	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.5	4.5
	回答しない	24	8.7	12.0	14.3	16.0	17.3	18.3	19.1	19.6	19.9	20.0
年齢別	10歳代・20歳代	76	4.9	6.7	8.0	9.0	9.7	10.3	10.7	11.0	11.2	11.2
	30歳代	118	3.9	5.4	6.4	7.2	7.8	8.3	8.6	8.8	9.0	9.0
	40歳代	154	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.9	7.9
	50歳代	176	3.2	4.4	5.3	5.9	6.4	6.8	7.0	7.2	7.3	7.4
	60歳代	232	2.8	3.9	4.6	5.1	5.6	5.9	6.1	6.3	6.4	6.4
	70歳以上	233	2.8	3.9	4.6	5.1	5.6	5.9	6.1	6.3	6.4	6.4
部落差別 学習別	小学校で学んだ	273	2.6	3.6	4.2	4.7	5.1	5.4	5.7	5.8	5.9	5.9
	中学校で学んだ	216	2.9	4.0	4.8	5.3	5.8	6.1	6.4	6.5	6.6	6.7
	高等・高等専修学校で学んだ	109	4.1	5.6	6.7	7.5	8.1	8.6	9.0	9.2	9.3	9.4
	短大・大学・専門学校で学んだ	22	9.1	12.5	14.9	16.7	18.1	19.1	19.9	20.5	20.8	20.9
	はっきりと覚えていない 学校で学んだ経験はない	286 239	2.5 2.8	3.5 3.8	4.1 4.5	4.6 5.1	5.0 5.5	5.3 5.8	5.5 6.0	5.7 6.2	5.8 6.3	5.8 6.3
外国人の 友人・知人の 有無	親しくしている人がある	255	2.7	3.7	4.4	4.9	5.3	5.6	5.9	6.0	6.1	6.1
	親しくしている人はいない	600	1.7	2.4	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0
	わからない	121	3.9	5.3	6.4	7.1	7.7	8.2	8.5	8.7	8.9	8.9
性的 マイノリティの 友人・知人の 有無	知り合いの中にいる	128	3.8	5.2	6.2	6.9	7.5	7.9	8.3	8.5	8.6	8.7
	知り合いの中にいない	600	1.7	2.4	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0
	わからない	249	2.7	3.7	4.4	5.0	5.4	5.7	5.9	6.1	6.2	6.2
部落出身の 友人・知人の 有無	親しくしている人がある	154	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.9	7.9
	親しくしている人はいない	300	2.5	3.4	4.0	4.5	4.9	5.2	5.4	5.5	5.6	5.7
	わからない	528	1.9	2.6	3.0	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3

この表は、例えば、問1の『人権についての意識』の結果をみると、「あまり身近に感じていない」は 37.7%であり、表中の“全体”の最も近い値(40%)は「3.0」となっている。すなわち、母集団を対象にこの調査を行えば「あまり身近に感じていない」と回答する人が 37.7%の前後 3.0%の区間内、すなわち 34.7%～40.7%の区間内にあることが 95%の確率で期待されることを意味している。ただ、今回の調査の回収率が 33.3%にとどまっていることは、十分に注意する必要がある。

5. 回答者属性

■性別 (上段：%、下段：人)

サンプル数	男性	女性	回答しない	無回答
100.0	49.0	47.7	2.4	0.9
998	489	476	24	9

■年齢 (上段：%、下段：人)

サンプル数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
100.0	0.5	7.1	11.8	15.4	17.6	23.3	23.4	0.9
998	5	71	118	154	176	232	233	9

■職業 (上段：%、下段：人)

サンプル数	自営業	公務員、教員	民間企業・団体の経営者、役員	民間企業・団体の正規職員	アルバイト等	非正規職員（パート、派遣職員）	学生	無職	その他	無回答
100.0	7.7	3.7	1.4	25.8	19.7	1.0	34.6	4.4	1.7	
998	77	37	14	257	197	10	345	44	17	

■居住地域 (上段：%、下段：人)

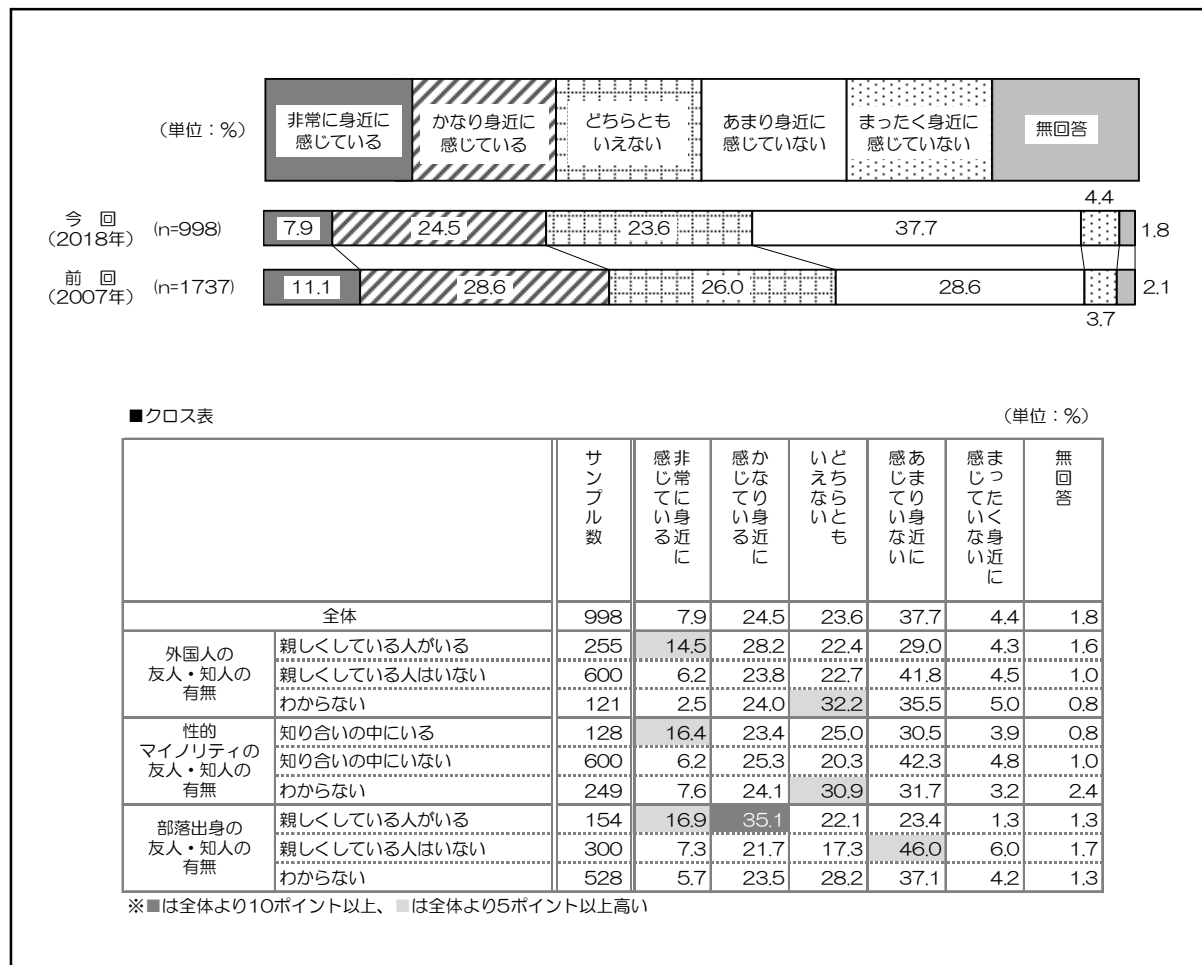
サンプル数	中央地区	小田地区	大庄地区	立花地区	武庫地区	園田地区	無回答
100.0	10.5	16.3	10.3	21.7	17.3	20.0	3.9
998	105	163	103	216	173	199	39

II. 調查結果

1. 人権全般について

1-1 人権についての意識

問1 あなたは、「人権」ということを、どの程度身近に感じられますか。あなたのお気持ちにいちばん近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

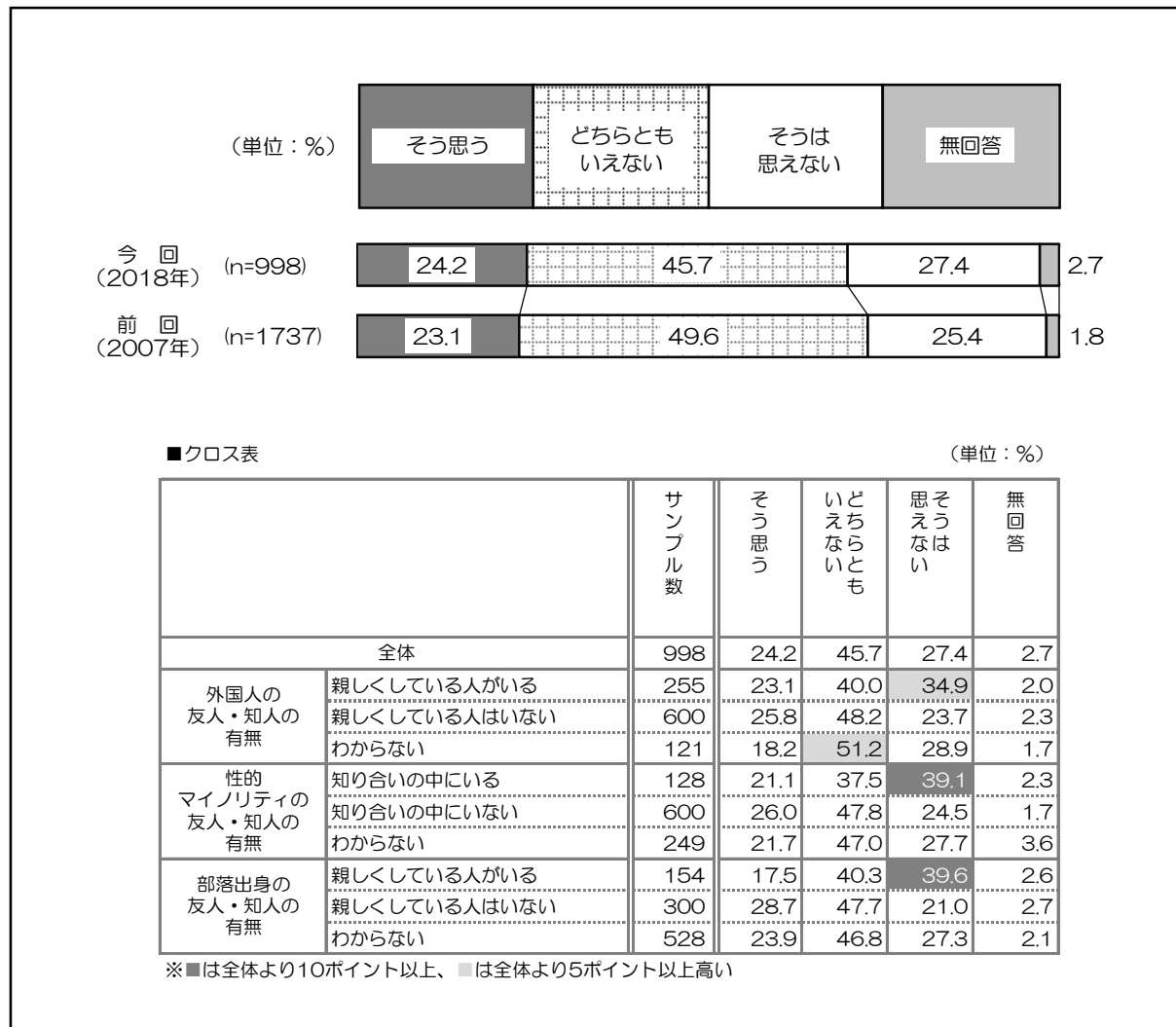


サンプル構成が異なるが、参考に比較すると前回調査より(以降、同様の場合「前回調査より」と記載)、「非常に身近に感じている」「かなり身近に感じている」が減少し、「あまり身近に感じていない」が9.1ポイント増加して37.7%となっている。

『外国人』『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層の方が、「非常に身近に感じている」「かなり身近に感じている」の割合が高く、人権を身近に感じている。

1-2 日本の人権尊重社会の実現度

問2 日本の人権について「今の日本は、人権が尊重されている社会である」という意見がありますが、あなたのお考えに近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

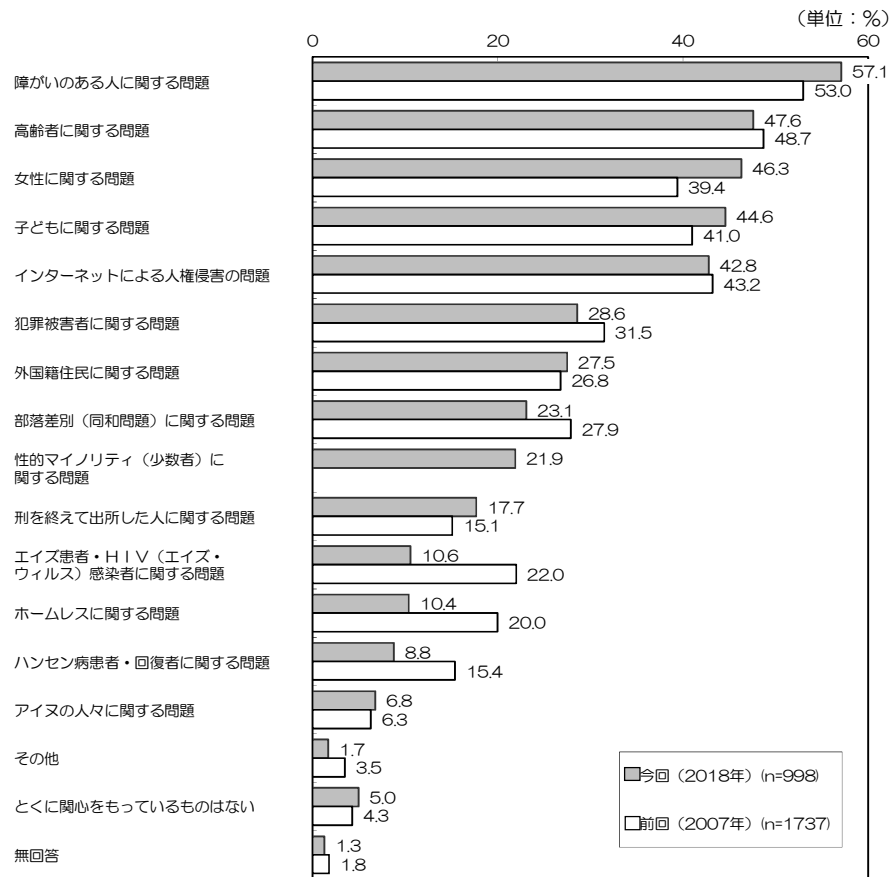


前回調査と同様「どちらともいえない」が半数弱を占める。「そうは思えない」が 2.0 ポイント増加して 27.4%となっている。

『外国人』『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層の方が、「そうは思えない」の割合が高く、人権が尊重されていないと感じている。

1-3 関心を持っている人権問題

問3 日本の社会には、人権にかかわるいろいろな問題がありますが、あなたが、関心を持っているもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)



■比較表

	今回 (2018年)	前回 (2007年)	内閣府 (2017年)
サンプル数	998	1737	1758
障害のある人に関する問題	57.1	53.0	51.1
高齢者に関する問題	47.6	48.7	36.7
女性に関する問題	46.3	39.4	30.6
子どもに関する問題	44.6	41.0	33.7
インターネットによる人権侵害の問題	42.8	43.2	43.2
犯罪被害者に関する問題	28.6	31.5	16.9
外国籍住民に関する問題	27.5	26.8	15.0
部落差別(同和問題)に関する問題	23.1	27.9	14.0
性的マイノリティ(少数者)に関する問題	21.9	-	-
性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)	-	-	15.5
性同一性障害者(生物学的な性と性自認(こころの性)が一致しない者)	-	-	15.0
刑を終えて出所した人に関する問題	17.7	15.1	14.6
エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者に関する問題	10.6	22.0	10.8
ホームレスに関する問題	10.4	20.0	11.8
ハンセン病患者・回復者に関する問題	8.8	15.4	11.2
アイヌの人々に関する問題	6.8	6.3	6.7
フライバシーをめぐる人権問題	-	34.9	-
母子家庭や父子家庭に対する差別の問題	-	23.0	-
差別していない母やその子どもに対する差別の問題	-	15.3	-
東日本大震災に伴う人権問題	-	-	28.8
北朝鮮当局によって拉致された被害者等	-	-	26.2
人身取引(性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引)	-	-	10.5
その他	1.7	3.5	0.2
とくに関心をもっているものはない	5.0	4.3	7.6
無回答	1.3	1.8	-

■クロス表

(単位：%)

	サンプル数	障がいのある人に関する問題	高齢者に関する問題	女性に関する問題	子どもに関する問題	インターネットによる人権侵害の問題	犯罪被害者に関する問題	外国籍住民に関する問題	部落差別（同和問題）に関する問題	性的マイノリティ（少数者）に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題	エイズ患者・HIV（エイズ・ウィルス）感染者に関する問題	ホームレスに関する問題	ハンセン病患者・回復者に関する問題	アイヌの人々に関する問題	その他	とくに関心をもっているものはない	無回答	
全体	998	57.1	47.6	46.3	44.6	42.8	28.6	27.5	23.1	21.9	17.7	10.6	10.4	8.8	6.8	1.7	5.0	1.3	
性別	男性	489	56.4	43.4	35.6	36.6	44.2	31.5	30.5	26.4	20.9	18.6	10.4	10.8	9.4	8.2	2.0	6.7	0.8
	女性	476	59.2	52.9	56.9	51.7	41.8	25.6	25.4	20.6	23.5	16.8	11.3	9.7	8.4	5.5	1.5	3.2	1.5
	回答しない	24	45.8	29.2	58.3	58.3	41.7	33.3	12.5	16.7	20.8	20.8	4.2	20.8	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

前回同様、「障がいのある人に関する問題」がトップ。前回調査より「エイズ患者・HIV感染者」「ホームレス」「ハンセン病患者・回復者」に関する問題が大きく減少し1割前後となっている。「女性に関する問題」は6.9ポイント増加して46.3%となり、前回5位から今回3位となっている。

内閣府調査でも同様に「障害のある人に関する問題」がトップだが、2位に「インターネットによる人権侵害の問題」が上がっている。尼崎市の方が「高齢者」「女性」「子ども」「犯罪被害者」「外国籍住民」に関する問題が10ポイント以上高くなっている。

性別で見ると、「高齢者」「女性」「子ども」に関する問題については、女性の関心が高く、男女差が顕著である。

1-4 人権についての考え

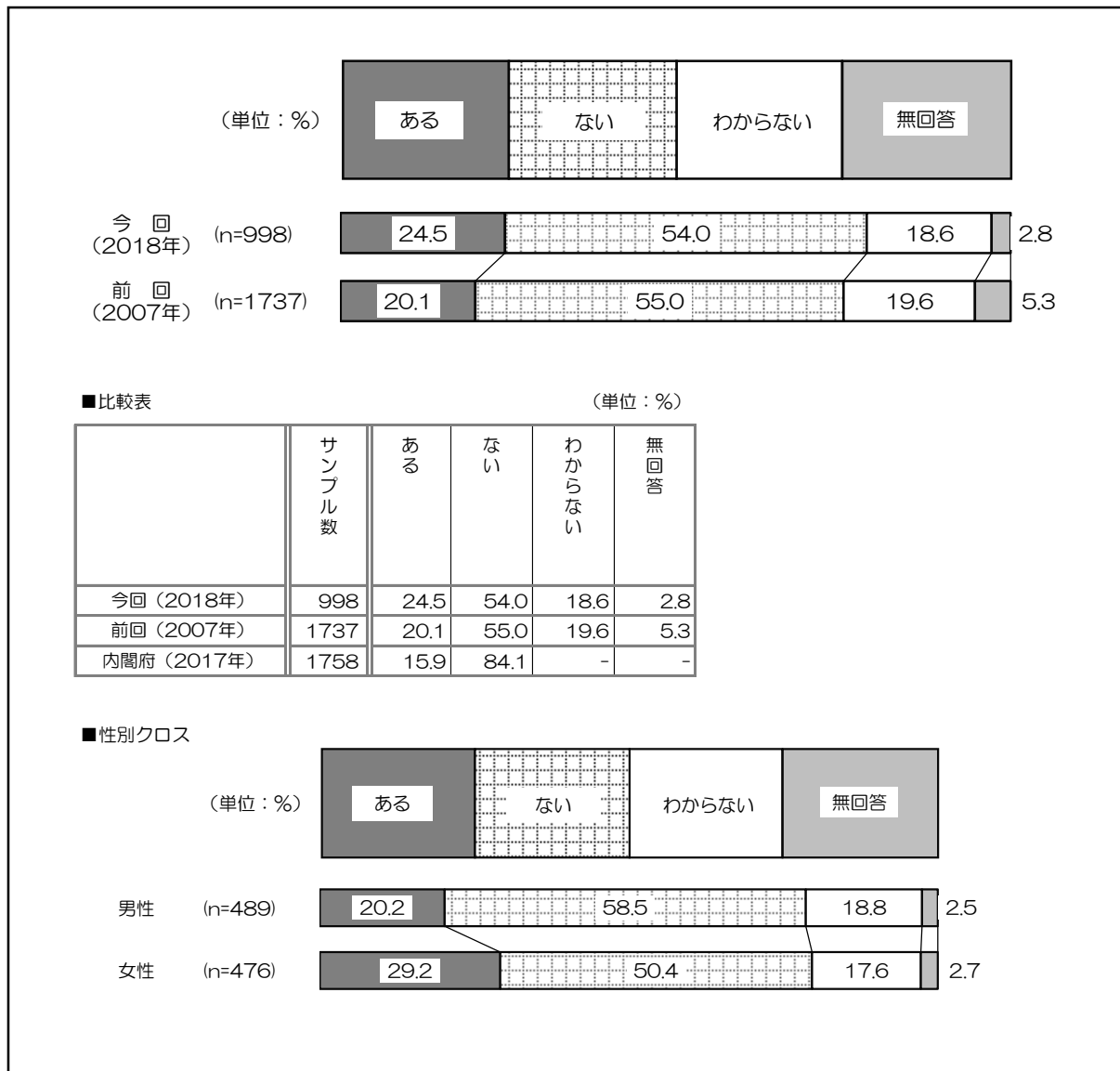
問4 人権についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)



「(F)自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている」が「そう思う」計 81.0%で最も高い。次いで、「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」が「そう思う」計 74.1%で多い。

1-5 自身の人権侵害の経験

問5 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思われたことがありますか。(〇は1つだけ)

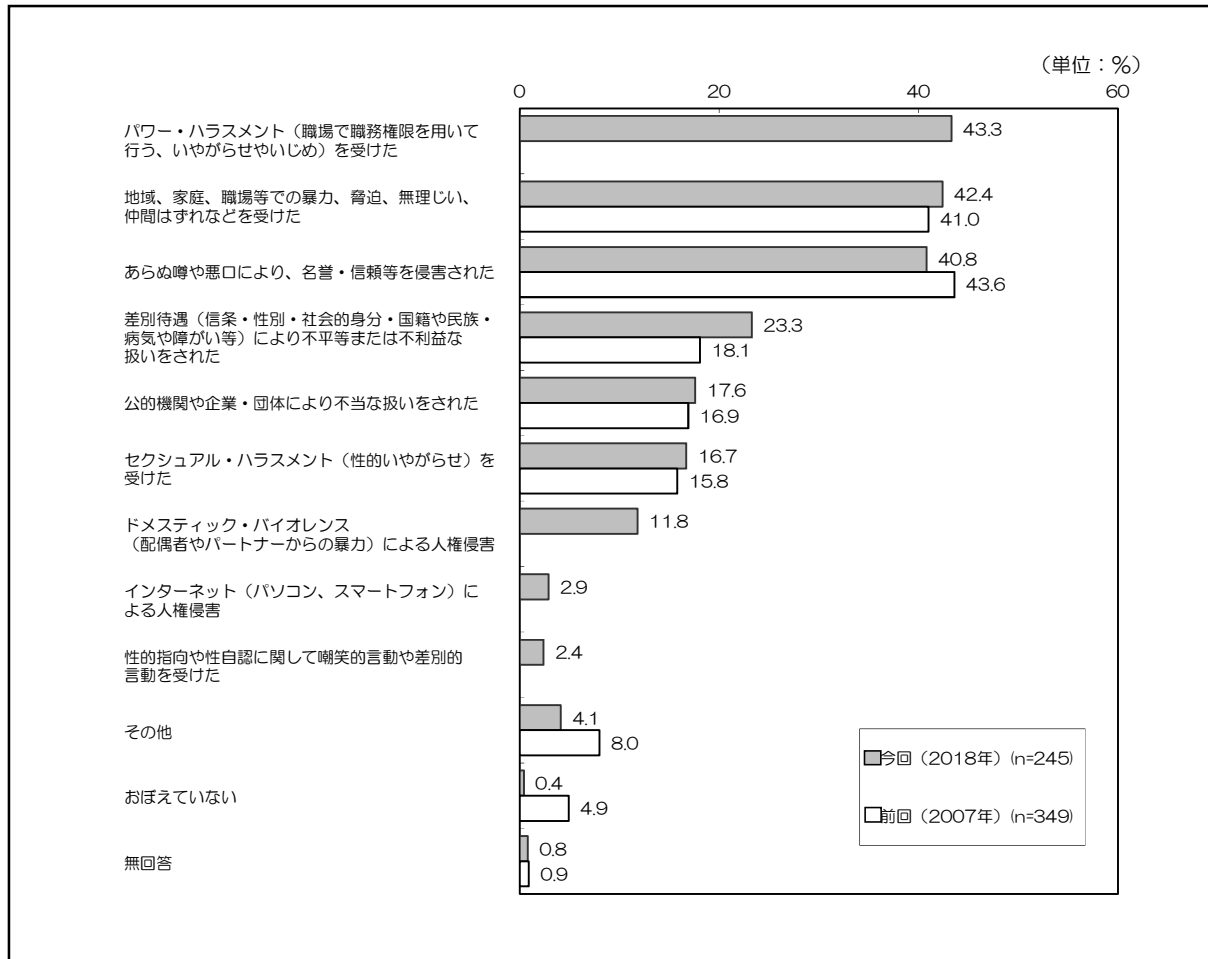


前回調査より「ある」が 4.4 ポイント増加して 24.5%となっている。内閣府調査と比較しても、人権侵害の被経験率は高くなっている。

性別で見ると、男性より女性の方が「ある」とした人の割合は 9.0 ポイント高く、29.2%となっている。

1-6 受けた人権侵害の内容

問5-1 どのような人権侵害でしたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)



■比較表

(単位：%)

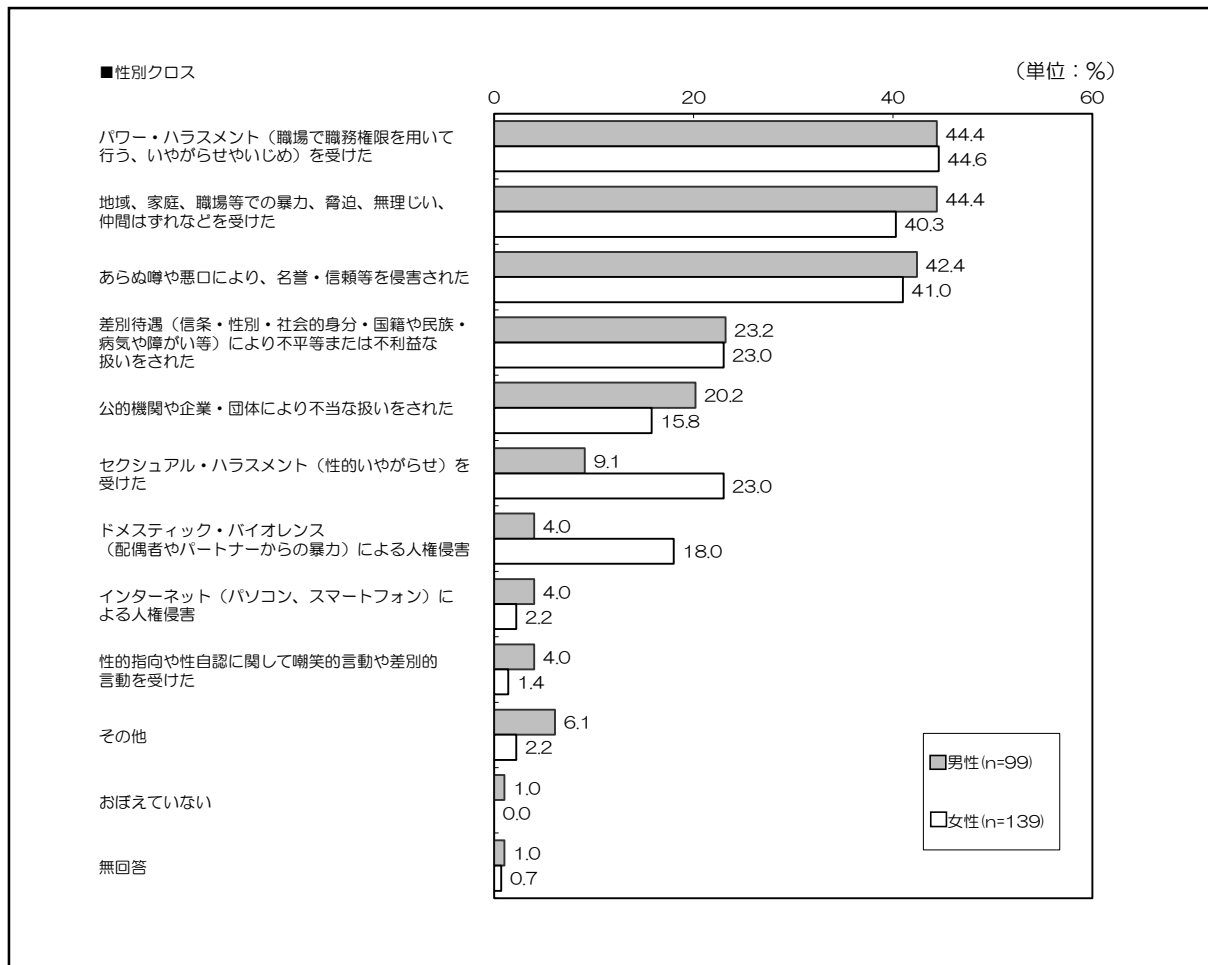
	サンプル数	いやがらせやいじめを受けた	職場での嫌がらせ	使用者による時間外労働の強制等の不当な待遇	仲間はずれなどを受けた	地域、家庭、職場等での暴力、脅迫、無理しい、	地域社会での嫌がらせ	あらゆる噂や悪口により、名誉・信頼等を侵害された	名譽・信用のき損、侮辱	差別待遇(信条・性別・社会的身分・国籍や民族・病気や障がい等)により不平等または不利益な扱いをされた	公的機関や企業・団体により不当な扱いをされた	警察官等の公務員からの不当な取扱い	社会福祉施設等での施設職員からの不当な取扱い	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けた	暴力による人権侵害	ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)	インターネット(パソコン、スマートフォン)による人権侵害	性的指向や性自認に関して嘲笑的言動や差別的言動を受けた	プライバシーを侵害された	学校でのいじめ	悪臭・騒音等の公害	暴力、脅迫、強要(社会的地位、権限、脅迫等により、本来業務のないことをやらされたり、権利の行使を妨害された)	児童虐待	その他	おぼえていない	なんとなく	答えたくない	無回答
今回(2018年)	245	43.3	-	-	42.4	-	40.8	-	23.3	17.6	-	-	16.7	11.8	2.9	2.4	-	-	-	-	-	-	4.1	0.4	-	-	0.8	
前回(2007年)	349	-	-	-	41.0	-	43.6	-	18.1	16.9	-	-	15.8	-	-	-	-	-	20.1	-	-	-	8.0	4.9	-	-	0.9	
内閣府(2017年)	279	-	26.2	12.5	-	4.3	51.6	21.1	9.3	-	10.0	1.8	5.4	3.2	-	-	-	19.4	21.1	11.5	5.7	1.8	4.7	-	1.4	1.8		

■クロス表

(単位：%)

		サンプル数	いやがらせやいじめを受けた	職場での嫌がらせ	仲間はずれなどを受けた	地域、家庭、職場等での暴力、脅迫、無理しい、	あらゆる噂や悪口により、名誉・信頼等を侵害された	差別待遇(信条・性別・社会的身分・国籍や民族・病気や障がい等)により不平等または不利益な扱いをされた	公的機関や企業・団体により不当な扱いをされた	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けた	暴力による人権侵害	ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)	インターネット(パソコン、スマートフォン)による人権侵害	性的指向や性自認に関して嘲笑的言動や差別的言動を受けた	その他	おぼえていない	無回答
全体		245	43.3	42.4	40.8	23.3	17.6	16.7	11.8	2.9	2.4	4.1	0.4	0.8			
性別	男性	99	44.4	44.4	42.4	23.2	20.2	9.1	4.0	4.0	4.0	6.1	1.0	1.0			
	女性	139	44.6	40.3	41.0	23.0	15.8	23.0	18.0	2.2	1.4	2.2	0.0	0.7			
	回答しない	5	0.0	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0			
年齢別	10歳代・20歳代	20	50.0	45.0	45.0	20.0	15.0	20.0	15.0	15.0	0.0	5.0	0.0	0.0			
	30歳代	25	44.0	36.0	40.0	28.0	12.0	24.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0			
	40歳代	51	49.0	43.1	39.2	21.6	13.7	23.5	11.8	2.0	5.9	5.9	2.0	0.0			
	50歳代	49	55.1	36.7	36.7	24.5	22.4	22.4	16.3	2.0	2.0	2.0	0.0	2.0			
	60歳代	55	40.0	50.9	43.6	21.8	16.4	10.9	9.1	1.8	0.0	5.5	0.0	0.0			
	70歳以上	43	25.6	37.2	41.9	25.6	23.3	4.7	9.3	2.3	2.3	4.7	0.0	2.3			

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い



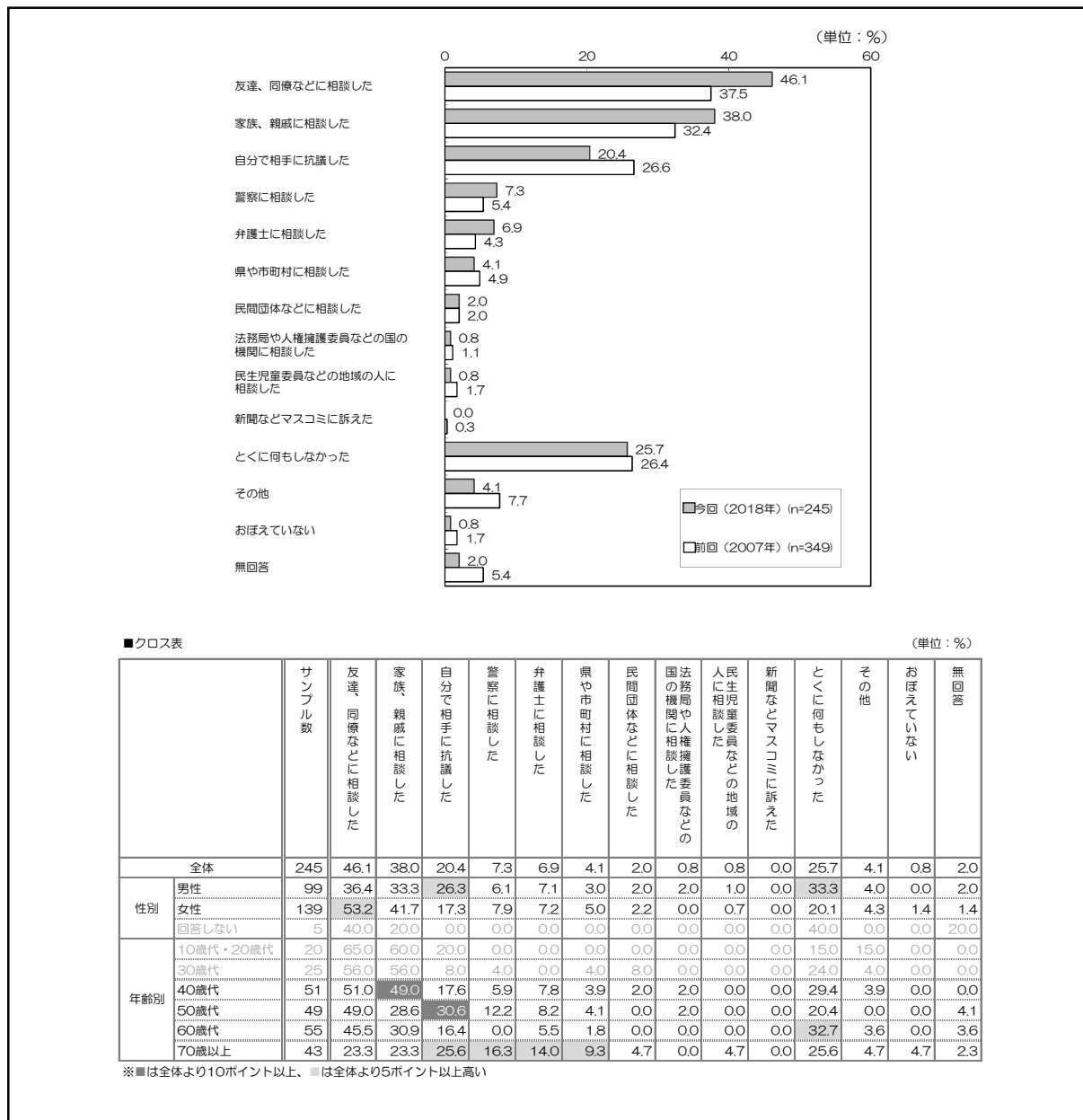
今回調査から選択肢に加えた「パワー・ハラスメント(43.3%)」がトップ。前回同様、「地域、家庭、職場等での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれなどを受けた(42.4%)」「あらぬ噂や悪口により、名誉・信頼等を侵害された(40.8%)」が4割以上で高い。「差別待遇により不平等または不利益な扱いをされた」が前回より 5.2 ポイント増加し、23.3%となっている。

性別でみると、「セクシュアル・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス」は、女性で高くなっている。

年齢別にみると、「パワー・ハラスメント」「セクシュアル・ハラスメント」は 40～50 歳代で、「地域、家庭、職場等での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれなどを受けた」は 60 歳代で、「公的機関や企業・団体より不当な扱いをされた」は 50 歳代および 70 歳以上で高くなっている。

1-7 人権侵害を受けた際の対応

問5-2 人権侵害を受けたとき、どうされましたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)



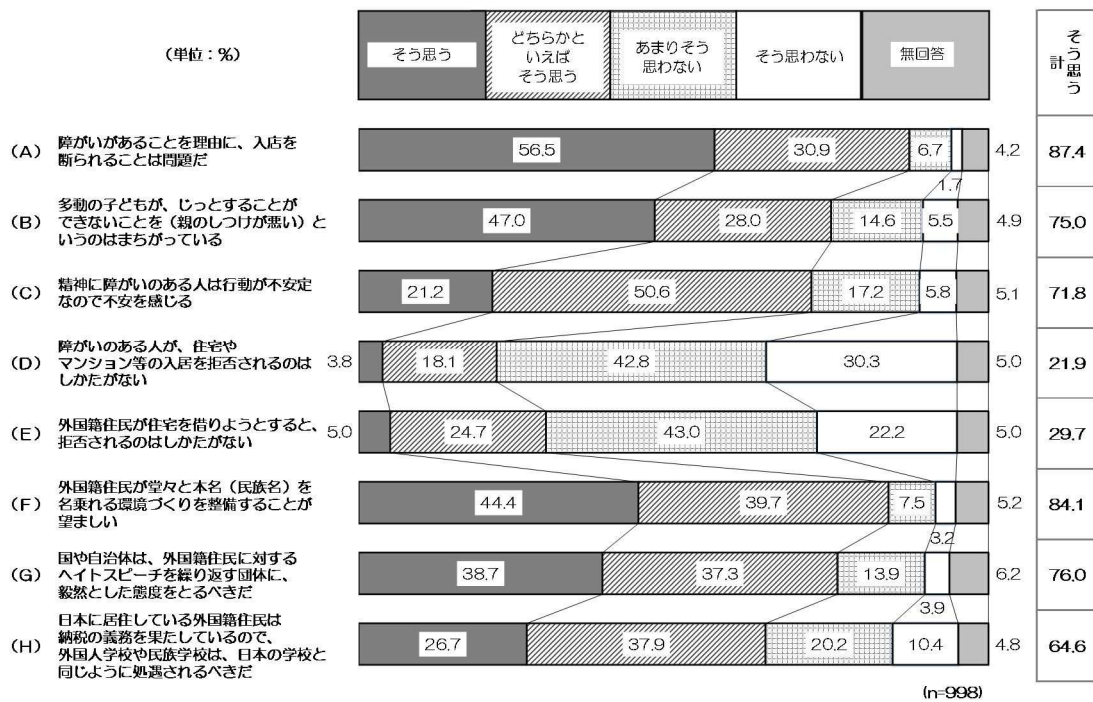
前回調査より「友達、同僚などに相談した(46.1%)」「家族、親戚に相談した(38.0%)」が増加し、「自分で相手に抗議した(20.4%)」が減少している。

性別で見ると、男性は「自分で相手に抗議」「とくに何もしなかった」が、女性は「友達、同僚」「家族、親戚」に相談した割合が高い。

年齢別にみると、70歳以上は「自分で相手に抗議した」が高いが、一方で「警察」「弁護士」「県や市町村」など、相談先が多岐に渡る。

1-8 障がいのある人・外国籍住民の人権についての考え

問6 2016年に障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法ができました。障がいのある人
の人権、外国籍住民の人権に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。
あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)



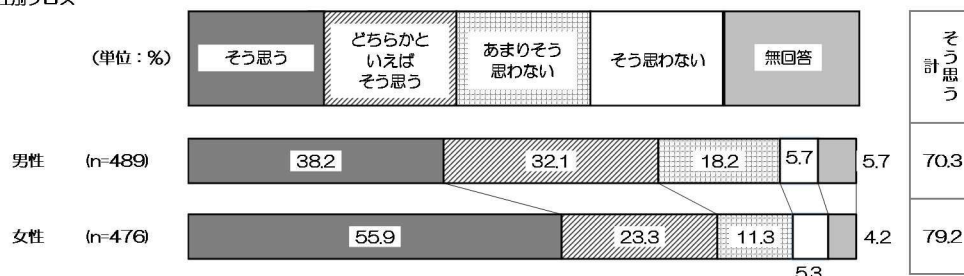
■参考 前回(2007年)

(単位：%)

	サンプル数	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	無回答
(C) 精神に障がいのある人は行動が不安定なので、常に不安を感じる	1737	58.1	29.2	7.9	4.8
(D) 障がいのある人が、住宅やマンション等の入居を拒否されるのはしかたがない	1737	9.4	45.4	40.6	4.5
(E) 外国人だからという理由で、住宅やマンション等への入居を断る家主や不動産業者がいてもしかたがない	1737	11.3	43.8	40.5	4.4
(F) 外国人は、通称名(日本名)を使用した方がさしさわりなく日本で生活することができる	1737	12.0	38.1	45.4	4.5
(H) 日本に居住している外国人は納税の義務を果たしているので、外国人学校や民族学校は、私学と同じように認められるべきだ	1737	63.8	27.7	3.9	4.7

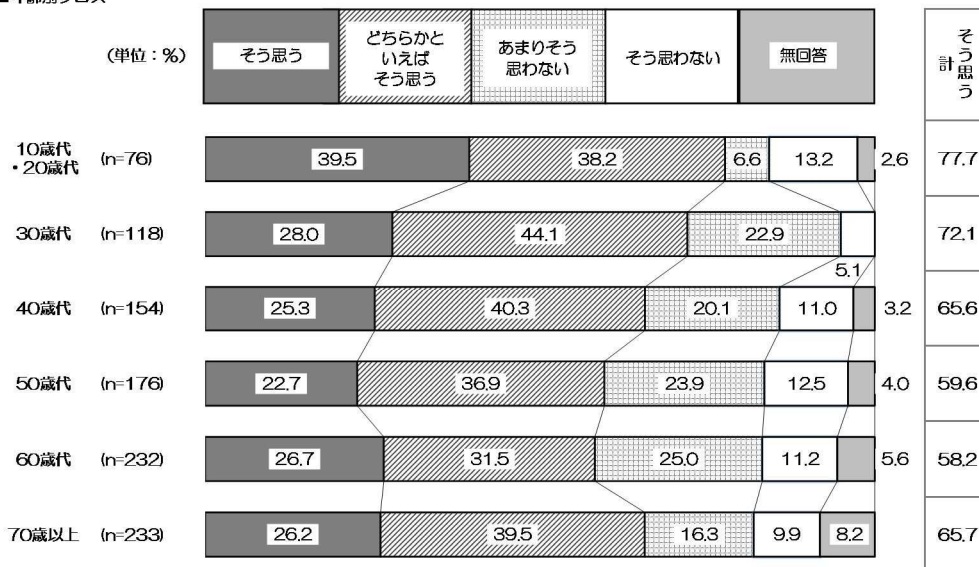
(B) 多動の子どもが、じっとすることができないことを（親のしつけが悪い）というのはまちがっている

■性別クロス



(H) 日本に居住している外国籍住民は納税の義務を果たしているのに、外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ

■年齢別クロス



「(A)障がいがあることを理由に、入店を断られることは問題だ(87.4%)」「(F)外国籍住民が堂々と本名を名乗れる環境づくりを整備することが望ましい(84.1%)」で、「そう思う」計が8割以上で上位。

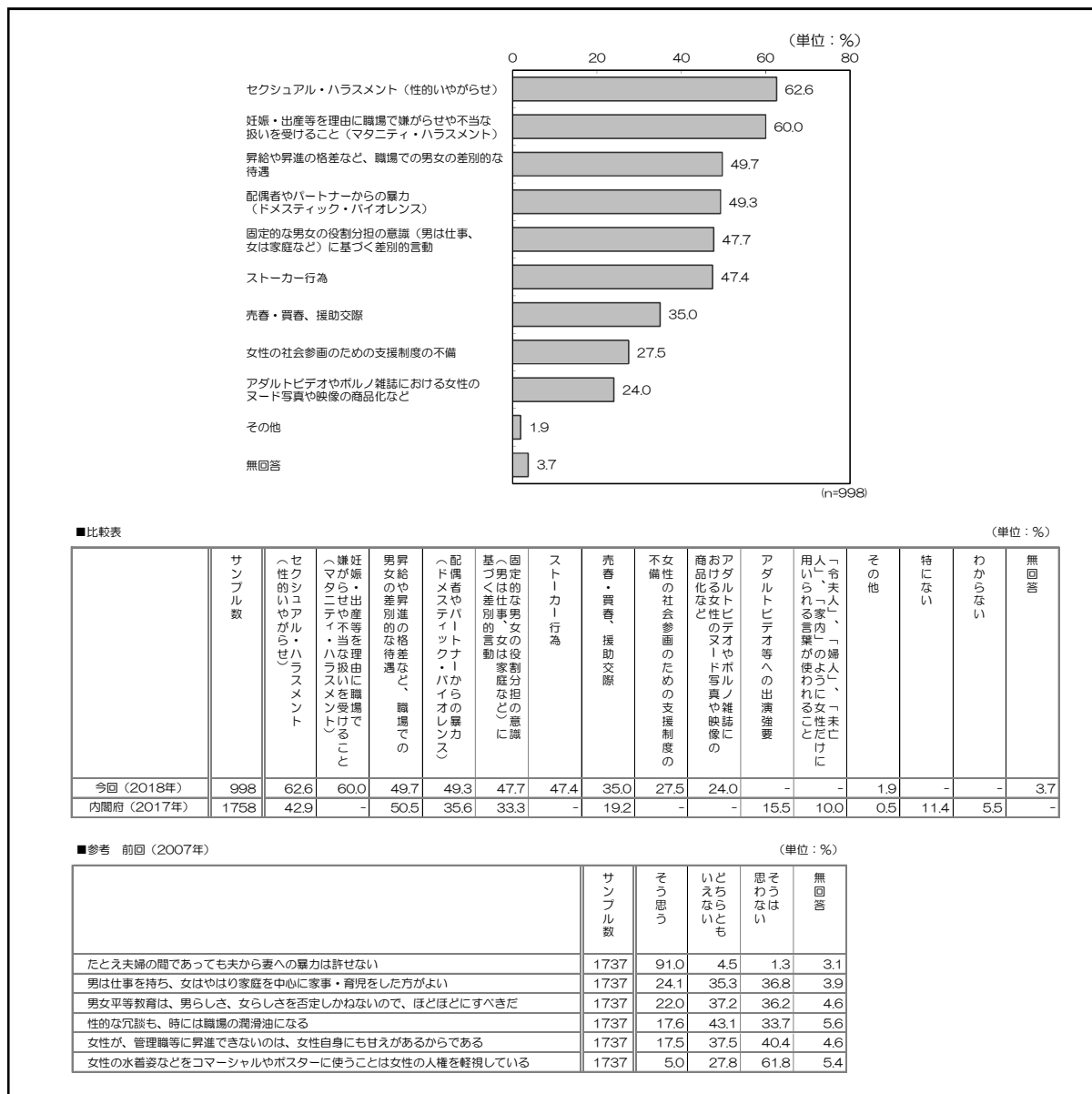
「(B)多動の子どもが、じっとすることができないことを（親のしつけが悪い）というのはまちがっている」を性別で見ると、女性が男性より「そう思う」計が8.9ポイント高い。

「(H)日本に居住している外国籍住民は納税の義務を果たしているのに、外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ」を年齢別にみると、10歳代・20歳代～30歳代で支持が高く、年配層ほど支持が低い傾向。

2. さまざまな人権問題について

2-1 女性の人権についての問題意識

問7 女性の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)



■比較表

	サンプル数	セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)	妊娠・出産等を理由に職場で嫌がらせや不当な扱いを受けること (マタニティ・ハラスメント)	昇給や昇進の格差など、職場での男女の差別的な待遇	配偶者やパートナーからの暴力 (ドメスティック・バイオレンス)	固定的な男女の役割分担の意識に基づく差別的言動 (男は仕事、女は家庭など) に	ストーカー行為	売春・買春、援助交際	女性の社会参画のための支援制度の不備	アダルトビデオやポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など	アダルトビデオ等への出演強要	用いられる言葉が使われること	「令夫人」、「婦人」、「未亡人」、「家内」のように女性だけに	その他	特にな	わからない	無回答
今回 (2018年)	998	62.6	60.0	49.7	49.3	47.7	47.4	35.0	27.5	24.0	-	-	1.9	-	-	-	3.7
内閣府 (2017年)	1758	42.9	-	50.5	35.6	33.3	-	19.2	-	-	15.5	10.0	0.5	11.4	5.5	-	-

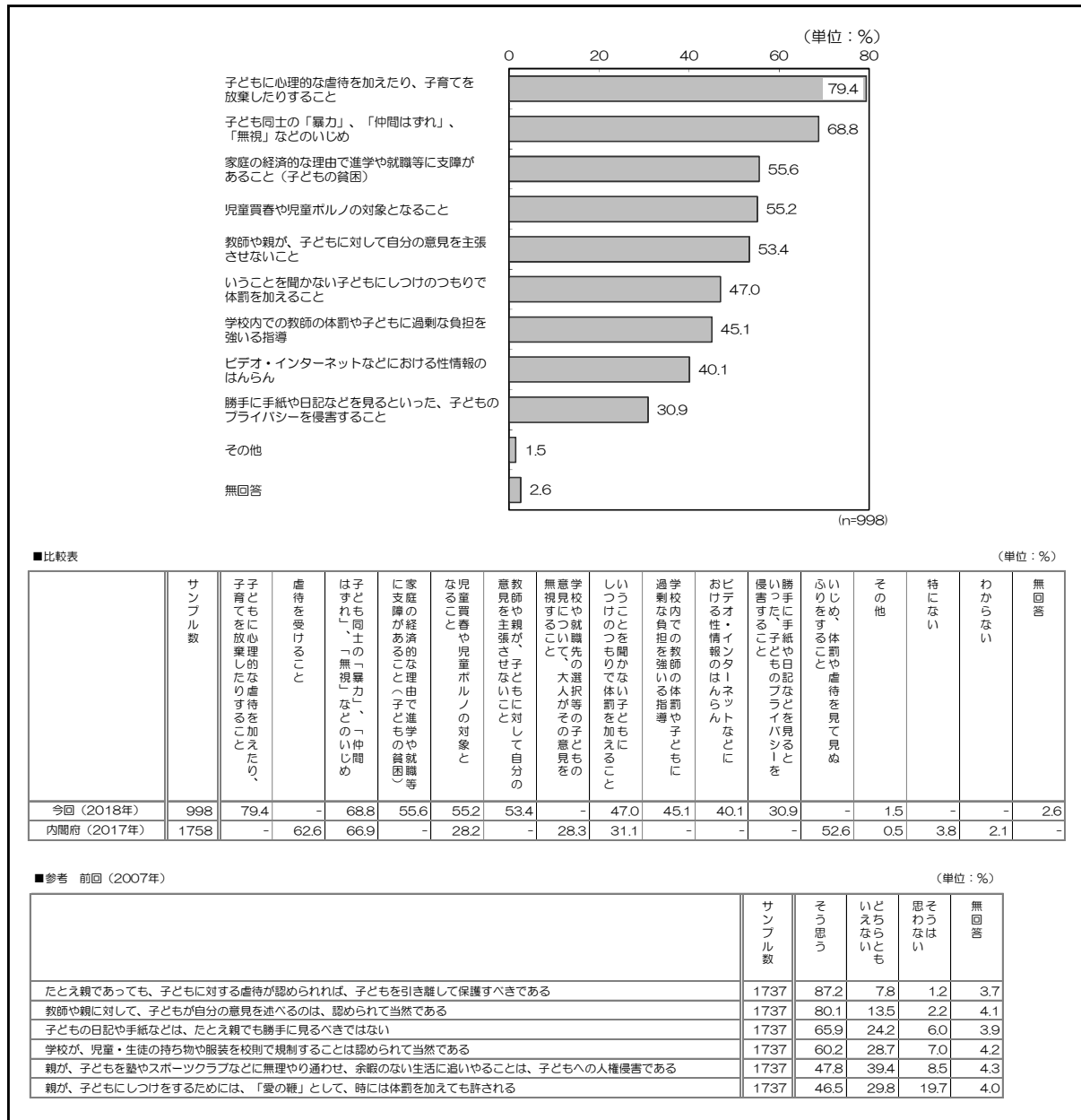
■参考 前回 (2007年)

	サンプル数	そう思う	いえらな	思わな	無回答
たとえ夫婦の間であっても夫から妻への暴力は許せない	1737	91.0	4.5	1.3	3.1
男は仕事を持ち、女はやはり家庭を中心に家事・育児をした方がよい	1737	24.1	35.3	36.8	3.9
男女平等教育は、男らしさ、女らしさを否定しかねないので、ほどほどにすべきだ	1737	22.0	37.2	36.2	4.6
性的な冗談も、時には職場の潤滑油になる	1737	17.6	43.1	33.7	5.6
女性が、管理職等に昇進できないのは、女性自身にも甘えがあるからである	1737	17.5	37.5	40.4	4.6
女性の水着姿などをコマーシャルやポスターに使うことは女性の人権を軽視している	1737	5.0	27.8	61.8	5.4

「セクシュアル・ハラスメント」が内閣府調査に比べて高くなっており、今回調査では 62.6%でトップで次いで、「マタニティ・ハラスメント(60.0%)」となっている。内閣府調査では「職場での男女の差別的な待遇(50.5%)」がトップで「セクシュアル・ハラスメント(42.9%)」が続く。

2-2 子どもの人権についての問題意識

問8 子どもの人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

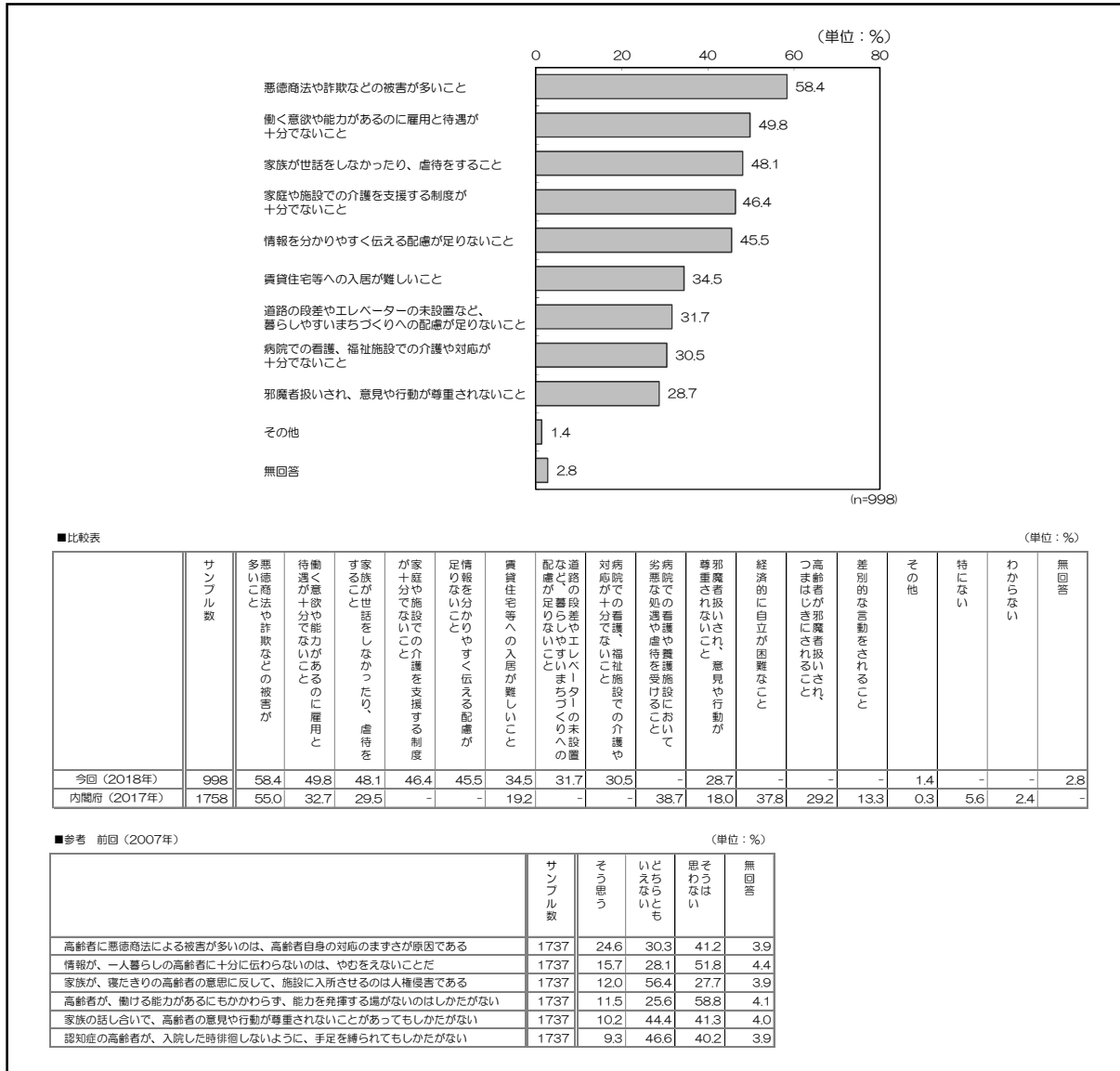


今回調査では「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること(79.4%)」がトップで、「子ども同士のいじめ(68.8%)」が続く。

内閣府調査では、「子ども同士のいじめ(66.9%)」「虐待を受けること(62.6%)」が上位。

2-3 高齢者の人権についての問題意識

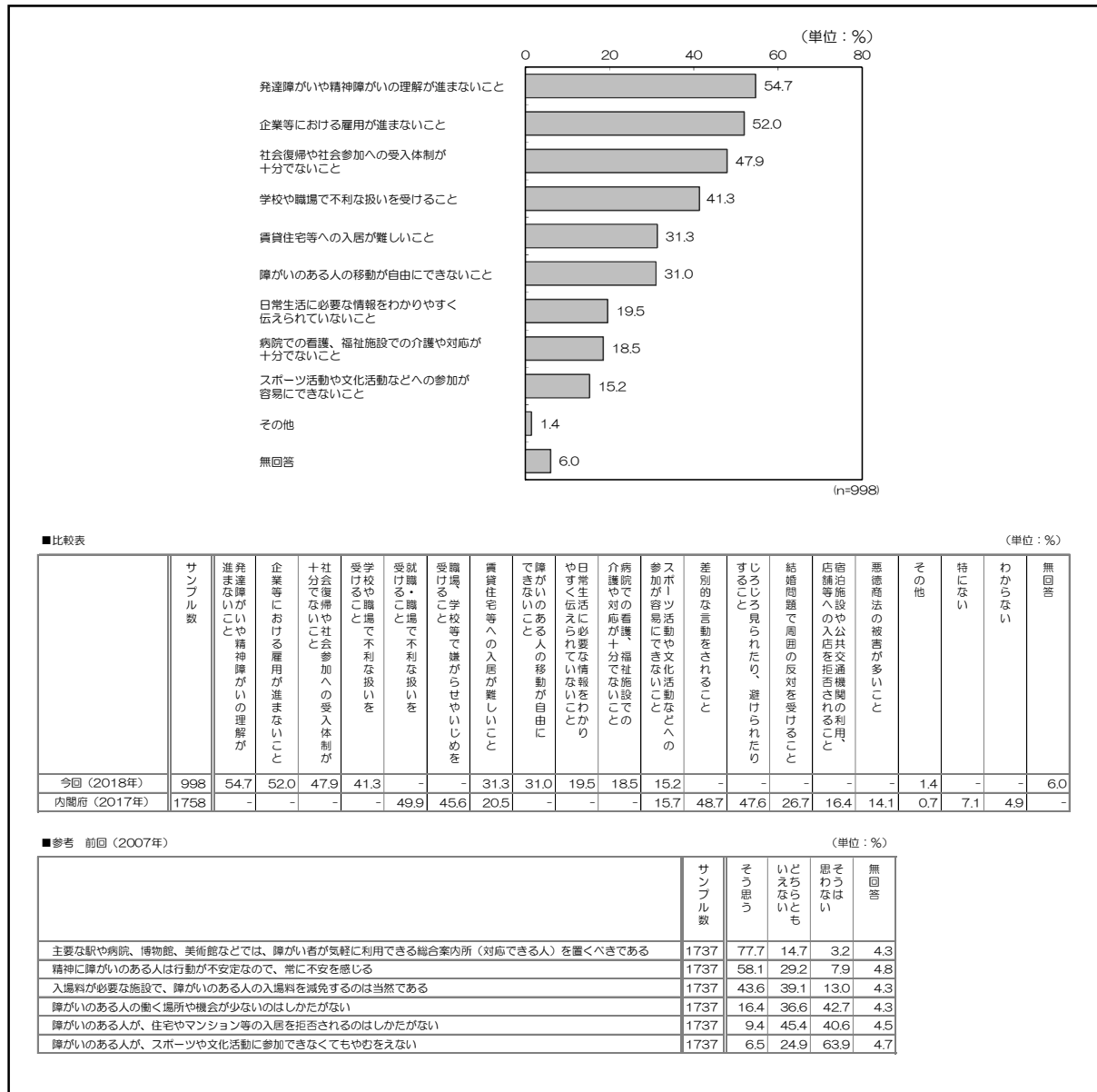
問9 高齢者の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)



今回調査、内閣府調査とも、「悪徳商法や詐欺などの被害が多いこと」がトップで、スコアも大きく変わらない。

2-4 障がいのある人の人権についての問題意識

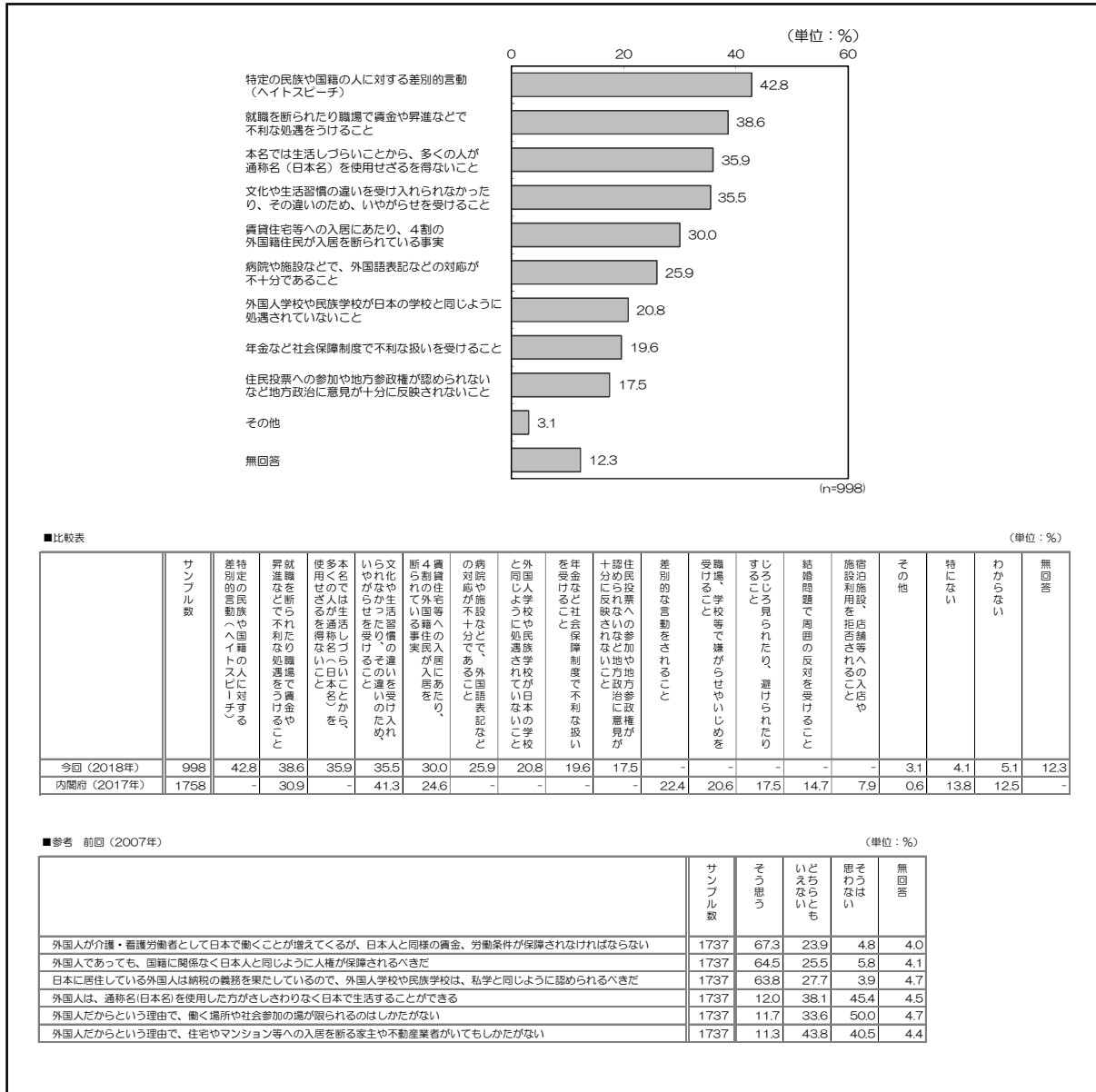
問10 障がいのある人の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



今回調査では、「発達障がいや精神障がいの理解が進まないこと」(54.7%)、「企業等における雇用が進まないこと」(52.0%)が5割台で上位。内閣府調査では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(49.9%)がトップである。

2-5 外国籍住民の人権についての問題意識

問11 日本に居住している外国籍住民の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



■比較表

(単位: %)

	サンプル数	差別的言動(ヘイトスピーチ)	就職を断られたり職場で資金や昇進などで不利な処遇をうけること	本名では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないこと	文化や生活習慣の違いを受け入れられなかったり、その違いのため、いやがらせを受けること	賃貸住宅等への入居にあたり、4割の外国籍住民が入居を断られている事実	病院や施設などで、外国語表記などの対応が不十分であること	外国人学校や民族学校が日本の学校と同じように処遇されていないこと	年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること	住民投票への参加や地方参政権が認められないなど地方政治に意見が十分に反映されないこと	差別的な言動をされること	就職を断られたり職場で資金や昇進などで不利な処遇をうけること	すしや焼肉店などで、いやがらせやいじめを受けること	結婚問題で周囲の反対を受けること	施設利用を拒否されること	その他	特になし	わからない	無回答
今回(2018年)	998	42.8	38.6	35.9	35.5	30.0	25.9	20.8	19.6	17.5	-	-	-	-	-	3.1	4.1	5.1	12.3
内閣府(2017年)	1758	-	30.9	-	41.3	24.6	-	-	-	-	22.4	20.6	17.5	14.7	7.9	0.6	13.8	12.5	-

■参考 前回(2007年)

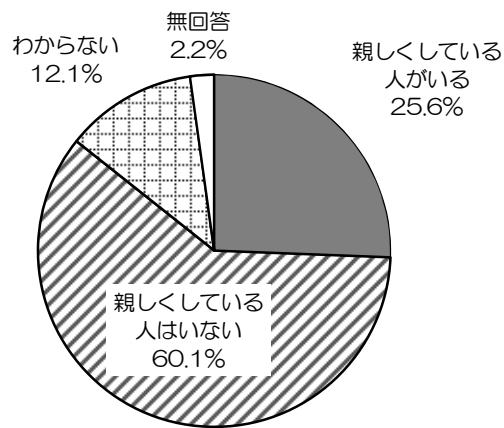
(単位: %)

	サンプル数	そう思う	いえなとも	思わない	無回答
外国人が介護・看護労働者として日本で働くことが増えてくるが、日本人と同様の賃金、労働条件が保障されなければならない	1737	67.3	23.9	4.8	4.0
外国人であっても、国籍に関係なく日本人と同じように人権が保障されるべきだ	1737	64.5	25.5	5.8	4.1
日本に居住している外国人は納税の義務を果たしているので、外国人学校や民族学校は、私学と同じように認められるべきだ	1737	63.8	27.7	3.9	4.7
外国人は、通称名(日本名)を使用した方がさしずわりなく日本で生活することができる	1737	12.0	38.1	45.4	4.5
外国人だからという理由で、働く場所や社会参加の場が限られるのはしかたがない	1737	11.7	33.6	50.0	4.7
外国人だからという理由で、住宅やマンション等への入居を断る家主や不動産業者がいてもしかたがない	1737	11.3	43.8	40.5	4.4

今回調査では、「ヘイトスピーチ」が 42.8%でトップ。内閣府調査では、「文化や生活習慣の違い」が 41.3%でトップ。

2-6 親しくしている外国人の有無

問12 あなたが、親しくしている人の中に外国人はいますか。(〇は1つだけ)



(n=998)

■比較表

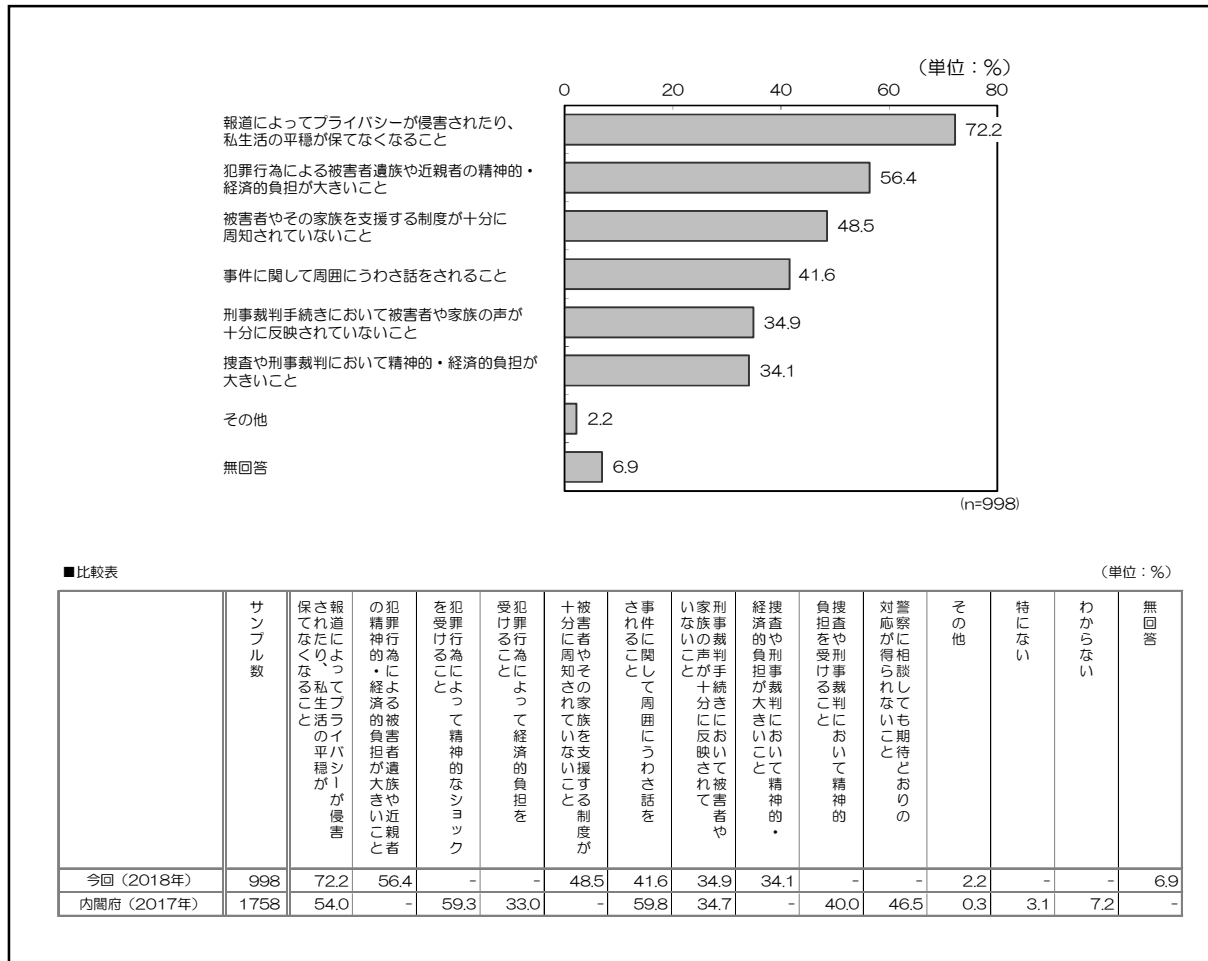
(単位：%)

	サンプル数	親しくしている人がいる	親しくしていない	わからない	無回答
今回 (2018年)	998	25.6	60.1	12.1	2.2
前回 (2007年)	1737	29.4	44.5	21.2	4.8

※前回は、「外国籍住民や『同和地区』住民に親しくしている友人はいますか」で聴取。

2-7 犯罪被害者の人権についての問題意識

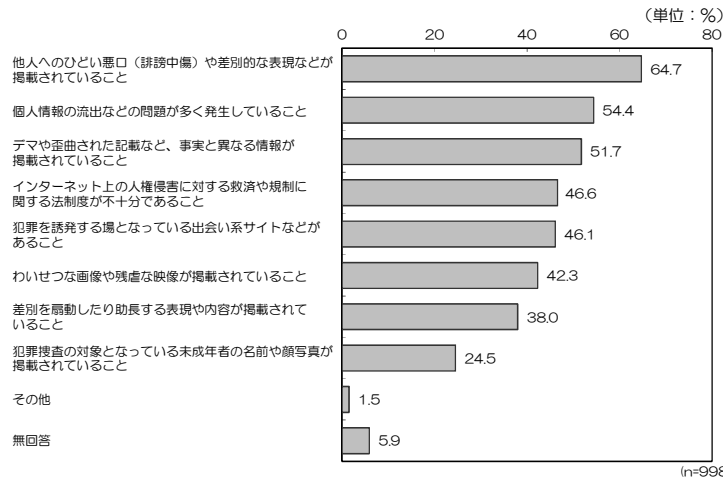
問13 犯罪被害者の方やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



今回調査でトップの「報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなる」は、内閣府調査より18.2ポイント高く、72.2%となっている。一方、内閣府でトップの「事件に関して周囲にうわさ話をされること」は、内閣府調査より18.2ポイント低く、41.6%で4位。

2-8 インターネットを悪用した人権侵害についての問題意識

問14 インターネット（ホームページ、ブログ、メール、SNSなど）を悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）



■比較表

	サンプル数	他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などが掲載されていること	個人情報の流出などの問題が多く発生していること	デマや歪曲された記載など、事実と異なる情報が掲載されていること	インターネット上の人権侵害に対する救済や規制に関する法制度が不十分であること	犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること	誘発する場となっていること	わいせつな画像や残虐な映像が掲載されていること	ネットポルノが存在していること	差別を扇動したり助長する表現や内容が掲載されていること	顔写真が掲載されていること	犯罪捜査の対象となっている未成年者の名前や顔写真が掲載されていること	プライバシーに関する情報が掲載されること	リベンジポルノ（元交際相手などの性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、インターネットの掲示板などに公表する行為）が行われていること	その他	特になし	わからない	無回答
今回（2018年）	998	64.7	54.4	51.7	46.6	46.1	-	42.3	-	38.0	24.5	-	-	-	1.5	-	-	5.9
内閣府（2017年）	1758	62.9	-	-	-	-	49.0	-	30.0	39.6	32.0	53.4	32.5	0.2	3.1	14.9	-	-

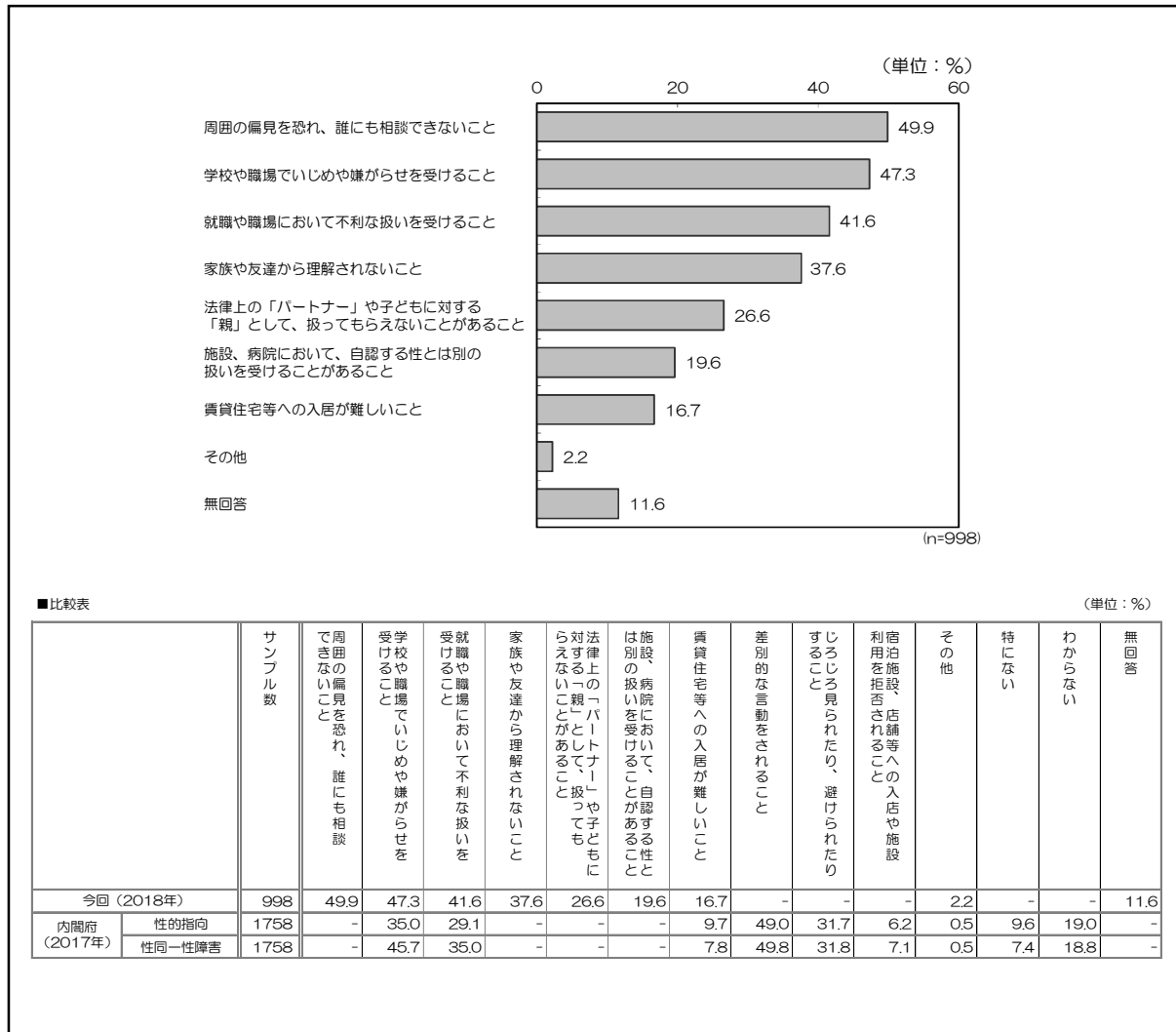
■参考 前回（2007年）

	サンプル数	そう思う	どちらともいえない	そうはない	無回答
名前や顔写真など無断で掲載するのはプライバシーの侵害になる	1737	88.5	4.8	1.5	5.2
インターネットに掲載されていることは真実とは限らないのでみきわめが必要だ	1737	86.6	6.7	1.1	5.6
インターネットへの書き込みで人権を侵害した場合、法により取り締まるべきだ	1737	86.5	7.5	0.7	5.3
ネットポルノなど違法・有害なホームページの存在が犯罪につながると思う	1737	81.2	10.5	3.0	5.4
インターネット取引は個人情報が悪用されるおそれがある	1737	76.7	16.3	1.6	5.4
インターネットへの書き込みはどのような内容であっても表現の自由で保障されるべきである	1737	8.8	20.8	64.7	5.7

今回調査、内閣府調査とも、「他人へのひどい悪口や差別的な表現などが掲載されている」が6割強でトップとなっている。

2-9 性的マイノリティ（少数者）の人権についての問題意識

問15 性的マイノリティ（少数者）の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

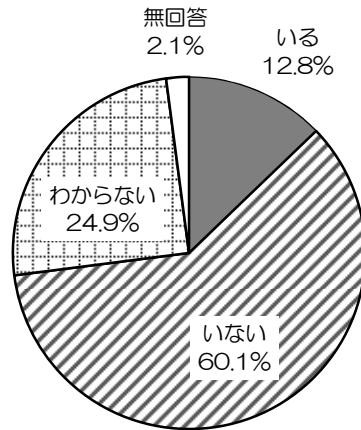


今回調査では「周囲の偏見を恐れ、誰にも相談できないこと(49.9%)」がトップ、次いで「学校や職場でいじめや嫌がらせを受けること(47.3%)」となっている。

内閣府調査では、性的指向と性同一性障害を分けて聴取されているが、ともに「差別的な言動をされること」がトップ。

2-10 性的マイノリティ（少数者）の友人・知人の有無

問16 あなたのお知り合いや友人の中に性的マイノリティ（少数者）の人はいますか。（○は1つだけ）



(n=998)

■クロス表

(単位：%)

		サンプル数	いる	いない	わからない	無回答
全体		998	12.8	60.1	24.9	2.1
年齢別	10歳代・20歳代	76	34.2	35.5	30.3	0.0
	30歳代	118	23.7	47.5	28.8	0.0
	40歳代	154	15.6	51.9	29.9	2.6
	50歳代	176	15.9	61.4	21.6	1.1
	60歳代	232	8.2	66.8	23.7	1.3
	70歳以上	233	1.3	72.5	21.5	4.7

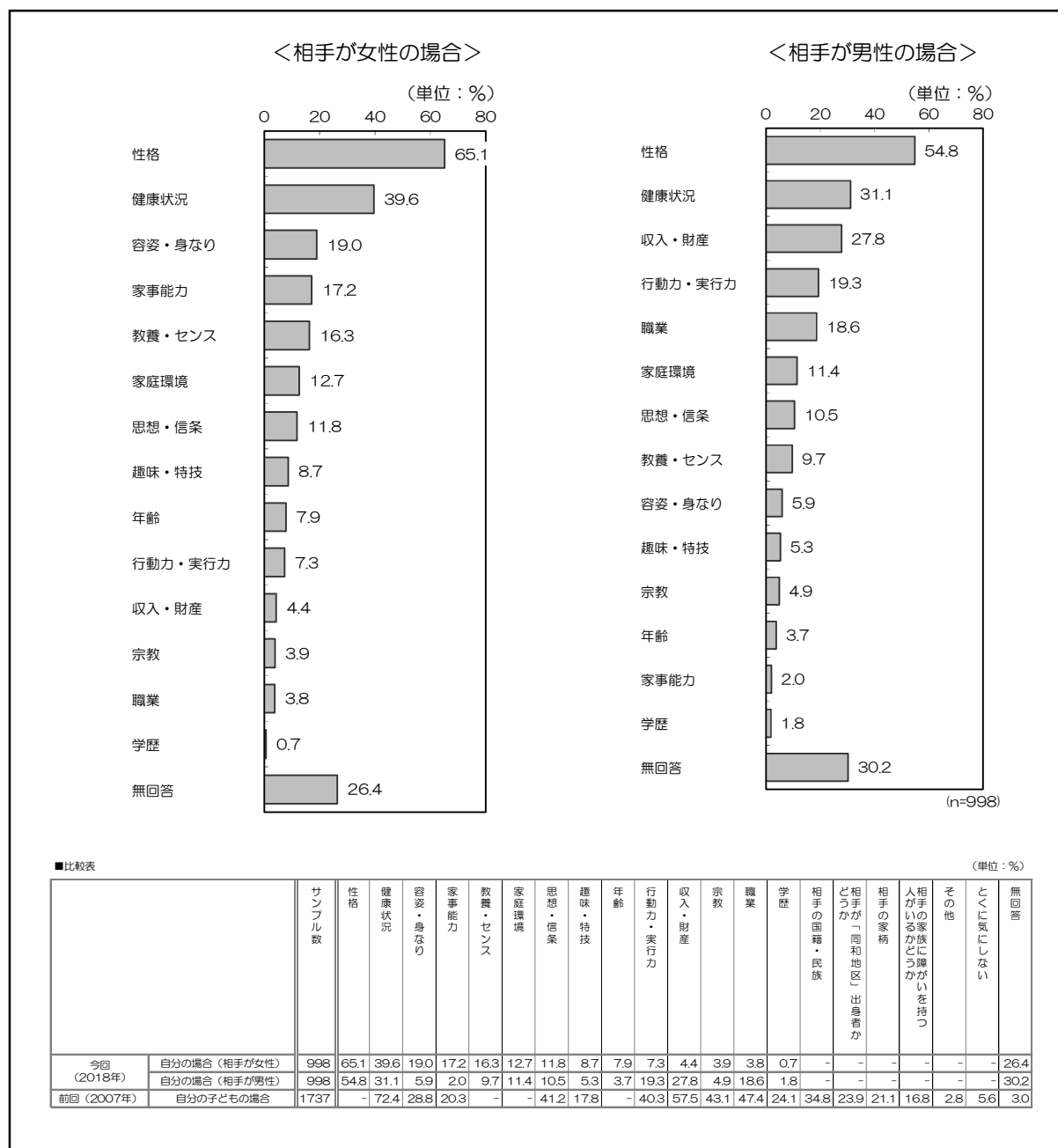
※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

性的マイノリティ(少数者)の友人・知人は、若年層ほど「いる」とした人が多く、全体で1割強なのに対し、10歳代・20歳代では3割を超えている。

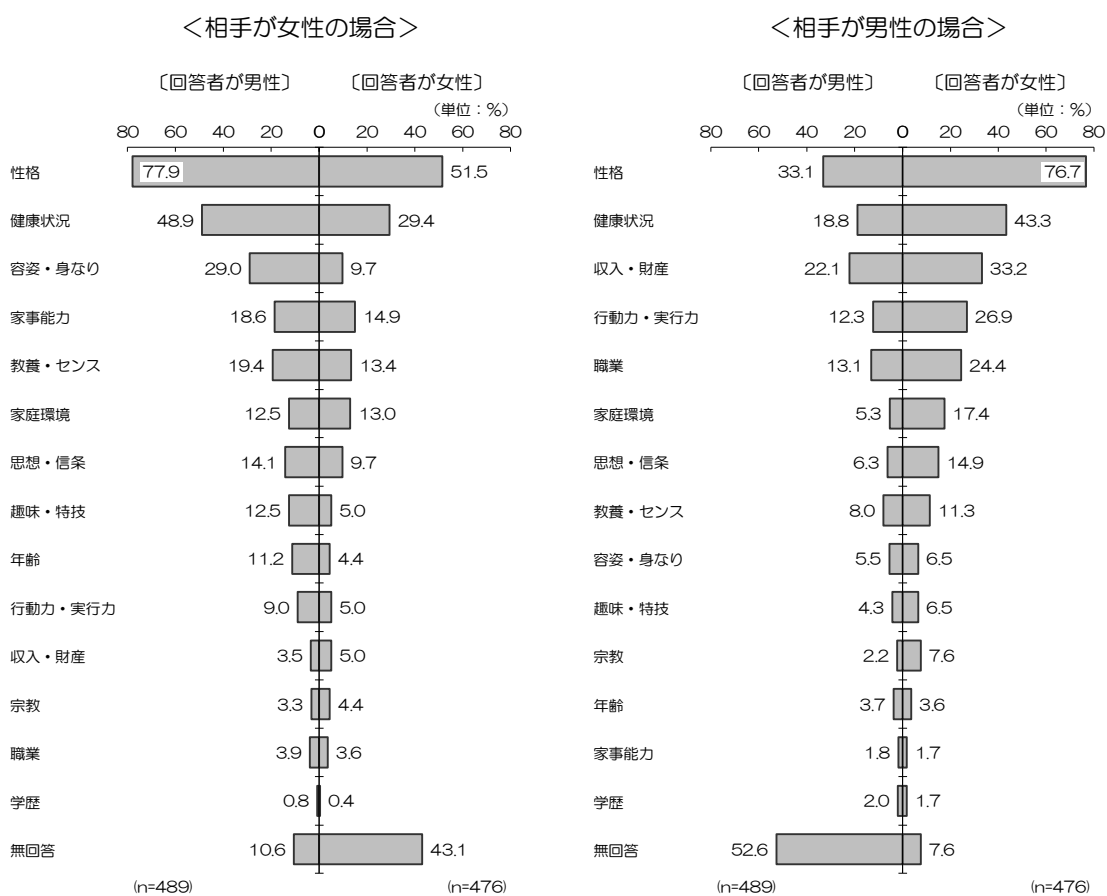
3. 結婚について

3-1 結婚相手として重視する条件

問17 あなたがもし結婚するとして、結婚相手としてどのような条件を重視しますか。相手が女性の場合、男性の場合について、とくに重要だと思うものをそれぞれ3つ選んで、()内に番号をご記入ください。(それぞれ3つまで)



■性別クロス



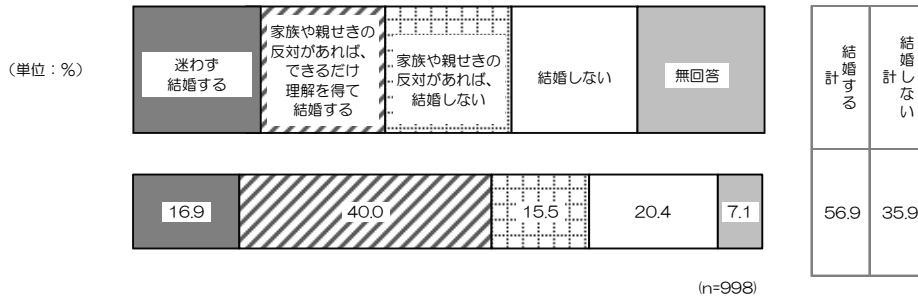
相手が女性の場合では、「容姿・身なり」「家事能力」「教養・センス」が重視され、相手が男性の場合では「収入・財産」「行動力・実行力」「職業」が重視される。

性別で見ると、相手が女性の場合では、男性の方が「性格」「健康状況」「容姿・身なり」を重視している。相手が男性の場合では、女性の方が「性格」「健康状況」「収入・財産」「行動力・実行力」「職業」「家庭環境」を重視している。

3-2 結婚差別の有無

問17-1 問17で選んだ条件を満たしている人が現れたとして、次のような人であった場合、あなたはどうされますか。あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。
(○はそれぞれ1つずつ)

(A) 部落出身者(同和地区出身者)



■参考 前回(2007年)

Q. 結婚しようと思っていた相手が「同和地区」出身とわかり、結婚をやめようとしてもしかたがない

(単位：%)

サンプル数	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	無回答
1737	14.9	46.8	33.0	5.2

■参考 前回(2007年)

Q. 現在、「同和地区」の人たちは、結婚する際に反対されることがあると思いますか。

(単位：%)

サンプル数	ことばがあれば反対される	こたまに反対される	反対されることはない	わからない	無回答
1737	16.3	30.0	7.8	32.5	13.4

■クロス表 [A] 部落出身者（同和地区出身者）

（単位：％）

		サンプル数	迷わず結婚する	あ家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する	あ家族や親せきの反対があれば、結婚しない	結婚しない	無回答
全体		998	16.9	40.0	15.5	20.4	7.1
年齢別	10歳代・20歳代	76	23.7	50.0	13.2	11.8	1.3
	30歳代	118	24.6	42.4	19.5	12.7	0.8
	40歳代	154	22.7	44.2	14.3	16.2	2.6
	50歳代	176	24.4	40.9	11.9	19.3	3.4
	60歳代	232	10.3	38.4	19.0	25.0	7.3
	70歳以上	233	7.7	34.3	15.0	26.6	16.3
部落差別 学習別	小学校で学んだ	273	23.8	43.6	16.1	14.3	2.2
	中学校で学んだ	216	20.4	42.1	16.2	18.5	2.8
	高等・高等専修学校で学んだ	109	27.5	41.3	11.0	17.4	2.8
	短大・大学・専門学校で学んだ	22	45.5	31.8	9.1	13.6	0.0
	はっきりと覚えていない	286	11.2	43.0	18.2	21.0	6.6
	学校で学んだ経験はない	239	13.4	34.3	13.8	28.5	10.0
外国人の 友人・知人の 有無	親しくしている人がいる	255	29.4	38.0	12.5	16.1	3.9
	親しくしている人はいない	600	12.5	41.8	16.0	23.2	6.5
	わからない	121	14.0	38.8	19.8	18.2	9.1
性的 マイノリティの 友人・知人の 有無	知り合いの中にいる	128	29.7	46.9	10.2	10.9	2.3
	知り合いの中にいない	600	12.7	39.8	16.5	24.8	6.2
	わからない	249	20.9	37.8	16.1	16.1	9.2
部落出身の 友人・知人の 有無	親しくしている人がいる	154	31.2	47.4	5.2	9.1	7.1
	親しくしている人はいない	300	6.3	34.3	21.0	31.7	6.7
	わからない	528	18.9	41.9	15.9	17.6	5.7

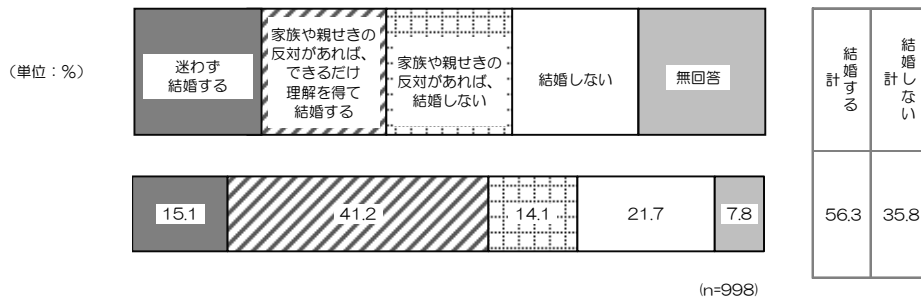
※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

今回調査では、「(A)部落出身者(同和地区出身者)」で「迷わず結婚する」は16.9%、「家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」は40.0%で、「結婚する」計は56.9%と半数以上。一方、「結婚しない」は20.4%、「家族や親せきの反対があれば、結婚しない」は15.5%で、「結婚しない」計は35.9%となっている。

部落出身者(同和地区出身者)との結婚について年齢別にみると、50歳代以下では「結婚する」が2割台、「家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」が4～5割と高く、結婚に前向きといえる。70歳以上では、「迷わず結婚する」は7.7%と特に低い。

部落差別について高等・高等専修学校までに学んだ層や、『外国人』『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層の方が「迷わず結婚する」が高く、特に『部落出身者』で親しくしている人がいる層で高い。

(B) 日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人



■クロス表 (B) 日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人

(単位：%)

		サンプル数	迷わず結婚する	家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば、結婚しない	結婚しない	無回答
全体		998	15.1	41.2	14.1	21.7	7.8
年齢別	10歳代・20歳代	76	27.6	48.7	11.8	10.5	1.3
	30歳代	118	15.3	47.5	18.6	16.9	1.7
	40歳代	154	20.1	44.8	10.4	22.1	2.6
	50歳代	176	22.2	43.8	9.7	21.6	2.8
	60歳代	232	10.8	39.7	16.4	25.0	8.2
	70歳以上	233	6.4	33.5	16.7	24.9	18.5
部落差別学習別	小学校で学んだ	273	20.1	45.4	13.9	18.3	2.2
	中学校で学んだ	216	19.4	42.1	14.4	21.8	2.3
	高等・高等専修学校で学んだ	109	22.0	48.6	5.5	21.1	2.8
	短大・大学・専門学校で学んだ	22	36.4	31.8	13.6	18.2	0.0
	はっきりと覚えていない	286	11.2	44.8	16.4	20.3	7.3
外国人の友人・知人の有無	学校で学んだ経験はない	239	12.6	33.5	15.1	28.0	10.9
	親しくしている人がいる	255	26.7	43.9	9.4	16.1	3.9
	親しくしている人はいない	600	10.8	41.5	15.3	25.0	7.3
性的マイノリティの友人・知人の有無	わからない	121	13.2	38.0	18.2	19.8	10.7
	知り合いの中にいる	128	23.4	49.2	7.8	17.2	2.3
	知り合いの中にいない	600	11.8	39.8	16.2	25.0	7.2
部落出身の友人・知人の有無	わからない	249	19.3	41.0	12.9	17.3	9.6
	親しくしている人がいる	154	22.7	50.0	3.2	17.5	6.5
	親しくしている人はいない	300	7.0	34.3	21.0	29.7	8.0
	わからない	528	18.0	43.4	13.8	18.8	6.1

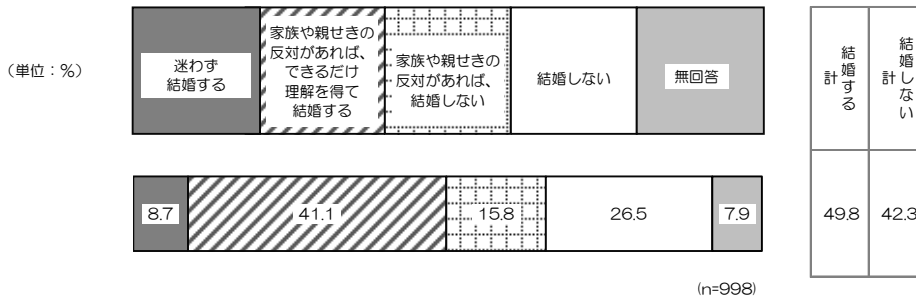
※ ■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

「(B)日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人」で「迷わず結婚する」は 15.1%、「家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」は 41.2%で、「結婚する」計は 56.3%と半数以上。一方、「結婚しない」は 21.7%、「家族や親せきの反対があれば、結婚しない」は 14.1%で、「結婚しない」計は 35.8%となっている。

日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人との結婚について年齢別にみると、「迷わず結婚する」は 10歳代・20歳代で 27.6%と高く、40～50歳代でも約2割と高めである。70歳以上では 6.4%と低い。

部落差別について高等・高等専修学校までに学んだ層や、『外国人』『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層の方が「結婚する」が高く、特に『外国人』で親しくしている人がいる層で高い。

(C) 障がいのある人



■クロス表 [C] 障がいのある人

(単位：%)

		サンプル数	迷わず結婚する	家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば、結婚しない	結婚しない	無回答
全体		998	8.7	41.1	15.8	26.5	7.9
年齢別	10歳代・20歳代	76	13.2	60.5	6.6	18.4	1.3
	30歳代	118	6.8	49.2	19.5	22.9	1.7
	40歳代	154	13.6	48.7	13.6	21.4	2.6
	50歳代	176	14.2	44.3	15.9	21.0	4.5
	60歳代	232	6.0	38.4	17.7	29.7	8.2
	70歳以上	233	3.4	26.2	17.2	35.6	17.6
部落差別学習別	小学校で学んだ	273	10.6	50.9	16.5	19.4	2.6
	中学校で学んだ	216	12.5	46.3	15.7	23.1	2.3
	高等・高等専修学校で学んだ	109	13.8	49.5	7.3	25.7	3.7
	短大・大学・専門学校で学んだ	22	27.3	36.4	18.2	18.2	0.0
	はっきりと覚えていない	286	5.6	40.9	18.9	26.9	7.7
外国人の友人・知人の有無	学校で学んだ経験はない	239	7.5	31.8	13.8	36.0	10.9
	親しくしている人がいる	255	14.5	48.2	12.2	20.8	4.3
	親しくしている人はいない	600	6.7	39.8	16.5	29.5	7.5
性的マイノリティの友人・知人の有無	わからない	121	7.4	38.0	20.7	24.0	9.9
	知り合いの中にいる	128	14.8	57.0	9.4	15.6	3.1
	知り合いの中にいない	600	6.2	38.8	16.8	31.2	7.0
部落出身の友人・知人の有無	わからない	249	12.0	40.2	16.5	21.3	10.0
	親しくしている人がいる	154	12.3	51.3	9.1	20.1	7.1
	親しくしている人はいない	300	4.3	35.0	19.3	34.0	7.3
	わからない	528	10.2	42.6	16.3	24.4	6.4

※ ■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

「(C)障がいのある人」で「迷わず結婚する」は 8.7%、「家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」は 41.1%で、「結婚する」計は 49.8%と約半数。一方、「結婚しない」は 26.5%、「家族や親せきの反対があれば、結婚しない」は 15.8%で、「結婚しない」計は 42.3%となっている。

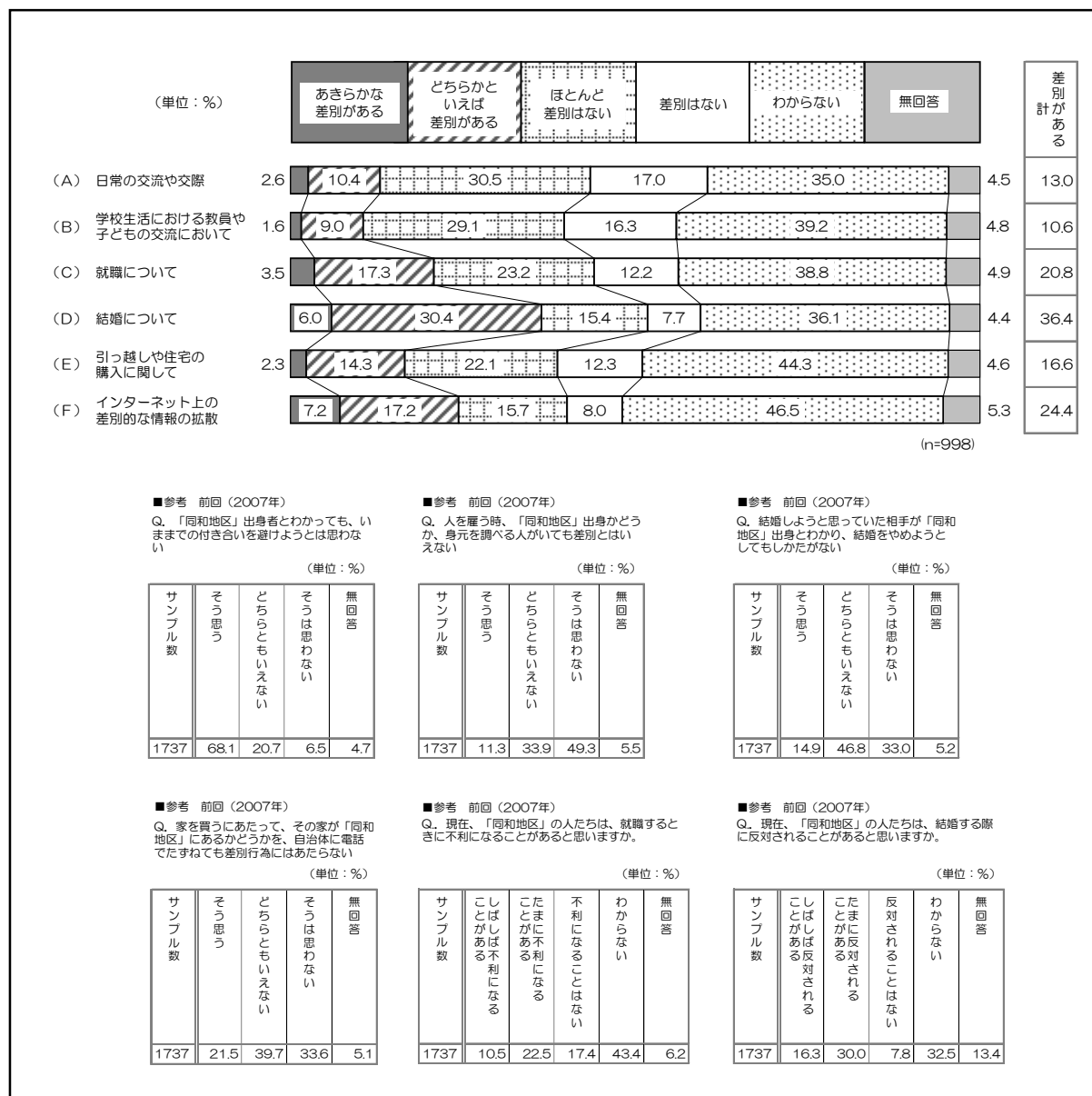
障がいのある人との結婚について年齢別にみると、「迷わず結婚する」は 10 歳代・20 歳代、40～50 歳代で 13～14%と高めである。10 歳代・20 歳代では、「家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」も約6割と高い。

部落差別について高等・高等専修学校までに学んだ層や、『外国人』『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層の方が「家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する」が高く、特に『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層で高い。

4. 部落差別（同和問題）について

4-1 部落差別（同和問題）の有無の認識

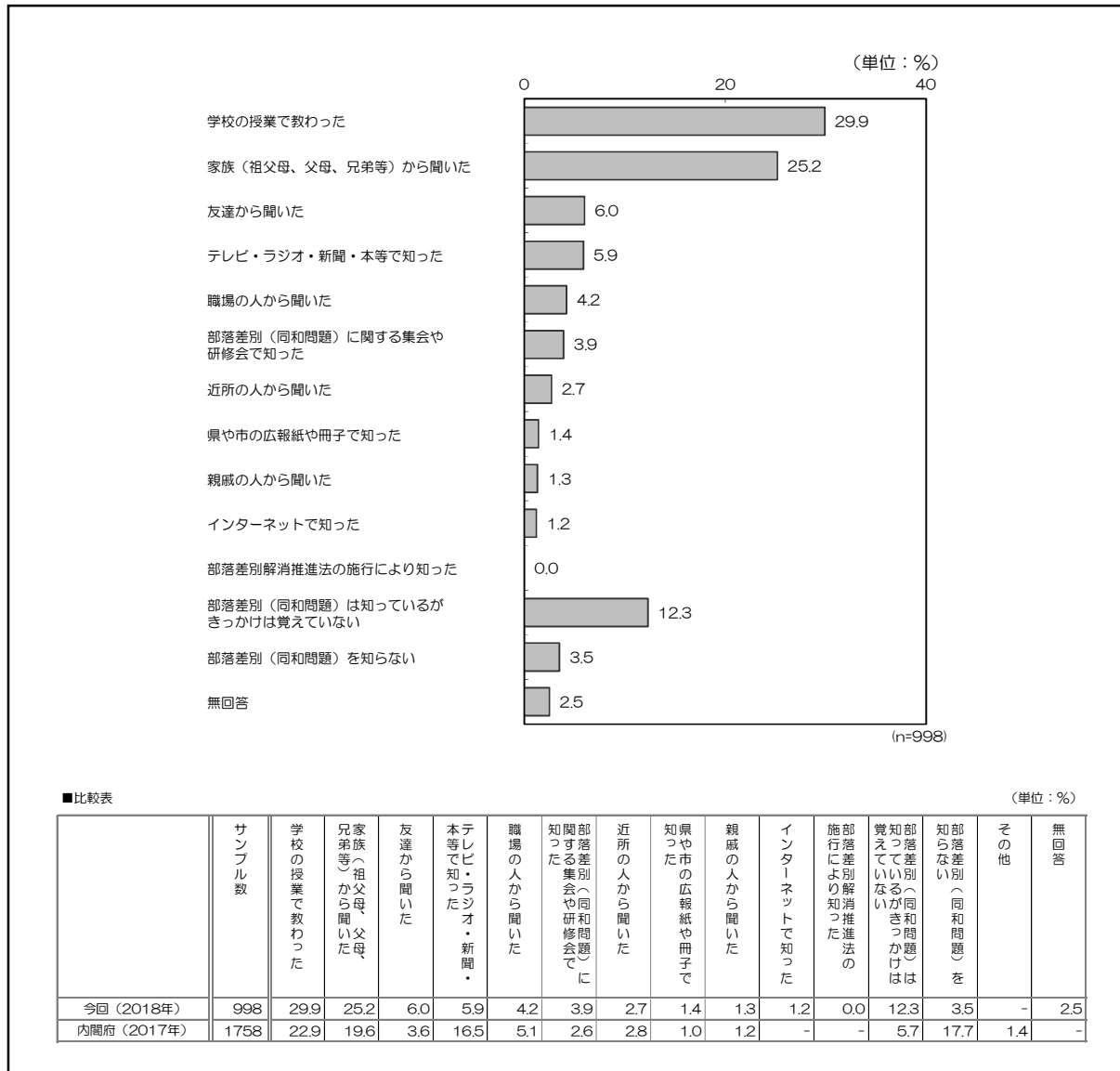
問18 現在、次のことについて部落差別（同和問題）があると思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）



今回調査では「差別がある」計は「(D)結婚」で最も高かった。

4-2 部落差別（同和問題）について知ったきっかけ

問19 部落差別（同和問題）について、初めて知ったきっかけは、何からですか。次の中から1つ選んでください。（〇は1つだけ）



■クロス表

(単位：%)

		サンプル数	学校の授業で教わった	家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた	友達から聞いた	テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	職場の人から聞いた	部落差別(同和問題)に関する集会や研修会に知った	近所の人から聞いた	知った	県や市の広報紙や冊子で知った	親戚の人から聞いた	インターネットで知った	行により知った	部落差別解消推進法の施行により知った	知っていない	部落差別(同和問題)を知らない	無回答
全体		998	29.9	25.2	6.0	5.9	4.2	3.9	2.7	1.4	1.3	1.2	0.0	12.3	3.5	2.5		
年齢別	10歳代・20歳代	76	36.8	15.8	5.3	6.6	2.6	1.3	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	9.2	18.4	0.0		
	30歳代	118	50.0	22.0	6.8	0.0	4.2	2.5	0.8	0.0	2.5	3.4	0.0	4.2	2.5	0.8		
	40歳代	154	50.0	22.1	5.8	2.6	1.3	1.9	1.3	1.3	0.6	1.3	0.0	9.1	2.6	0.0		
	50歳代	176	42.0	26.1	5.1	4.0	3.4	1.7	0.6	1.1	0.0	0.6	0.0	11.9	1.7	1.7		
	60歳代	232	19.4	27.2	5.6	7.8	6.9	6.0	3.4	1.3	2.6	0.4	0.0	14.7	2.6	2.2		
	70歳以上	233	5.2	29.6	7.3	9.9	4.7	6.4	6.0	3.0	1.3	0.4	0.0	18.0	1.7	6.4		

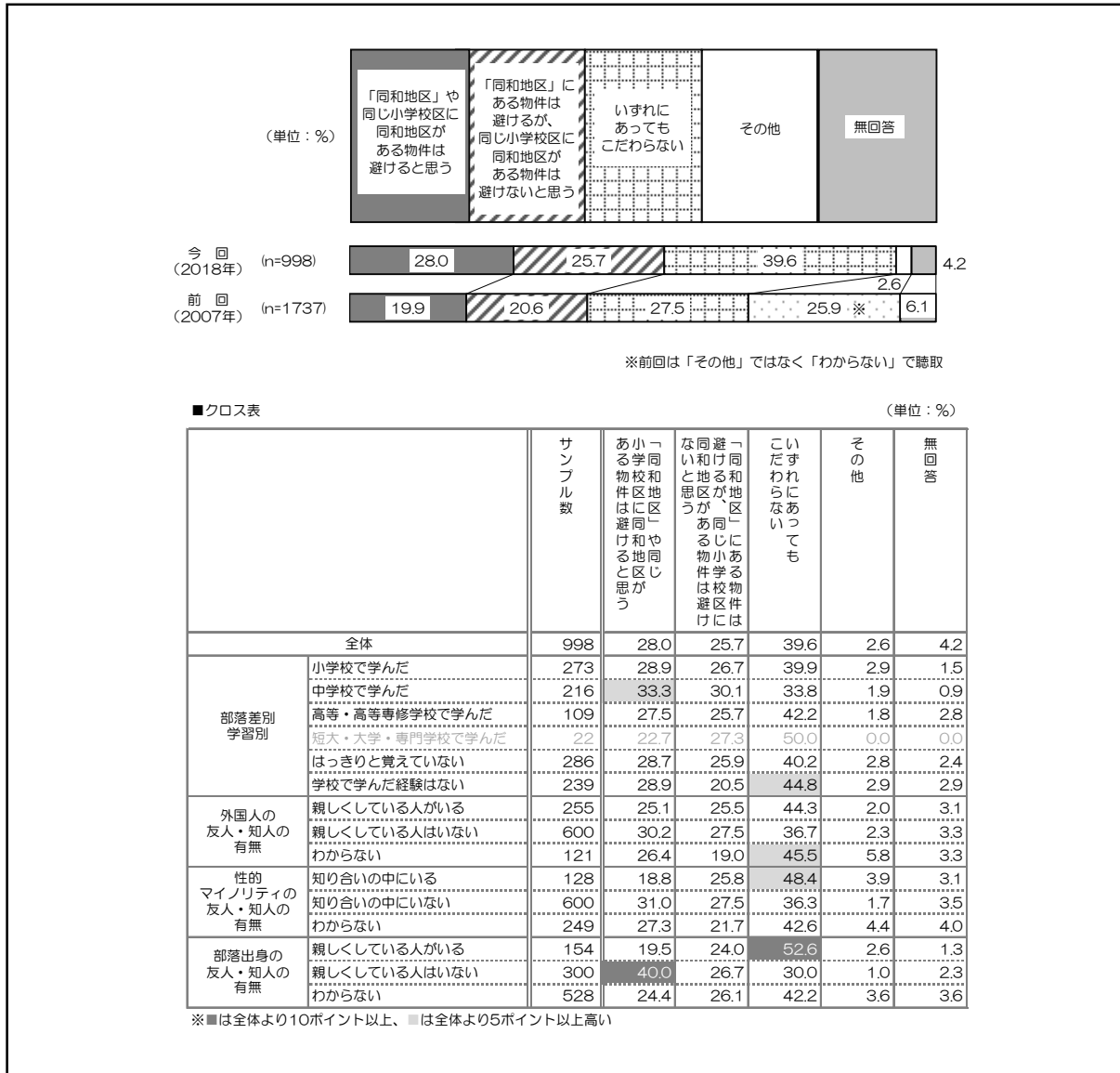
※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

今回調査、内閣府調査とも「学校の授業で教わった」が2割台でトップ。

年齢別にみると、10～50歳代では「学校の授業で教わった」が4割弱～5割と高い。10歳代・20歳代では「部落差別を知らない」、70歳以上では「きっかけは覚えていない」が高くなっている。

4-3 住宅選択における忌避意識

問20 もし、あなたが家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、「同和地区」や同じ小学校区にある物件は避けることがありますか。あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)



前回調査より「いずれにあってもこだわらない」が 12.1 ポイント増加して 39.6%となっている。

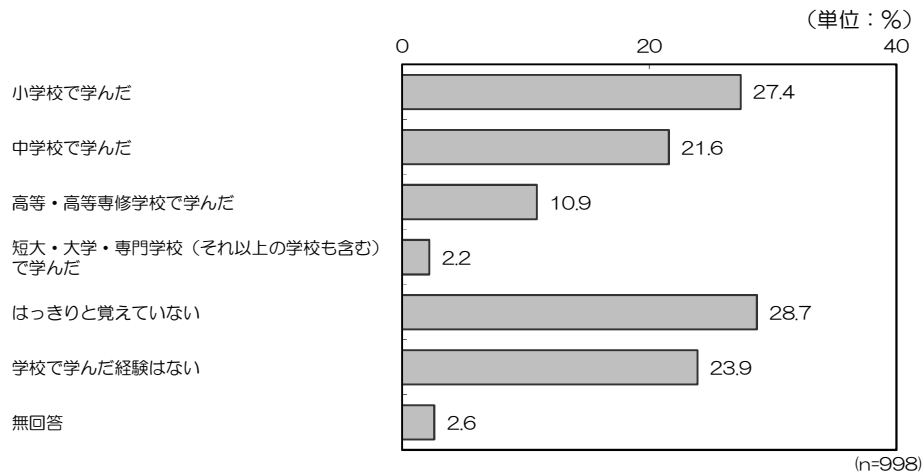
部落差別学習別にみると、学校で学んだ経験はない層で「こだわらない」が高くなっている。

一方、「「同和地区」や同じ小学校区に同和地区がある物件は避けると思う」は 28.0%、「「同和地区」にある物件は避けるが、同じ小学校区に同和地区がある場合は避けないと思う」は 25.7%で、いずれも前回調査より 8.1 ポイント、5.1 ポイント増加している。

『外国人』『性的マイノリティ』『部落出身者』で親しくしている人がいる層は、「こだわらない」が高く、特に『部落出身者』では「こだわらない」が 52.6%と高い。一方で、『部落出身者』で親しくしている人がいない層は、「避けると思う」が 40.0%と高い。

4-4 学校での部落差別（同和問題）についての学習経験

問21 あなたは、学校で部落差別（同和問題）について、学習したことがありますか。あてはまるもの全部に○をおつけください。（○はいくつでも）



■クロス表

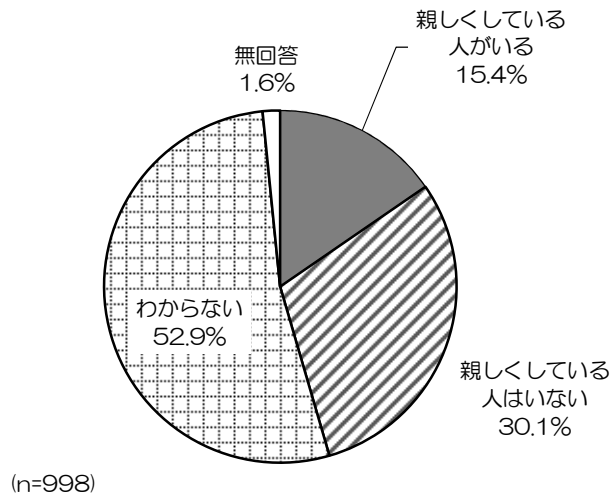
		サンプル数	小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校（それ以上の学校も含む）で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	無回答
全体		998	27.4	21.6	10.9	2.2	28.7	23.9	2.6
年齢別	10歳代・20歳代	76	30.3	21.1	9.2	0.0	35.5	25.0	0.0
	30歳代	118	50.8	32.2	10.2	4.2	16.1	11.9	2.5
	40歳代	154	54.5	25.3	13.0	1.3	20.8	11.7	0.0
	50歳代	176	39.2	31.8	17.0	4.0	23.9	10.2	2.8
	60歳代	232	10.8	19.8	11.2	2.6	34.5	29.3	2.2
	70歳以上	233	4.7	8.6	5.2	0.9	35.6	42.9	5.2

※ ■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

30～40 歳代は、部落差別（同和問題）について「小学校で学んだ」人が5割台と高い。50 歳代では「小学校で学んだ」が約4割、「中学校で学んだ」が約3割で高い。10 歳代・20 歳代、60 歳代、70 歳以上は「はっきりと覚えていない」が高く、また、70 歳以上は、「学校で学んだ経験はない」が4割強と高い。

4-5 親しくしている部落出身者（同和地区出身者）の有無

問22 あなたが親しくしている人の中に部落出身（同和地区出身）の人はいますか。（○は1つだけ）



■比較表

(単位：%)

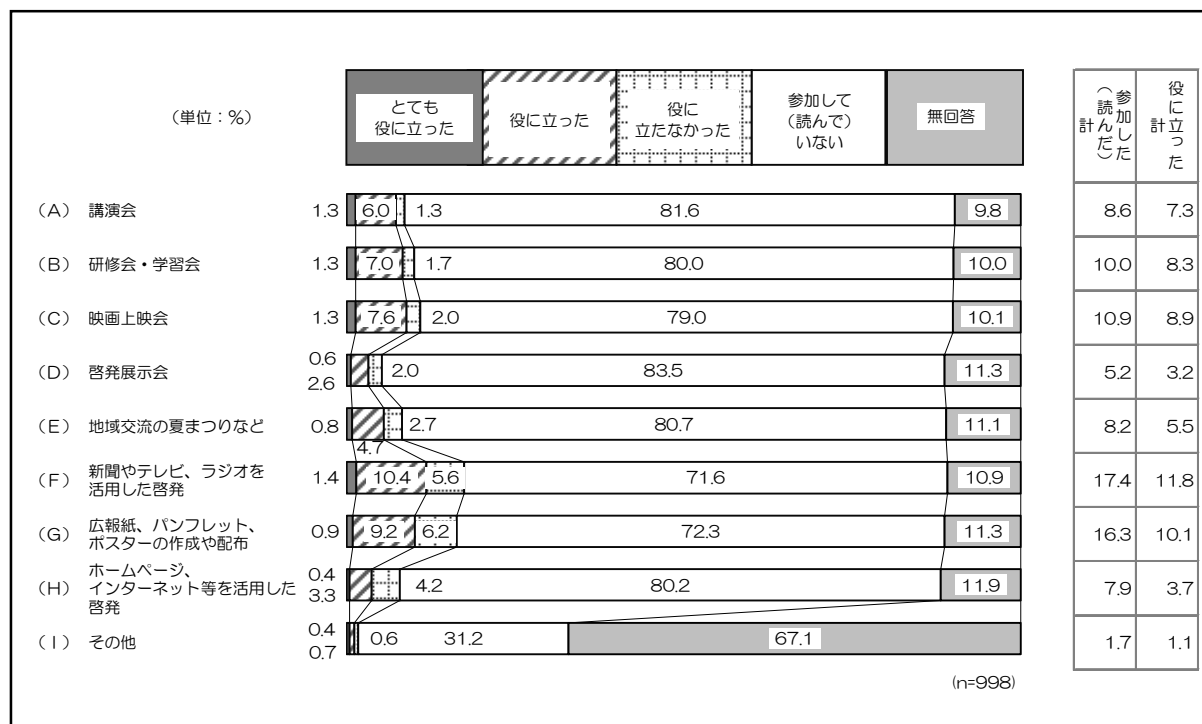
	サンプル数	親しくしている人がいる	親しくしていない	わからない	無回答
今回（2018年）	998	15.4	30.1	52.9	1.6
前回（2007年）	1737	29.4	44.5	21.2	4.8

※前回は、「外国籍住民や『同和地区』住民に親しくしている友人がいますか」で聴取。

5. 人権問題の啓発活動について

5-1 人権啓発活動への接触状況

問23 人権問題について、市民の理解を深めるために、「じんけんを考える市民のつどい」など、さまざまな形で催し物や広報紙などによる啓発を行っていますが、ここ数年の間に、あなたは参加した（読んだ）ことがありますか。参加したものについて意見をお聞かせください。あてはまるものに○をおつけください。（○はそれぞれ1つずつ）



人権啓発活動への接触状況についてたずねたところ、いずれも「参加して(読んで)いない」が7～8割台であるが、「参加した(読んだ)計」で見ると、「(F)新聞やテレビ、ラジオを活用した啓発」(17.4%)、「(G)広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布」(16.3%)が上位。

「役に立った計」でも、「(F)新聞やテレビ、ラジオを活用した啓発」(11.8%)、「(G)広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布」(10.1%)が上位である。

5-2 接触した人権啓発活動の感想

問23-1 参加されて、良かったと思う点や逆に良くなかった点があればご自由にお書きください。

本市の人権問題の啓発に対する意見を自由記述の形式でたずねたところ、36人の方から様々な意見をいただきました。

寄せられたご意見につきましては、調査における自由記述という性格と情報の公開の趣旨から原文のまま(明らかな誤字脱字は修正)記載しております。

1. 啓発活動や催し物で良かったと思う点

(11件)

内容
・ある程度の理解が出来た
・お友だちになれたことが良かった
・自分の視野を広げる点ではすごく良かったと思います。興味のない人には全く受け入れられないことなので、今からは子どもを通して学校教育に、学校で授業の一環として親子に広めて教育していくのがいいと思います
・人権問題を意識して生活するというきっかけになった
・男性、女性、子どもが地域一体となって協力して盛り上げたので、達成感があった
・地域交流の夏祭りに参加した時、自分の住んでいる地域の方々の顔を見ることができ、良かったと思います
・テレビなどで子どもにもわかりやすい問題提起がされているものは、家族で見ても話題にしやすく、良いと思います
・当事者の声を聞いて現状を知ることができた
・日常で使っていた言葉が差別用語だということを知った
・ひとつの歴史を知った
・毎年、夏の講演会に参加させていただいているが、内容がとても良い

2. 啓発活動や催し物で良くなかったと思う点

(9件)

内容
・意見が偏っている印象。柔軟性を感じられなかった。見通しが全て他責(人のせい、国のせい)で自己など客観的に物事を見る視点が少し足りない。そのため人任せな感じ
・研修会、講演会での内容は決して無駄ではなかったが、実生活に活かされているかはわからない
・広報誌を少し読ませていただきましたが、難しくあまり分かりませんでした
・知っている知識を長々と話されたり、上映されたり、資料を配布されたりしても、時間の無駄だし、逆に啓発活動そのものがうっとうしいものにしか思えません
・チラシなど楽しくなさそう。PRに課題があると思います
・ハンセン患者の上映会を観た時は、隠されていたことが明るみになり、患者の方も良かったのでしょうか。私たちには、伝染病ではない知識も勉強になりますし、陰では悪い事も出来ないよと、蓋をされないのも良いと思います。少しでも良い方向へ前進することを祈っています
・全く存在すら知らない人にあえて教えるのが良いことなのかという面も考える。もちろん、理解することには賛成
・無駄なこと
・私が参加した催し物で、どうしてこの問題が発生したのか、その歴史を押さえて理解してもらおうにしたらどうでしょうかと提案したことがあります。ただ差別があるだけでは理解は得られないと思います。個人の責任ではないことを、啓発というか、声を大きく上げなければと思います

3. 啓発活動や催し物で感じたこと

(6件)

内容
・ 尼崎市でこんな問題があるとは思わなかった
・ 気づかずに人権を侵害している事が多々あることに気づいた。自分の出来る平等意識を持ちたいと思った
・ 人権問題は人の心を互いに思いやる気持ちが大変だと思います
・ 手と手、肌と肌が触れ合うことが一番いい。あの人、あの国の人じゃなく、決め付けないでただただ人として考えていくことが大事なのでは
・ 根の深い問題ですので、解決は難しいです。1300年くらい前の大和朝廷の頃まで遡ります（以前読んだ本によると）
・ ハンセン病問題に関わる講演会、見学会（外島保養院跡など）に参加しました。無知は偏見、差別を生むと思います。知ることから始めたいと思います

4. 同和問題に関する意見

(4件)

内容
・ 人権には、さまざまな問題があります。表面にでてこない問題も多く、苦しんでる方も多いのでは？人権＝同和地区の論議が中心となるのは何故でしょう？見た目だけで差別される障がい者、病気を理由に差別を受ける者ほど考えるべきでは
・ 人権を考える等で、同和問題のテーマを書くことで、同和問題を意識していなかった人へも意識させてしまうため、その点は問題だと思う
・ 同和地域とそうでない地区の中にある他県の小学校で、逆差別のことを聞いたことがあります。文房具を配る時などとか。何も知らない子供たちに知らせなくてもいい逆差別に親御さんは戸惑ったと聞きました（何十年も以前の事です）
・ 部落の人自身が壁を作っているように感じた

5. その他の意見

(6件)

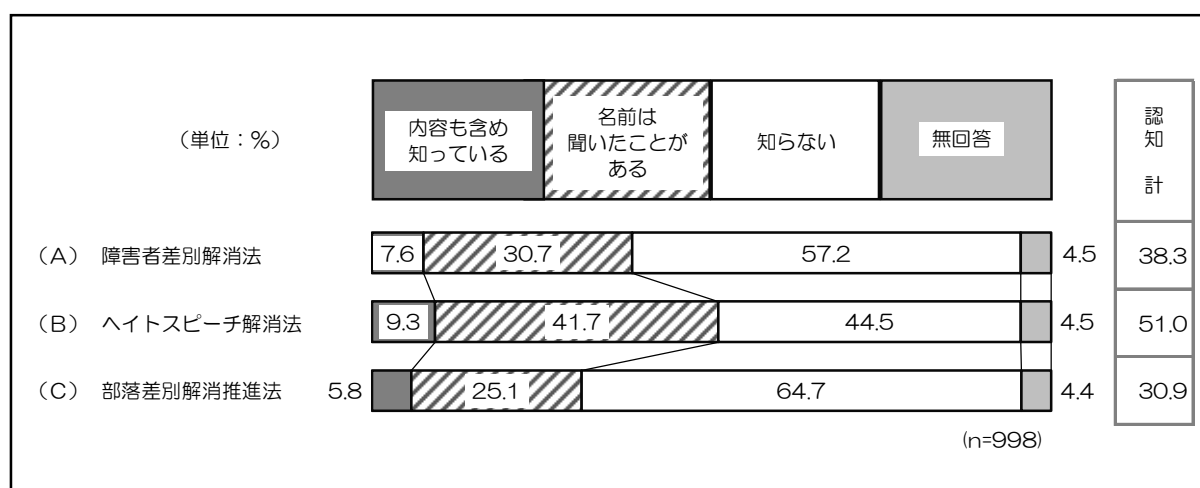
内容
・ AGに参加したが？どうしたら良いか？
・ 会社で研修として定期的に映画上映会、講演会があり、今時差別があるのかと思ったこと。高校時代にあまり関係なく友だちがいたのに、差別なく日常を過ごしていた
・ 答えるのが難しい
・ 参加はしたが、どちらともいえない
・ ダイバーシティ推進課へ。無駄な金を使うな
・ 僕はもうすぐ70歳になりますが、年金でかなり苦しい思いをした事がありました。テレビで年金の話をする人達は私らとは別の世界の人達だと思う。今も少ない年金で苦しい思いをしている人達がどれほどいるのか。国は本当に年金のしくみがわかっているのか疑問に思う。今の政治は好きではありません。言っている人達が別世界の人だからではないですか

合計36件

6. 人権に関する法などの認知について

6-1 人権三法の認知度

問24 あなたは次の2016（平成28）年度に施行された差別解消に関する3つの法律についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。（○はそれぞれ1つずつ）



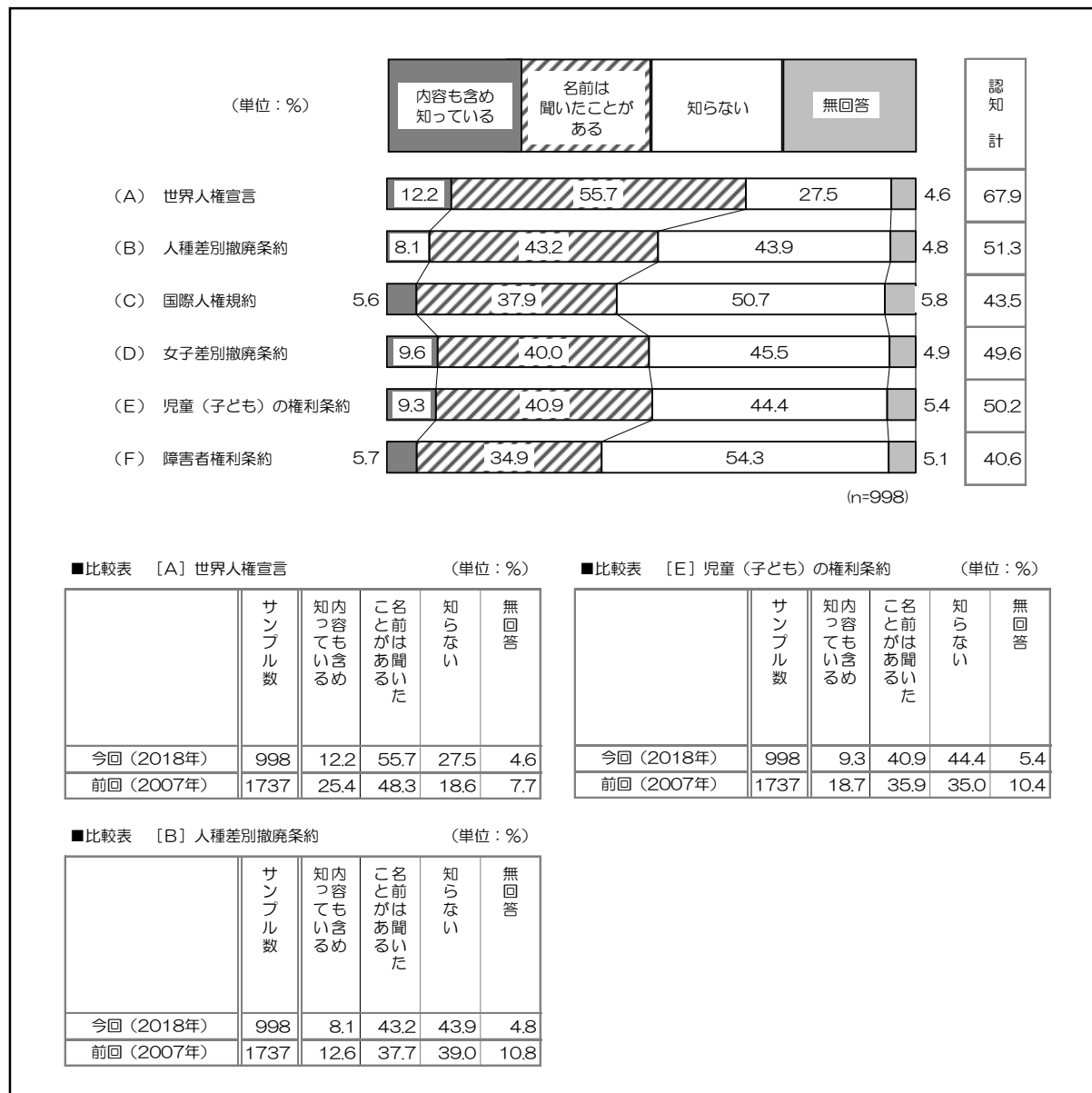
人権三法の認知度についてたずねたところ、「内容も含め知っている」は「(B)ヘイトスピーチ解消法」で9.3%と最も高く、「(A)障害者差別解消法」で7.6%、「(C)部落差別解消推進法」で5.8%である。

「内容も含め知っている」と「名前は聞いたことがある」を合計した「認知計」でも、「(B)ヘイトスピーチ解消法」が51.0%と最も高く、「(A)障害者差別解消法」(38.3%)、「(C)部落差別解消推進法」(30.9%)では3割台である。

「知らない」については、「(C)部落差別解消推進法」が64.7%、「(A)障害者差別解消法」が57.2%、「(B)ヘイトスピーチ解消法」が44.5%となっている。

6-2 人権に関する条約等の認知度

問24-1 あなたは次の人権に関する条約などについてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

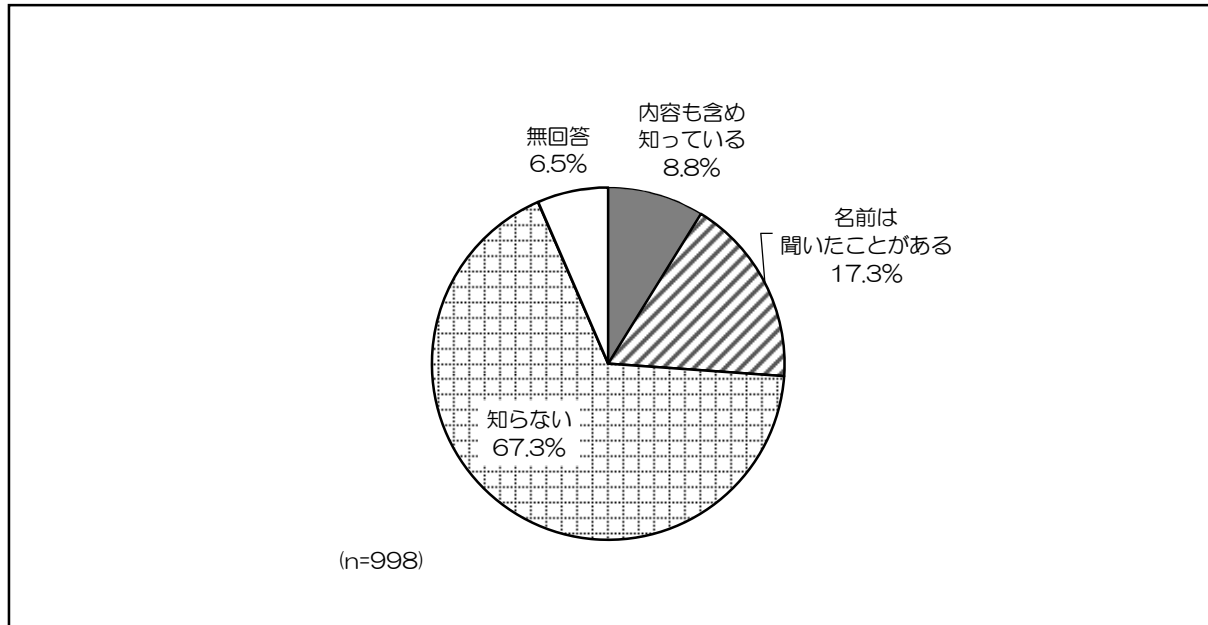


前回調査と比較すると、「(A)世界人権宣言」「(B)人種差別撤廃条約」「(E)児童(子ども)の権利条約」も、認知度が下がっている。特に「(A)世界人権宣言」は、「内容も含め知っている」が13.2ポイント減少している。

6-3 本人通知制度の認知度

問24-2 あなたは人権に関する次の制度についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。(○は1つだけ)

戸籍・住民票などの「本人通知制度」



本人通知制度の認知度についてたずねたところ、「知らない」が 67.3%と多数を占めた。「名前は聞いたことがある」が 17.3%で、「内容も含め知っている」は 8.8%と1割未満にとどまった。

7. 市に対する意見・要望

7-1 市に対する意見・要望

問25 市に対するご意見、ご要望があれば、ご自由にお書きください。

市に対する意見・要望を自由記述の形式でたずねたところ、58 人の方から様々なご意見・ご要望をいただきました。

寄せられたご意見・ご要望の中には、部落差別(同和問題)、生活保護制度、外国籍住民などに対する市の施策や対象者についての批判、事実と異なる記述も含まれていますが、調査における自由記述という性格と情報の公開の趣旨から原文のまま(明らかな誤字脱字は修正)記載しております。市といたしましても、これらの誤解や偏見などを払拭していくことが課題であるとあらためて認識しております。

今後も関係課と協議、連携しながら、市の施策等を正しくご理解いただけるよう広報や啓発を進めていきたいと考えておりますので、市民の皆さまの一層のご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1. 同和問題や同和行政に関する意見

(5 件)

内容
・ カラスを減らす対策を講じてほしい。ゴミ出しのルールやマナーを住民に啓発してほしい。部落差別の認識が薄いのかもしませんが、逆差別の話聞いた事があります。何事もすべてあからさまになる事、平等になる事は難しいです
・ 車道を自転車用に替えて、車線を減らされています。実際には、それによりすごく流れが悪くなり、交通量の多い朝・夕に大渋滞になっています。そのことは理解されているのでしょうか？何でもすればいいというものではありません(山手線コストコ付近、市道41号阪急の踏み切り)。今の同和問題とは、一部の”同和”を発すれば利を得る人が騒いでいるだけのように思えます。普通に生活している者には、あえて言わないと気にしないと思います。いつまでも”同和”と続けるのもどうかと思います。行政は市民の肌感をもっと知るべきです。”同和”関係者に聞いても意味がありませんし、彼らはそれで利を取っているから
・ 生活保護を厳しく取り締まってほしい。部落差別は、こうして今も言われていること自体、良いことではないと思う。語り継がれているような気がする
・ 同和問題に対して同和の人達を保護しているのか隔離しているのか分からない。政府がしている事が一番差別の様に感じるのですが
・ 私は小学生時代に同学区に同和地区があり、低学年より道徳授業を受けてきました。差別することはおろかな事だと感じ、今でもそう思っておりますが、逆に同和地区に住まわれている方から「どうせ部落やからやろ」とケンカを売られたことがあります。幼少期に学んだ事は、歳をとっても忘れません。低学年からの道徳教育に今一度、力を注ぐ時期ではなからうかと思えます。「石川さんは無実だ」、小学1年生のとき、教頭先生に教えていただいた事等は今でも覚えています。個人の人柄さえ良ければ問題などないと思えます

2. 人権教育・啓発について

(7 件)

内容
・ 尼崎市も人権問題から逃げずに、大阪府のように前向きに頑張ってください。許されることが平気で通っていることもあるので、平常な市民が納得いくように頑張ってください。期待します。勝負ですよ
・ 市で人権についての問題提起がなさすぎだと思うので、身近なことからもっと活動してほしい

<ul style="list-style-type: none"> ・市の勤めで、企業が雇用している従業員に対し、人権について考える啓発を進めるべきだと思いません。なぜならば、働いているからと忙しく、人権について考える事が少なく関心が低くなるため。自分や周りの人を見て、そう思いました
<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関して、あまり市民末端まで伝わっていないような気がします。「お役所仕事」と言われないように、市民隅々密接に理解しなければいけないと思います
<ul style="list-style-type: none"> ・人権について低学年より具体的に何回も教えるべき。身障者の体験等も学習実施、教育が不十分
<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題は幅が広く、私の身近にもなかったため、あまり興味を持って考えなかった
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘイトスピーチは言語道断だが、妙な特別扱いが行政にあるのは気になる

3. 住みやすいまちづくりについて

(9 件)

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「美しい街づくり」「住みやすい街づくり」に努めていただけたらと思います
<ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとうございます。色々な取り組みに頑張ってもらっていると思います。先日の市民まつりも楽しませていただきました。まずは、子どもや女性が安心・安全に暮らせる町づくりを期待しています。現在もそのような取り組みがなされていることは実感しています。これからもよろしく願っています
<ul style="list-style-type: none"> ・今年、「本当に住みやすい街大賞2018in関西」でJR尼崎が1位に選ばれたのは嬉しいことです。これからも尼崎のイメージがよくなる街づくりをよろしく願っています
<ul style="list-style-type: none"> ・住民税が高い。ゴミもちゃんと回収に来なかったりする時もある。道はポコポコ。木も台風でぐちゃぐちゃのまま。どこに税金を使っているのかと思ってしまう。尼崎市は住みやすいと思っていたけど全然アカンようになっていきますね
<ul style="list-style-type: none"> ・人権に当てはまると思っていることですが、就職について不利だと感じる人が多いです。就職氷河期であった事、そのため、経験を積むことが難しかった事。やっと経験を積めたと思えても、年齢的に転職(正規)が難しくなった事。子どもができ、もっと就職が難しくなった事。生まれた時代によって働くこと、年収に差が出るのが残念。尼崎市に言うことではないかもしれないけど、もっと30代、40代の人にもチャンスを与えてもらえる日本であってほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・住みよい街になりますように。ボランティアで街の掃除と地域ねこ活動をしています。優しい町になるように頑張ります
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが自分自身を尊重する気持ちを
<ul style="list-style-type: none"> ・パスポートが日曜日でも取れるようになって本当に助かりました！ありがとうございます
<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪者に対する人権が守られているように思います。特に未成年者に対しては、重たい罪を犯しているのに、と思えてしまいます。今の時代、インターネットですぐにわかりますが、いじめの被害者の名前や写真はテレビで映るのに、いじめの主犯の人間は守られる情報社会はおかしいと思います。性犯罪者にはマイクロチップを埋め込み、生きている限り社会が監視するべきです。被害者が怯えて暮らす社会こそが人権侵害だと思います

4. いじめや差別に関する意見

(4 件)

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・差別を許さない都市宣言を採択して欲しい
<ul style="list-style-type: none"> ・市に対する意見ではないが、精神的攻撃による心の傷(イジメなど、その他諸々)を与える者に対して、何らかの処罰を与えるべきだと思う
<ul style="list-style-type: none"> ・納税に関して、医療費に関して在日韓国人には無料と聞きました。このことが日本人に対する差別ではないですか
<ul style="list-style-type: none"> ・収入における格差、差別もあります。一人暮らしにおける市営住宅も60歳以上でなければ申し込みもできない。収入で決めるべきではないのかな。今の時代、苦しんでる人も多い。豊かな人が良いのはちょっと違うのでは。差別かも

5. 市政に対するさまざまな提案・要望

(27件)

内容	
●さまざまな施策への意見 (9件)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎市には、朝鮮学校があります。私は日本人ですが、同じ市民として、内外平等の原則を市政として進めてほしいです。民族学校に通うために、保護者は大きな経済的負担を負っていると聞きます。補助など前向きに考えてほしいと県にも要請してほしい。人々に思いやりや優しさがなくなると、譲れないもの、尊重されるべきものが人権ではないかと思えます。思いやりや優しさというものは同情です。かわいそうな人には思いやりをかけるけど、主張するとたちまち冷淡になる。同情主義は人権と対極のものと思えます 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の医療費を安くして欲しい。所得制限にひっかかり、受給資格をもらえない(乳幼児医療制度)。他の市(県)より遅れている。発達障がいに対する支援や教育面が他市に比べ遅れをとっている 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の人権保障だけでなく、年金、保険料の支払いなどの負担をもっと軽くしてもらいたいです。社会保障、福祉の充実があってこそその人権保障だと思います 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権も大事だが、生活保護者に対する甘さに問題はないのか？ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活保護受給者の生活把握(不正受給など) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ タバコの吸い殻を捨てたら罰金を取るべきだ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手続きがどれも面倒 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年金生活者(特に低額)に福祉の優遇を求めます 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私はホームヘルパーをしています。生活保護者に対する行き過ぎた保護にいつも大いなる疑問を感じています。医療費、デイサービス、ヘルパー訪問、いくら利用しても全て無料。小額年金者は医者に行きたくても我慢をしている。行政はこれをどう考えますか？介護保険がパンクして当たり前です。1人の生活保護者に1ヶ月何十万を平気で税金から出すことを何とも思いませんか？行政はもっとしっかりして下さい 	
●市職員の対応等について (9件)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年ほど前に塚口サービスセンターを利用しましたが、その時の対応が高圧的で、説明不足でもあり、非常に不愉快な思いをしました。もっと市民の目線に立った親切な対応を望みます 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり良いイメージがありません。以前相談に行こうと思ったことがありますが、先入観で物事を見られるようで行けませんでした 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも大変なお仕事ご苦労様です。今は親切な方も多いため、市役所の利用もお世話になることが多いです。これからも頑張ってくださいね 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が、市が大人なら、市民は子供。やさしくあたたかく、物事を定める時は慎重に(ストレスのないように日々頑張ってください)。我々のためにありがとうございます。親の教育、男の子であれ同じように教える今の男子。家事が出来ないと女の子に嫌われるとか？時には皇后様のようなやさしい教え方をもっと見習うべき。やさしさが一番かな 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民健康保険の窓口に行きますが、対応していただく男性の口臭がヒドイです。くだらない事ですみません。これも市に対する苦情です 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も精神的、身体的(右半分が動かない)障がい者です(母親も障がい者です)。こんな私でも、用事があって市役所に行くと、すごく親切にしてくださいまして、毎回ありがとうございます。感謝です。分からないことばかりで、上手に書けたかどうか分かりませんが、ごめんなさい。これからもどうかよろしく願いいたします 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 書類さえ揃っていれば本人が知らなくても証明書等を交付されてしまうのは問題だと思います。事後通知では解決しない。何か良い方法を皆で模索するべきだと思います 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイバーシティという言葉聞いても何のこともイメージがしにくいです。日本語で表現できないのでしょうか 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 娘(35歳)は知的障がいがありますので、生まれてから市役所へ行くことが多くて、色々な課の方に話を聞いてもらい、親切にいただいています。いつもすっきりとした気分です。これからもよろしく願いします 	
●広報・広聴のあり方について (1件)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令等は知り得なくても適用される。現在は法令等の改正が多過ぎる。以上2点から出来るだけ概要(いつ改正がある、あった)だけでも市報等で周知していただければ幸いです。 	

●アンケートについて (8件)

・ アンケート、今後も協力します
・ アンケートの質問内容にも差別的なことが含まれていると思います
・ このアンケートが役立つことを期待しております。チャンスを下さってありがとうございました。これを機会に改めて関心を持ちたいと思います
・ この頃の若い人たちは、自分だけよければいい。一人一人の人間性の問題だと思います。このようなアンケートにお答えしても、何の役にも立たないと思います
・ 問6 (B)について、親も自分の子どもに障がいがあることを認めたくないことも事実である。問6 (E)について、北朝鮮や中国の人々の最近の動向が大変気になります。問6 (H)について、北朝鮮の学校などは注意して見に行くべきです
・ 問の数が多い。もっと少なく、短文で作成してください!
・ 問題の答えの出し方がおかしい。考えれば全部○に等しい
・ 問2 4-2は市が考えること

6. その他の意見

(6件)

内容
・ 「怒り」や「ペナルティ(罰則)」ではなく、「話し合い」を平和的に、あきらめずに続けていくことを「大人」が示すことが何より大切だと思います
・ AIの活用はどこまで進んでいますか?または、どんな所で活用しようとしていますか?
・ 尼崎市に在住する市職員が少ないことを疑問に思う
・ 今の親は子どもに対して、していい事としてはいけない事を教えていない。他人に注意されると親は文句を言う。親が教えられないのであれば、学校できちんとしつけをするべきだと思う
・ このようなことに市民税を使うのはやめてほしい
・ 問題ないように思う

合計58件

Ⅲ. スコア分析

1. スコアの算出方法・カテゴリー分け

1-1 人権についての考えスコアの算出方法

問4において、人権についての様々な考えに対して、「(A)人権問題は、差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」「(B)介護や介助を受ける人があまりあれこれ自己主張するのはよくない」「(C)社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」「(D)人権問題を解決する責任は、まず行政にある」「(E)差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ」「(F)自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている」「(G)思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」「(H)学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」「(I)個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ」「(J)現代は競争社会であり、個人の能力差があることで差別が生じるのはしかたがない」の10項目を設定している。

これら10項目については、「そう思わない」の方が人権に対する問題意識をしっかりと持っているといえる。そこで、「そう思う」に1点、「どちらかといえばそう思う」に2点、「あまりそう思わない」に3点、「そう思わない」に4点と、問題意識を持っているほど高い点数を与え、回答者一人ひとりについて合計点を算出した。10項目すべて無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最大40点から最小1点のスコアを得ることになる。このスコアを「人権についての考えスコア」と規定した。

全回答者が得たスコア別の回答者数は表1に示すとおりであるが、クロス集計を行うため、21点以下を「L」、22点以上28点以下を「M」、29点以上を「H」と3グループに分けた。参考までに、回答者の分布を示すと、「L」：29.5%、「M」：55.3%、「H」：13.8%、無回答：1.4%となっている。

表1 人権についての考えスコア別回答者数

スコア	回答者数	%	カテゴリー	
3点	1	0.1%	294 29.5%	L
5点	1	0.1%		
9点	1	0.1%		
10点	3	0.3%		
11点	3	0.3%		
12点	4	0.4%		
13点	4	0.4%		
14点	13	1.3%		
15点	9	0.9%		
16点	19	1.9%		
17点	24	2.4%		
18点	37	3.7%		
19点	48	4.8%		
20点	54	5.4%		
21点	73	7.3%	552 55.3%	M
22点	80	8.0%		
23点	90	9.0%		
24点	107	10.7%		
25点	91	9.1%		
26点	75	7.5%		
27点	56	5.6%		
28点	53	5.3%		
29点	38	3.8%	138 13.8%	H
30点	35	3.5%		
31点	22	2.2%		
32点	10	1.0%		
33点	21	2.1%		
34点	7	0.7%		
35点	1	0.1%		
37点	2	0.2%		
40点	2	0.2%	-	-
無回答	14	1.4%		
合計	998	100.0%		

1-2 人権三法の認知度スコアの算出方法

問24において、「(A)障害者差別解消法」「(B)ヘイトスピーチ解消法」「(C)部落差別解消推進法」の人権三法の認知度を聴取している。

これら3項目について、「内容も含め知っている」に3点、「名前は聞いたことがある」に2点、「知らない」に1点を与えた。つまり、スコアが高いほど認知度が高いということになる。回答者一人ひとりについて合計点を算出すると、3項目すべて無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最大9点から最小1点のスコアを得ることになる。このスコアを「人権三法の認知度スコア」と規定した。

全回答者が得たスコア別の回答者数は表2に示すとおりであるが、クロス集計を行うため、3点以下を「L」、4点以上5点以下を「M」、6点以上を「H」と3グループに分けた。参考までに、回答者の分布を示すと、「L」:38.4%、「M」:30.9%、「H」:26.6%、無回答:4.2%となっている。

表2 人権三法の認知度スコア別回答者数

スコア	回答者数	%	カテゴリー	
1点	1	0.1%	383 38.4%	L
2点	2	0.2%		
3点	380	38.1%		
4点	174	17.4%	308 30.9%	M
5点	134	13.4%		
6点	165	16.5%	265 26.6%	H
7点	43	4.3%		
8点	29	2.9%		
9点	28	2.8%		
無回答	42	4.2%	-	-
合計	998	100.0%		

1-3 人権に関する条約等の認知度スコアの算出方法

問24-1において、「(A)世界人権宣言」「(B)人種差別撤廃条約」「(C)国際人権規約」「(D)女子差別撤廃条約」「(E)児童(子ども)の権利条約」「(F)障害者権利条約」の6項目を設定し、人権に関する条約等の認知度を聴取している。

これら6項目について、問24と同様、「内容も含め知っている」に3点、「名前は聞いたことがある」に2点、「知らない」に1点を与え、回答者一人ひとりについて合計点を算出した。6項目すべて無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最大18点から最小1点のスコアを得ることになる。このスコアを「人権に関する条約等の認知度スコア」と規定した。

全回答者が得たスコア別の回答者数は表3に示すとおりであるが、クロス集計を行うため、6点以下を「L」、7点以上11点以下を「M」、12点以上を「H」と3グループに分けた。参考までに、回答者の分布を示すと、「L」:19.9%、「M」:43.9%、「H」:32.0%、無回答:4.2%となっている。

表3 人権に関する条約等の認知度スコア別回答者数

スコア	回答者数	%	カテゴリー	
2点	4	0.4%	199 19.9%	L
3点	3	0.3%		
5点	1	0.1%		
6点	191	19.1%	438 43.9%	M
7点	115	11.5%		
8点	90	9.0%		
9点	108	10.8%		
10点	72	7.2%		
11点	53	5.3%	319 32.0%	H
12点	174	17.4%		
13点	45	4.5%		
14点	35	3.5%		
15点	19	1.9%		
16点	11	1.1%		
17点	10	1.0%	-	-
18点	25	2.5%		
無回答	42	4.2%	-	-
合計	998	100.0%		

2. スコア別の分析結果

2-1 人権についての意識

「人権」ということをどの程度身近に感じるか〔問1〕について聴取した結果を、人権についての考えスコア、人権三法の認知度スコア、人権に関する条約等の認知度スコアそれぞれを「L」「M」「H」の3グループ別にみたものが表4である。

全体では「非常に身近に感じている」が7.9%と1割に満たないのに対して、人権についての考えスコアの「H」グループでは19.6%、人権三法の認知度スコアの「H」グループでは12.8%、人権に関する条約等の認知度スコアの「H」グループでは15.0%となっている。つまり、人権に対する問題意識が強い人や人権問題に関する法律や条約への認知度が高い人は、人権を身近に感じている傾向がみられる。

表4 スコア別人権についての意識(問1)

		サンプル数	非常に身近に感じている	かなり身近に感じている	どちらともいえない	あまり身近に感じていない	まったく身近に感じていない	無回答	
全体	実数	998	79	245	236	376	44	18	
	比率	100.0	7.9	24.5	23.6	37.7	4.4	1.8	
問4 人権についての考えスコア	L	実数	294	28	79	60	108	15	4
		比率	100.0	9.5	26.9	20.4	36.7	5.1	1.4
	M	実数	552	23	129	142	229	22	7
		比率	100.0	4.2	23.4	25.7	41.5	4.0	1.3
	H	実数	138	27	36	33	35	5	2
		比率	100.0	19.6	26.1	23.9	25.4	3.6	1.4
問24 人権三法の認知度スコア	L	実数	383	25	67	106	154	24	7
		比率	100.0	6.5	17.5	27.7	40.2	6.3	1.8
	M	実数	308	16	76	71	133	8	4
		比率	100.0	5.2	24.7	23.1	43.2	2.6	1.3
	H	実数	265	34	93	51	78	8	1
		比率	100.0	12.8	35.1	19.2	29.4	3.0	0.4
問24-1 人権に関する条約等の認知度スコア	L	実数	199	12	39	52	73	17	6
		比率	100.0	6.0	19.6	26.1	36.7	8.5	3.0
	M	実数	438	14	99	109	197	14	5
		比率	100.0	3.2	22.6	24.9	45.0	3.2	1.1
	H	実数	319	48	96	67	96	10	2
		比率	100.0	15.0	30.1	21.0	30.1	3.1	0.6

2-2 関心を持っている人権問題

関心を持っている人権問題〔問3〕について複数回答形式で聴取した結果を、人権についての考えスコア、人権三法の認知度スコア、人権に関する条約等の認知度スコア別にまとめたものが表5である。

「女性に関する問題」「子どもに関する問題」「ハンセン病患者・回復者に関する問題」「インターネットによる人権侵害の問題」の4項目について、3つのスコアの「H」グループで割合が高くなっている。つまり、人権に対する問題意識が強い人や人権問題に関する法律や条約への認知度が高い人は、これら4項目に対する関心が強い傾向にある。

そのなかでも、人権についての考えスコアの「H」グループでは「女性に関する問題」に関心を持っている割合が56.5%、「子どもに関する問題」の割合が55.8%、人権三法の認知度スコアの「H」グループでは「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が54.3%と、いずれも全体に比べ10ポイント以上の差がみられる。

対して、「高齢者に関する問題」に関心を持っている割合は、人権についての考えスコアの「L」グループでやや高い。

表5 スコア別関心を持っている人権問題(問3)

		サンプル数	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	外国籍住民に関する問題	部落差別(同和問題)に関する問題	アイヌの人々に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題	犯罪被害者に関する問題	エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者に関する問題	ハンセン病患者・回復者に関する問題	インターネットによる人権侵害の問題	ホームレスに関する問題	性的マイノリティ(少数者)に関する問題	その他	とくに関心をもっているものはない	無回答	
全体	実数	998	462	445	475	570	274	231	68	177	285	106	88	427	104	219	17	50	13	
	比率	100.0	46.3	44.6	47.6	57.1	27.5	23.1	6.8	17.7	28.6	10.6	8.8	42.8	10.4	21.9	1.7	5.0	1.3	
問4 人権についての考えスコア	L	実数	294	110	110	156	166	79	62	18	52	88	33	27	114	36	41	6	12	5
		比率	100.0	37.4	37.4	53.1	56.5	26.9	21.1	6.1	17.7	29.9	11.2	9.2	38.8	12.2	13.9	2.0	4.1	1.7
	M	実数	552	271	255	244	306	143	123	36	93	150	53	39	248	45	122	9	33	4
		比率	100.0	49.1	46.2	44.2	55.4	25.9	22.3	6.5	16.8	27.2	9.6	7.1	44.9	8.2	22.1	1.6	6.0	0.7
	H	実数	138	78	77	69	95	52	45	13	29	44	19	22	64	22	56	2	4	0
		比率	100.0	56.5	55.8	50.0	68.8	37.7	32.6	9.4	21.0	31.9	13.8	15.9	46.4	15.9	40.6	1.4	2.9	0.0
問24 人権三法の認知度スコア	L	実数	383	171	160	190	204	85	73	21	66	87	35	24	136	30	62	4	31	7
		比率	100.0	44.6	41.8	49.6	53.3	22.2	19.1	5.5	17.2	22.7	9.1	6.3	35.5	7.8	16.2	1.0	8.1	1.8
	M	実数	308	135	135	128	174	79	60	18	50	93	33	25	139	33	71	4	13	1
		比率	100.0	43.8	43.8	41.6	56.5	25.6	19.5	5.8	16.2	30.2	10.7	8.1	45.1	10.7	23.1	1.3	4.2	0.3
	H	実数	265	142	133	132	169	103	86	25	53	92	32	35	144	37	82	8	2	1
		比率	100.0	53.6	50.2	49.8	63.8	38.9	32.5	9.4	20.0	34.7	12.1	13.2	54.3	14.0	30.9	3.0	0.8	0.4
問24-1 人権に関する条約等の認知度スコア	L	実数	199	83	86	95	102	43	30	7	27	52	15	9	58	17	25	4	21	5
		比率	100.0	41.7	43.2	47.7	51.3	21.6	15.1	3.5	13.6	26.1	7.5	4.5	29.1	8.5	12.6	2.0	10.6	2.5
	M	実数	438	186	183	191	238	113	102	27	72	123	42	35	201	42	87	6	20	3
		比率	100.0	42.5	41.8	43.6	54.3	25.8	23.3	6.2	16.4	28.1	9.6	8.0	45.9	9.6	19.9	1.4	4.6	0.7
	H	実数	319	176	155	158	204	108	89	28	68	98	43	37	156	39	100	6	8	1
		比率	100.0	55.2	48.6	49.5	63.9	33.9	27.9	8.8	21.3	30.7	13.5	11.6	48.9	12.2	31.3	1.9	2.5	0.3

2-3 住宅選択における忌避意識

家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、「同和地区」や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思うか〔問20〕について聴取した結果を、各スコア別にまとめたものが表6である。

「いずれにあってもこだわらない」の割合に着目すると、全体では 39.6%なのに対し、人権についての考えスコアの「H」グループでは 50.0%、人権三法の認知度スコアの「H」グループでは 48.3%、人権に関する条約等の認知度スコアの「H」グループでは 48.0%となっており、全体に比べ約 8～10 ポイント高くなっている。つまり、人権に対する問題意識が強い人や人権問題に関する法律や条約への認知度が高い人は、住宅選択における忌避意識が低い傾向にある。

対して、「同和地区」や同じ小学校区に同和地区がある物件は避けると思う」の割合は、人権三法の認知度スコアと人権に関する条約等の認知度スコアの「L」グループでやや高い傾向にある。

表6 スコア別住宅選択における忌避意識(問20)

		サンプル数	「同和地区」 や同じ小学校区に同和地区がある物件は避けると思う	「同和地区」 にある物件は避けるが、同じ小学校区に同和地区がある物件は避けたいと思う	いずれにあってもこだわらない	その他	無回答	
全体	実数	998	279	256	395	26	42	
	比率	100.0	28.0	25.7	39.6	2.6	4.2	
問4 人権についての考えスコア	L	実数	294	85	66	123	4	16
		比率	100.0	28.9	22.4	41.8	1.4	5.4
	M	実数	552	165	158	198	16	15
		比率	100.0	29.9	28.6	35.9	2.9	2.7
	H	実数	138	27	31	69	6	5
		比率	100.0	19.6	22.5	50.0	4.3	3.6
問24 人権三法の認知度スコア	L	実数	383	125	85	146	10	17
		比率	100.0	32.6	22.2	38.1	2.6	4.4
	M	実数	308	94	86	110	8	10
		比率	100.0	30.5	27.9	35.7	2.6	3.2
	H	実数	265	50	79	128	6	2
		比率	100.0	18.9	29.8	48.3	2.3	0.8
問24-1 人権に関する条約等の認知度スコア	L	実数	199	64	43	75	7	10
		比率	100.0	32.2	21.6	37.7	3.5	5.0
	M	実数	438	131	129	156	10	12
		比率	100.0	29.9	29.5	35.6	2.3	2.7
	H	実数	319	76	77	153	7	6
		比率	100.0	23.8	24.1	48.0	2.2	1.9

3. 回答者の属性別スコア

3-1 回答者の属性別人権についての考えスコア

回答者の性別、年齢、職業など属性別に人権についての考えスコアの分布状況をまとめたものが表9である。

全体では「L」グループが 29.5%、「M」グループが 55.3%、「H」グループが 13.8%となっている。

次に、属性ごとの数値についてだが、30 サンプル未満の属性の回答比率は参考値として扱うため、コメント内では記載をしない。(3-2、3-3 も同様)

まず、性別×年齢別にみると、男女ともに 70 歳以上で「L」グループの割合が高く、4割台～5割強となっている。

職業別にみると、サンプル数は少ないが、「公務員、教員」は「H」グループの割合が 29.7%と、全体に比べ高い。対して、「無職」では「L」グループの割合が高めである。

表9 回答者の属性別人権についての考えスコア①

			サンプル数	L	M	H	無回答	平均
全体			実数 998	294	552	138	14	23.67
			比率 100.0	29.5	55.3	13.8	1.4	
性別 × 年齢別	男性	10・20歳代	実数 30	9	17	4	0	23.83
			比率 100.0	30.0	56.7	13.3	0.0	
		30・40歳代	実数 131	34	82	15	0	23.94
			比率 100.0	26.0	62.6	11.5	0.0	
		50・60歳代	実数 205	63	110	27	5	23.73
		比率 100.0	30.7	53.7	13.2	2.4		
		70歳以上	実数 123	55	52	14	2	21.71
		比率 100.0	44.7	42.3	11.4	1.6		
		無回答	実数 0	0	0	0	0	-
		比率 -	0.0	0.0	0.0	0.0		
	女性	10・20歳代	実数 45	6	31	8	0	25.93
			比率 100.0	13.3	68.9	17.8	0.0	
		30・40歳代	実数 127	20	88	19	0	24.54
			比率 100.0	15.7	69.3	15.0	0.0	
50・60歳代		実数 197	41	125	29	2	24.28	
	比率 100.0	20.8	63.5	14.7	1.0			
	70歳以上	実数 107	55	34	14	4	22.24	
	比率 100.0	51.4	31.8	13.1	3.7			
	無回答	実数 0	0	0	0	0	-	
	比率 -	0.0	0.0	0.0	0.0			
性別	男性	実数 489	161	261	60	7	23.29	
		比率 100.0	32.9	53.4	12.3	1.4		
	女性	実数 476	122	278	70	6	24.06	
		比率 100.0	25.6	58.4	14.7	1.3		
	回答しない	実数 24	6	10	7	1	24.52	
	比率 100.0	25.0	41.7	29.2	4.2			
	無回答	実数 9	5	3	1	0	21.78	
	比率 100.0	55.6	33.3	11.1	0.0			
年齢別	10・20歳代	実数 76	15	48	13	0	25.15	
		比率 100.0	19.7	63.2	17.1	0.0		
	30・40歳代	実数 272	58	177	36	1	24.22	
		比率 100.0	21.3	65.1	13.2	0.4		
	50・60歳代	実数 408	105	236	60	7	24.05	
		比率 100.0	25.7	57.8	14.7	1.7		
	70歳以上	実数 233	112	87	28	6	21.89	
	比率 100.0	48.1	37.3	12.0	2.6			
	無回答	実数 9	4	4	1	0	22.67	
	比率 100.0	44.4	44.4	11.1	0.0			
職業別	自営業	実数 77	18	46	11	2	24.24	
		比率 100.0	23.4	59.7	14.3	2.6		
	公務員、教員	実数 37	2	24	11	0	26.84	
		比率 100.0	5.4	64.9	29.7	0.0		
	民間企業・団体の経営者、役員	実数 14	5	8	1	0	22.57	
		比率 100.0	35.7	57.1	7.1	0.0		
	民間企業・団体の正規職員	実数 257	61	163	33	0	24.11	
		比率 100.0	23.7	63.4	12.8	0.0		
	非正規職員	実数 197	56	117	23	1	23.82	
		比率 100.0	28.4	59.4	11.7	0.5		
学生	実数 10	1	9	0	0	24.10		
	比率 100.0	10.0	90.0	0.0	0.0			
無職	実数 345	127	160	48	10	22.89		
	比率 100.0	36.8	46.4	13.9	2.9			
その他	実数 44	19	19	6	0	22.86		
	比率 100.0	43.2	43.2	13.6	0.0			
無回答	実数 17	5	6	5	1	24.25		
	比率 100.0	29.4	35.3	29.4	5.9			

外国人、性的マイノリティ(少数者)、部落出身の友人・知人について「親しくしている人がある」「知り合いの中にいる」と回答した人では、「H」グループの割合が2割台と、全体に比べ高くなっている。

部落差別学習別にみると、「学校で学んだ経験はない」では「L」グループの割合が約4割と、全体を10ポイント以上上回っている。

人権問題啓発との接触度別では、全体との差はあまりみられない。

人権問題啓発との接触度別については、属性別スコアのために新しくスコア化をしており、ここで簡単に算出方法を記載する。スコア化には問23の9項目を用いており、「講演会」や「啓発展示会」などの人権問題啓発について、「とても役に立った」「役に立った」「役に立たなかった」「参加して(読んで)いない」の選択肢で意見を聴取している。「とても役に立った」「役に立った」「役に立たなかった」を「人権問題啓発と接触あり」として2点、「参加して(読んで)いない」を「人権問題啓発と接触なし」として1点を与え、合計点を算出した。全項目無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最大18点から最小1点のスコアを得る。スコア別の回答者数は表10のとおりである。9点以下を「L」、10点以上を「H」と2グループに分け、属性別スコアに用いた。

表9 回答者の属性別人権についての考えスコア②

		サンプル数	L	M	H	無回答	平均	
外国人の友人・知人の有無	親しくしている人がある	実数	255	70	129	53	3	24.22
		比率	100.0	27.5	50.6	20.8	1.2	
	親しくしている人はいない	実数	600	179	350	66	5	23.55
		比率	100.0	29.8	58.3	11.0	0.8	
	わからない	実数	121	34	68	19	0	23.84
		比率	100.0	28.1	56.2	15.7	0.0	
	無回答	実数	22	11	5	0	6	18.25
		比率	100.0	50.0	22.7	0.0	27.3	
性的マイノリティ(少数者)の友人・知人の有無	知り合いの中にいる	実数	128	23	79	26	0	24.98
		比率	100.0	18.0	61.7	20.3	0.0	
	知り合いの中にないない	実数	600	202	321	72	5	23.24
		比率	100.0	33.7	53.5	12.0	0.8	
	わからない	実数	249	59	147	39	4	24.29
		比率	100.0	23.7	59.0	15.7	1.6	
	無回答	実数	21	10	5	1	5	19.81
		比率	100.0	47.6	23.8	4.8	23.8	
部落出身の友人・知人の有無	親しくしている人がある	実数	154	39	80	33	2	24.11
		比率	100.0	25.3	51.9	21.4	1.3	
	親しくしている人はいない	実数	300	110	159	29	2	22.84
		比率	100.0	36.7	53.0	9.7	0.7	
	わからない	実数	528	137	310	74	7	24.13
		比率	100.0	25.9	58.7	14.0	1.3	
	無回答	実数	16	8	3	2	3	19.31
		比率	100.0	50.0	18.8	12.5	18.8	
部落差別学習別	小学校で学んだ	実数	273	51	181	41	0	24.38
		比率	100.0	18.7	66.3	15.0	0.0	
	中学校で学んだ	実数	216	38	148	30	0	24.61
		比率	100.0	17.6	68.5	13.9	0.0	
	高等・高等専修学校で学んだ	実数	109	22	60	27	0	25.02
		比率	100.0	20.2	55.0	24.8	0.0	
	短大・大学・専門学校で学んだ	実数	22	1	11	10	0	27.73
		比率	100.0	4.5	50.0	45.5	0.0	
	はっきりと覚えていない	実数	286	96	143	41	6	23.60
		比率	100.0	33.6	50.0	14.3	2.1	
学校で学んだ経験はない	実数	239	97	108	30	4	22.90	
	比率	100.0	40.6	45.2	12.6	1.7		
無回答	実数	26	13	7	2	4	19.77	
	比率	100.0	50.0	26.9	7.7	15.4		
人権問題啓発との接触度別	L	実数	707	207	388	107	5	23.96
		比率	100.0	29.3	54.9	15.1	0.7	
	H	実数	213	56	131	24	2	23.47
		比率	100.0	26.3	61.5	11.3	0.9	

表10 人権問題啓発との接触度スコア別回答者数

スコア	回答者数	%	カテゴリー	
1点	3	0.3%	707 70.8%	L
2点	17	1.7%		
4点	7	0.7%		
5点	2	0.2%		
6点	6	0.6%		
7点	2	0.2%		
8点	341	34.2%		
9点	329	33.0%	213 21.3%	H
10点	76	7.6%		
11点	65	6.5%		
12点	23	2.3%		
13点	11	1.1%		
14点	8	0.8%		
15点	7	0.7%		
16点	14	1.4%		
17点	1	0.1%		
18点	8	0.8%		
無回答	78	7.8%	-	-
合計	998	100.0%		

3-2 回答者の属性別人権三法の認知度スコア

表11は、回答者の属性別に人権三法の認知度スコアの分布状況をまとめたものである。

全体では「L」グループが38.4%、「M」グループが30.9%、「H」グループが26.6%となっている。

性別×年齢別にみると、男性の70歳以上で「H」グループの割合が高く、34.1%となっている。サンプル数は少ないが、女性の10・20歳代では「L」グループの割合が高い。

職業別にみると、サンプル数は少ないが、「公務員、教員」は「H」グループの割合が56.8%と半数以上を占めており、全体と比べても約30ポイント高い。対して、「非正規職員」では「L」グループの割合が高めである。

表11 回答者の属性別人権三法の認知度スコア①

			サンプル数	L	M	H	無回答	平均	
全体			実数 998	383	308	265	42	4.48	
			比率 100.0	38.4	30.9	26.6	4.2		
性別 × 年齢別	男性	10・20歳代	実数 30	12	10	8	0	4.37	
			比率 100.0	40.0	33.3	26.7	0.0		
		30・40歳代	実数 131	53	38	39	1	4.56	
			比率 100.0	40.5	29.0	29.8	0.8		
		50・60歳代	実数 205	72	72	52	9	4.53	
			比率 100.0	35.1	35.1	25.4	4.4		
		70歳以上	実数 123	40	31	42	10	4.74	
			比率 100.0	32.5	25.2	34.1	8.1		
		無回答	実数 0	0	0	0	0	-	
			比率 -	0.0	0.0	0.0	0.0		
		女性	10・20歳代	実数 45	22	14	9	0	4.22
				比率 100.0	48.9	31.1	20.0	0.0	
			30・40歳代	実数 127	55	39	31	2	4.32
				比率 100.0	43.3	30.7	24.4	1.6	
	50・60歳代		実数 197	77	60	57	3	4.52	
			比率 100.0	39.1	30.5	28.9	1.5		
	70歳以上	実数 107	39	36	19	13	4.29		
		比率 100.0	36.4	33.6	17.8	12.1			
	無回答	実数 0	0	0	0	0	-		
		比率 -	0.0	0.0	0.0	0.0			
性別	男性	実数 489	177	151	141	20	4.58		
		比率 100.0	36.2	30.9	28.8	4.1			
	女性	実数 476	193	149	116	18	4.39		
		比率 100.0	40.5	31.3	24.4	3.8			
	回答しない	実数 24	11	6	7	0	4.54		
		比率 100.0	45.8	25.0	29.2	0.0			
	無回答	実数 9	2	2	1	4	4.00		
		比率 100.0	22.2	22.2	11.1	44.4			
年齢別	10・20歳代	実数 76	34	24	18	0	4.30		
		比率 100.0	44.7	31.6	23.7	0.0			
	30・40歳代	実数 272	115	82	72	3	4.42		
		比率 100.0	42.3	30.1	26.5	1.1			
	50・60歳代	実数 408	150	134	112	12	4.54		
		比率 100.0	36.8	32.8	27.5	2.9			
	70歳以上	実数 233	80	68	62	23	4.53		
		比率 100.0	34.3	29.2	26.6	9.9			
	無回答	実数 9	4	0	1	4	3.60		
		比率 100.0	44.4	0.0	11.1	44.4			
職業別	自営業	実数 77	29	23	22	3	4.50		
		比率 100.0	37.7	29.9	28.6	3.9			
	公務員、教員	実数 37	4	12	21	0	5.97		
		比率 100.0	10.8	32.4	56.8	0.0			
	民間企業・団体の経営者、役員	実数 14	7	2	5	0	4.64		
		比率 100.0	50.0	14.3	35.7	0.0			
	民間企業・団体の正規職員	実数 257	99	85	71	2	4.48		
		比率 100.0	38.5	33.1	27.6	0.8			
	非正規職員	実数 197	88	57	48	4	4.32		
		比率 100.0	44.7	28.9	24.4	2.0			
	学生	実数 10	3	3	4	0	4.80		
		比率 100.0	30.0	30.0	40.0	0.0			
	無職	実数 345	127	109	84	25	4.44		
		比率 100.0	36.8	31.6	24.3	7.2			
	その他	実数 44	19	16	7	2	4.21		
		比率 100.0	43.2	36.4	15.9	4.5			
	無回答	実数 17	7	1	3	6	4.27		
		比率 100.0	41.2	5.9	17.6	35.3			

外国人、性的マイノリティ(少数者)、部落出身の友人・知人について「親しくしている人がいる」「知り合いの中にいる」と回答した人では、「H」グループの割合が3割台～4割台となっており、全体に比べ高くなっている。

部落差別学習別にみると、「高等・高等専修学校で学んだ」では「H」グループの割合が43.1%となっている。

人権問題啓発との接触度別にみると、接触度が高い層(H)では「H」グループの割合が43.7%であり、全体と比べると17.1%、低い層(L)と比べると21.2%高くなっている。つまり、人権問題啓発に参加した人は人権三法の認知度が高い傾向にある。

表11 回答者の属性別人権三法の認知度スコア②

			サンプル数	L	M	H	無回答	平均
外国人の友人・知人の有無	親しくしている人がいる	実数	255	77	84	90	4	4.92
		比率	100.0	30.2	32.9	35.3	1.6	
	親しくしている人はいない	実数	600	253	176	145	26	4.31
		比率	100.0	42.2	29.3	24.2	4.3	
	わからない	実数	121	48	42	27	4	4.39
		比率	100.0	39.7	34.7	22.3	3.3	
	無回答	実数	22	5	6	3	8	4.43
		比率	100.0	22.7	27.3	13.6	36.4	
性的マイノリティ(少数者)の友人・知人の有無	知り合いの中にいる	実数	128	40	38	50	0	4.91
		比率	100.0	31.3	29.7	39.1	0.0	
	知り合いの中にいない	実数	600	231	193	149	27	4.40
		比率	100.0	38.5	32.2	24.8	4.5	
	わからない	実数	249	107	71	63	8	4.47
		比率	100.0	43.0	28.5	25.3	3.2	
	無回答	実数	21	5	6	3	7	4.43
		比率	100.0	23.8	28.6	14.3	33.3	
部落出身の友人・知人の有無	親しくしている人がいる	実数	154	41	38	64	11	5.26
		比率	100.0	26.6	24.7	41.6	7.1	
	親しくしている人はいない	実数	300	128	98	65	9	4.24
		比率	100.0	42.7	32.7	21.7	3.0	
	わからない	実数	528	210	170	134	14	4.41
		比率	100.0	39.8	32.2	25.4	2.7	
	無回答	実数	16	4	2	2	8	4.00
		比率	100.0	25.0	12.5	12.5	50.0	
部落差別学習別	小学校で学んだ	実数	273	112	79	80	2	4.59
		比率	100.0	41.0	28.9	29.3	0.7	
	中学校で学んだ	実数	216	62	79	73	2	4.82
		比率	100.0	28.7	36.6	33.8	0.9	
	高等・高等専修学校で学んだ	実数	109	27	31	47	4	5.21
		比率	100.0	24.8	28.4	43.1	3.7	
	短大・大学・専門学校で学んだ	実数	22	6	8	8	0	5.14
		比率	100.0	27.3	36.4	36.4	0.0	
	はっきりと覚えていない	実数	286	122	89	63	12	4.23
		比率	100.0	42.7	31.1	22.0	4.2	
学校で学んだ経験はない	実数	239	97	70	59	13	4.43	
	比率	100.0	40.6	29.3	24.7	5.4		
無回答	実数	26	9	4	2	11	3.73	
	比率	100.0	34.6	15.4	7.7	42.3		
人権問題啓発との接触度別	L	実数	707	311	222	159	15	4.28
		比率	100.0	44.0	31.4	22.5	2.1	
	H	実数	213	46	71	93	3	5.27
		比率	100.0	21.6	33.3	43.7	1.4	

3-3 回答者の属性別人権に関する条約等の認知度スコア

表12は、回答者の属性別に人権に関する条約等の認知度スコアの分布状況をまとめたものである。

全体では「L」グループが19.9%、「M」グループが43.9%、「H」グループが32.0%となっている。

性別×年齢別にみると、女性の10・20歳代、30・40歳代で「H」グループの割合が高く4割を超えており、全体を10ポイント以上上回っている。

職業別にみると、サンプル数は少ないものの、「公務員、教員」は「H」グループの割合が70.3%と非常に高い。対して、「無職」では「L」グループの割合が23.2%とやや高めである。

表12 回答者の属性別人権に関する条約等の認知度スコア①

			サンプル数	L	M	H	無回答	平均
全体			実数 998	199	438	319	42	9.64
			比率 100.0	19.9	43.9	32.0	4.2	
性別 × 年齢別	男性	10・20歳代	実数 30	4	10	16	0	11.20
			比率 100.0	13.3	33.3	53.3	0.0	
		30・40歳代	実数 131	28	64	38	1	9.71
			比率 100.0	21.4	48.9	29.0	0.8	
		50・60歳代	実数 205	37	99	61	8	9.44
			比率 100.0	18.0	48.3	29.8	3.9	
		70歳以上	実数 123	28	48	36	11	9.22
			比率 100.0	22.8	39.0	29.3	8.9	
		無回答	実数 0	0	0	0	0	-
			比率 -	0.0	0.0	0.0	0.0	
	女性	10・20歳代	実数 45	6	17	22	0	10.80
			比率 100.0	13.3	37.8	48.9	0.0	
		30・40歳代	実数 127	19	51	55	2	10.18
			比率 100.0	15.0	40.2	43.3	1.6	
50・60歳代		実数 197	40	98	56	3	9.54	
		比率 100.0	20.3	49.7	28.4	1.5		
	70歳以上	実数 107	25	40	29	13	9.00	
		比率 100.0	23.4	37.4	27.1	12.1		
	無回答	実数 0	0	0	0	0	-	
		比率 -	0.0	0.0	0.0	0.0		
性別	男性	実数 489	97	221	151	20	9.57	
		比率 100.0	19.8	45.2	30.9	4.1		
	女性	実数 476	90	206	162	18	9.73	
		比率 100.0	18.9	43.3	34.0	3.8		
	回答しない	実数 24	10	9	5	0	9.38	
		比率 100.0	41.7	37.5	20.8	0.0		
	無回答	実数 9	2	2	1	4	8.40	
		比率 100.0	22.2	22.2	11.1	44.4		
年齢別	10・20歳代	実数 76	10	27	39	0	11.05	
		比率 100.0	13.2	35.5	51.3	0.0		
	30・40歳代	実数 272	53	121	95	3	9.89	
		比率 100.0	19.5	44.5	34.9	1.1		
	50・60歳代	実数 408	79	199	119	11	9.50	
		比率 100.0	19.4	48.8	29.2	2.7		
	70歳以上	実数 233	55	89	65	24	9.08	
		比率 100.0	23.6	38.2	27.9	10.3		
	無回答	実数 9	2	2	1	4	8.20	
		比率 100.0	22.2	22.2	11.1	44.4		
職業別	自営業	実数 77	15	35	24	3	9.78	
		比率 100.0	19.5	45.5	31.2	3.9		
	公務員、教員	実数 37	0	11	26	0	12.32	
		比率 100.0	0.0	29.7	70.3	0.0		
	民間企業・団体の経営者、役員	実数 14	0	7	7	0	11.07	
		比率 100.0	0.0	50.0	50.0	0.0		
	民間企業・団体の正規職員	実数 257	47	117	91	2	9.85	
		比率 100.0	18.3	45.5	35.4	0.8		
	非正規職員	実数 197	39	91	63	4	9.50	
		比率 100.0	19.8	46.2	32.0	2.0		
学生	実数 10	1	2	7	0	12.80		
	比率 100.0	10.0	20.0	70.0	0.0			
無職	実数 345	80	148	92	25	9.14		
	比率 100.0	23.2	42.9	26.7	7.2			
その他	実数 44	12	22	8	2	9.33		
	比率 100.0	27.3	50.0	18.2	4.5			
無回答	実数 17	5	5	1	6	7.91		
	比率 100.0	29.4	29.4	5.9	35.3			

外国人、性的マイノリティ(少数者)、部落出身の友人・知人について「親しくしている人がいる」「知り合いの中にいる」と回答した人では、「H」グループの割合が4割台～5割台と高い。

部落差別学習別にみると、「中学校で学んだ」「高等・高等専修学校で学んだ」では、「H」グループの割合が4割を超えている。

人権問題啓発との接触度別にみると、接触度が高い層(H)では「H」グループの割合が43.7%となっており、全体と比べて10ポイント以上高い。反対に、「L」グループは11.3%と低い。前述の人権三法と同様、人権問題啓発に参加した人は人権に関する条約等の認知度が高い傾向にある。接触度が低い層(L)では、全体との差があまりみられない。

表12 回答者の属性別人権に関する条約等の認知度スコア②

			サンプル数	L	M	H	無回答	平均
外国人の友人・知人の有無	親しくしている人がいる	実数	255	41	106	104	4	10.36
		比率	100.0	16.1	41.6	40.8	1.6	
	親しくしている人はいない	実数	600	130	272	174	24	9.39
		比率	100.0	21.7	45.3	29.0	4.0	
	わからない	実数	121	21	56	38	6	9.52
		比率	100.0	17.4	46.3	31.4	5.0	
	無回答	実数	22	7	4	3	8	7.79
		比率	100.0	31.8	18.2	13.6	36.4	
性的マイノリティ(少数者)の友人・知人の有無	知り合いの中にいる	実数	128	11	46	71	0	11.25
		比率	100.0	8.6	35.9	55.5	0.0	
	知り合いの中にないない	実数	600	122	283	170	25	9.40
		比率	100.0	20.3	47.2	28.3	4.2	
	わからない	実数	249	58	105	75	11	9.41
		比率	100.0	23.3	42.2	30.1	4.4	
	無回答	実数	21	8	4	3	6	8.47
		比率	100.0	38.1	19.0	14.3	28.6	
部落出身の友人・知人の有無	親しくしている人がいる	実数	154	22	56	64	12	10.58
		比率	100.0	14.3	36.4	41.6	7.8	
	親しくしている人はいない	実数	300	80	131	82	7	9.04
		比率	100.0	26.7	43.7	27.3	2.3	
	わからない	実数	528	95	248	170	15	9.71
		比率	100.0	18.0	47.0	32.2	2.8	
	無回答	実数	16	2	3	3	8	10.13
		比率	100.0	12.5	18.8	18.8	50.0	
部落差別学習別	小学校で学んだ	実数	273	53	121	97	2	9.91
		比率	100.0	19.4	44.3	35.5	0.7	
	中学校で学んだ	実数	216	31	93	89	3	10.44
		比率	100.0	14.4	43.1	41.2	1.4	
	高等・高等専修学校で学んだ	実数	109	15	43	48	3	10.77
		比率	100.0	13.8	39.4	44.0	2.8	
	短大・大学・専門学校で学んだ	実数	22	1	10	11	0	11.09
		比率	100.0	4.5	45.5	50.0	0.0	
	はっきりと覚えていない	実数	286	57	138	78	13	9.27
		比率	100.0	19.9	48.3	27.3	4.5	
学校で学んだ経験はない	実数	239	57	99	71	12	9.30	
	比率	100.0	23.8	41.4	29.7	5.0		
無回答	実数	26	6	6	3	11	8.40	
	比率	100.0	23.1	23.1	11.5	42.3		
人権問題啓発との接触度別	L	実数	707	154	331	209	13	9.38
		比率	100.0	21.8	46.8	29.6	1.8	
	H	実数	213	24	91	93	5	10.71
		比率	100.0	11.3	42.7	43.7	2.3	

IV. 補論

1. 地対財特法の法期限（2002）より 16 年以上が経過、部落問題の「認知」や学習経験等に、どのような変化があるか

※経年による変化を見る方法 → **経年比較** + **年代別比較** [尼崎市調査は年代が揃っていない！]

(1) 認知経路 Q19（年代別比較） p.68

- ・ 私的経路（「家族から聞いた」等）は、年代 UP と共に増加（「10・20 歳代」～「70 歳代」で 13.8 ポイント差）
- ・ 「学校の授業」は、年代 DOWN と共に増加（「10・20 歳代」～「70 歳代」で 44.8 ポイント差）
「学校の授業」は、「50 歳代」より若い年代層から、大きく増加。「10・20 歳代」でやや減少
- ・ 最も若い年代（「10・20 歳代」）に注目すると「学校」は 3 割台半ばだが、「家族」「部落差別を知らない」がそれぞれ 10 割台半ば。[c.f.内閣府調査の同年代回答は、「学校」37.3, 「知らない」30.2]

(2) 学校での学習経験 Q21（年代別比較） p.68

- ・ 義務教育段階で比較すると、やはり「50 歳代」より若い年代層から、小・中学校での学習経験は増加する。
- ・ 「はっきりと覚えていない」「学校で学んだ経験はない」が、「30～50 歳代」で低い（「10・20 歳代」が、「60 歳代」以上と同様に、再び高くなる傾向に注意）

【参考】年齢×特別法（1969-2002）と義務教育を受けた時期の関係（2018 年末を起点） p.68

2. マイノリティ当事者との接触度の比較

- ・ 接触仮説…異なる集団間に対する偏見は、相手に対する知識の欠如が関わっているので、異集団間の成員が接触することにより両者の関係が改善される（オルポート,1954）

(1) 「接触仮説」の前提となる 3 つの質問 p.69

Q12 あなたが、親しくしている人の中に外国人はいますか

Q22 あなたが親しくしている人の中に部落出身（同和地区出身）の人はいますか。

Q16 あなたのお知り合いや友人の中に性的マイノリティ（少数者）の人はいますか。

- ・ 「親しくしている人がいる」 部落出身の人 **15.4%** < 外国人 **25.6%**
- ・ 性的マイノリティの知り合い・友人がいる **12.8%**

（但し、部落出身者・外国人について「親しくしていないけれど、知り合いがいる」割合がわからないため、3つを比較できない。すべてQ16方式に統一するか、「親しくないが、知り合いがいる」を選択肢にすべきだった）

(2) 「部落出身者」と「外国人」の比較 p.69-70 →逆の傾向

- ・ 「親しくしている人がいる」は、「外国人」では若い年代層のほうに(「50歳代以下」)多いのに対し、「部落出身者」では年代が高くなるにつれ、少しずつ増える。
- ・ 親しくしている人の中に、いるかどうか「わからない」という回答は、「外国人」では「40歳代」以上の年代にわずかに多いが、「部落出身者」では若い年代ほど多くなっている(見えなくなっている)

(3) 「性的マイノリティ」 p.70

- ・ 知り合い・友人に「いる」は、若い年代ほど多い(「10・20歳代」～「70歳代」で32.9ポイント差)。また、「わからない」も「40歳代」未満に多い。(「いない」と決めつけず、考えているということか)

3. 結婚について

(1) 結婚相手に求める条件 Q17 p.71-72

- ・ 「あなたにお子さんがいるとして、お子さんの結婚相手に求める条件」をきくか、「あなた自身の条件」をきくか →尼崎調査は後者のみとしたので、集計対象となる回答者が限定され、属性別比較が困難(例：相手が女性の場合=男性回答者のみ集計。もちろん「超ジェンダーフリー」集計も可能だが)
- ・ 相手が女性の場合(男性のみ集計)、相手が男性の場合(女性のみ集計)の比較…p.71-72

(2) 結婚に対する態度Q17-1 (A部落出身者、B在日韓国・朝鮮人、C障がいのある人)の比較 p.73

A部落出身者	結婚「する」56.9%
B在日韓国・朝鮮人	結婚「する」56.3%
C障がいのある人	結婚「する」49.8%

- ・ 「部落出身者」では、「女性」の割合がやや低い(他でも共通する傾向、これは「マジョリティの、逆転」「複合差別」“なのか”)

(3) ふたたび、結婚相手に求める条件 p.73

- ・ A～Cすべてについて「結婚する」「結婚しない」とした者を選び出し、結婚相手に求めた条件を比較(非常に、差別的な回答者と、そうではない回答者の比較。ジェンダーフリーの度合いが見えるか?と期待)

相手が女性の場合…「する」→**性格**、**容姿・身なり**、教養・センス、趣味・特技
「しない」→健康状況

- ・ 相手が男性の場合…「する」→教養・センス、思想・信条、**行動力・実行力**
「しない」→職業、家庭環境

4. 部落差別の「現状認識」と「意識・態度」のズレ

(1) 部落差別の「現状認識」 Q18 p.74-79

- | | |
|------------------|--------------------------|
| A 日常の交流や交際 | B 学校生活における教員や子どもとの交流において |
| C 就職について | D 結婚について |
| E 引っ越しや住宅の購入に関して | F インターネット上の差別的な情報の拡散 |

- ・ 「学校生活」を除くと、「女性」の「わからない」が男性より多い（5%以上の差がある）
- ・ 「インターネット」を除くと「10・20歳代」の「わからない」が最も多い。
- ・ 全体として、啓発との接触度が高い者のほうが「ある」「ない」とも増え、「わからない」が減る（判断がはっきりする）



これらを全体で比較すると…

差別が「ある」（明らかな差別がある+どちらかといえば差別がある）の多かった順では… p.80

結婚 → インターネット → 就職 → 引っ越し（住宅・土地） → 日常の交流や交際 → 学校生活 の順

(2) 部落に対する「意識・態度」

- ① 結婚に対する態度 Q17-1A（既出）
- ② 土地・住宅 Q20 p.81

(3) 「現状認識」と「意識・態度」のズレ p.82

現状認識		意識・態度
①結婚 差別が「ある」36.4%	➡	結婚する(=差別はしない)56.9%
②土地・住宅 差別が「ある」16.6%	➡	こだわらない(=差別はしない)39.6% 逆転がある!

(4) 「現状認識」×「意識・態度」のクロス集計 p.82

- ・ 結婚差別が「ある」と思っているも、「結婚する」（差別をしない）53.4%が、「結婚しない」42.7%を上回る
- ・ 住宅・土地差別が「ない」と思っているも、同和地区を「避ける」が53.5%あり（半数以上）、「こだわらない」43.0%を上回る

5. 部落差別が「ある」（現状認識）と思っけていても、「差別をしない」（意識・態度）者に、教育・啓発の影響はみられるのか？

- ・ 啓発接触度スコアの算出方法 p.83
- ・ 結婚においては比較的、啓発と教育との関係が見えやすい p.83
- ・ 土地・住宅においては、「差別がある」と思っけていても、「こだわらない」という者が少数事例となっけてしまい、あまりはっきりと傾向が見えない。p.84

(1) 問4 「人権についての考え方」 A~Jの因子分析にかけた p.85

- さまざまな視点にたつ10の意見を、個別に検討するばかりでなく、共通性のある質問群にわけ、グループごとに属性別の比較を行ったほうが、傾向を把握しやすい。そこで、10問に対して因子分析を行い、回答(変量)の背景にある潜在的な「共通因子」を見つけ、特定の共通因子から同じように強い影響を受けている質問群をまとめてみることにした。各回答は「そう思う」=1、「どちらかといえばそう思う」=2、「あまりそう思わない」=3、「そう思わない」=4のまま(「回答なし」は欠損値とし除外)、因子分析を行ったところ、意味のある3因子(初期の固有値1以上¹)が抽出された。
- 3質問群について、それぞれ信頼度係数(クロンバックの α 信頼性係数)をみたところ、すべて0.5以上となったので、それぞれを1つの質問群としてみなすこととした(内的整合性がある)。
- 因子をどう名づけるかは主観によるので、以下の通りとした。

第1因子=「自己責任・自助努力志向」因子

第2因子=「徳目・共同体志向」因子

第3因子=「法・制度志向」因子

(データの33.290%を、この3つで説明できる) p. 85

p. 87-88

(回答を逆転させていないので、図では、左の値が大きいほど、その因子の特定をより強く有していること、右の値が大きいほど弱いこと、を示している)

「自己責任・自助努力志向」因子

- 「男性」「民間企業・団体の経営者、役員」「70歳以上」+
- 「10~50歳代」「**公務員・教員**」-

「徳目・共同体志向」因子

- 「70歳以上」「民間企業・団体の経営者、役員」+
- とくに「10・20歳代」「自営業」「学生」-

「法・制度志向」因子

- 「学生」+
- 「10・20歳代」「30歳代」「**公務員・教員**」-

なお、それぞれ1/4ずつに近づくよう、ランク分けを行い(P. 86)、部落差別(意識・態度)とのクロス集計を出した。

¹ 因子分析によって因子をいくつまで抽出するかについては、いくつかの考え方があるが、ここでは「固有値1」以上とした。固有値とは「各因子の全項目に対する支配度」と考えていただければよい。

Q19 年齢× 部落差別について、初めて知ったきっかけ
Q19部落差別について、初めて知ったきっかけ

年齢		家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた	親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	友達から聞いた	学校の授業で教わった	TV・ラジオ・新聞・本等で知った	インターネットで知った	部落差別に関する集会や研修会で知った	県や市の広報紙や冊子で知った	部落差別は知っているがきっかけは覚えていない	部落差別を知らない	回答なし	合計
		10・20歳代	12 15.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	4 5.3%	28 36.8%	5 6.6%	3 3.9%	1 1.3%	0 0.0%	7 9.2%	14 18.4%	0 0.0%
30歳代	26 22.0%	3 2.5%	1 0.8%	5 4.2%	8 6.8%	59 50.0%	0 0.0%	4 3.4%	3 2.5%	0 0.0%	5 4.2%	3 2.5%	1 0.8%	118 100.0%	
40歳代	34 22.1%	1 0.6%	2 1.3%	2 1.3%	9 5.8%	77 50.0%	4 2.6%	2 1.3%	3 1.9%	2 1.3%	14 9.1%	4 2.6%	0 0.0%	154 100.0%	
50歳代	46 26.1%	0 0.0%	1 0.6%	6 3.4%	9 5.1%	74 42.0%	7 4.0%	1 0.6%	3 1.7%	2 1.1%	21 11.9%	3 1.7%	3 1.7%	176 100.0%	
60歳代	63 27.2%	6 2.6%	8 3.4%	16 6.9%	13 5.6%	45 19.4%	18 7.8%	1 0.4%	14 6.0%	3 1.3%	34 14.7%	6 2.6%	5 2.2%	232 100.0%	
70歳以上	69 29.6%	3 1.3%	14 6.0%	11 4.7%	17 7.3%	12 5.2%	23 9.9%	1 0.4%	15 6.4%	7 3.0%	42 18.0%	4 1.7%	15 6.4%	233 100.0%	
年齢回答なし	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	9 100.0%	
合計	251 25.2%	13 1.3%	27 2.7%	42 4.2%	60 6.0%	298 29.9%	59 5.9%	12 1.2%	39 3.9%	14 1.4%	123 12.3%	35 3.5%	25 2.5%	998 100.0%	

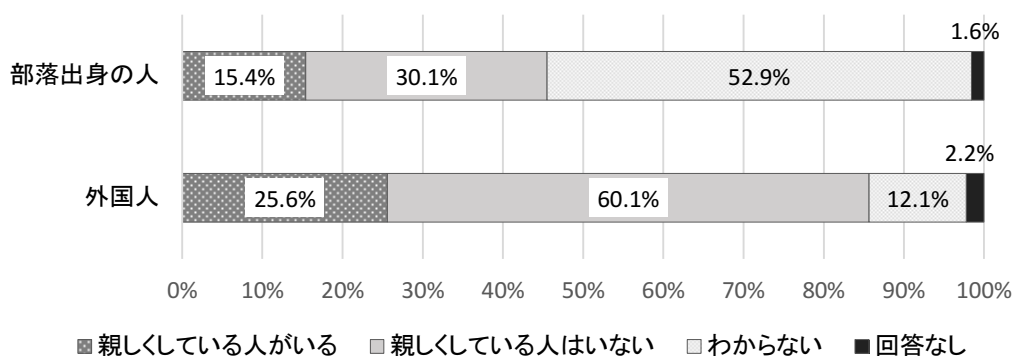
Q21 年齢×学校での部落差別についての学習経験(複数回答)

年齢		Q21a部落差別・学校での学習経験							合計
		小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校(それ以上の学校)で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	回答なし	
10・20歳代	23 30.3%	16 21.1%	7 9.2%	0 0.0%	27 35.5%	19 25.0%	0 0.0%	76 100.0%	
30歳代	60 50.8%	38 32.2%	12 10.2%	5 4.2%	19 16.1%	14 11.9%	3 2.5%	118 100.0%	
40歳代	84 54.5%	39 25.3%	20 13.0%	2 1.3%	32 20.8%	18 11.7%	0 0.0%	154 100.0%	
50歳代	69 39.2%	56 31.8%	30 17.0%	7 4.0%	42 23.9%	18 10.2%	5 2.8%	176 100.0%	
60歳代	25 10.8%	46 19.8%	26 11.2%	6 2.6%	80 34.5%	68 29.3%	5 2.2%	232 100.0%	
70歳以上	11 4.7%	20 8.6%	12 5.2%	2 0.9%	83 35.6%	100 42.9%	12 5.2%	233 100.0%	
年齢回答なし	1 11.1%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	3 33.3%	2 22.2%	1 11.1%	9 100.0%	
合計	273 27.4%	216 21.6%	109 10.9%	22 2.2%	286 28.7%	239 23.9%	26 2.6%	998 100.0%	

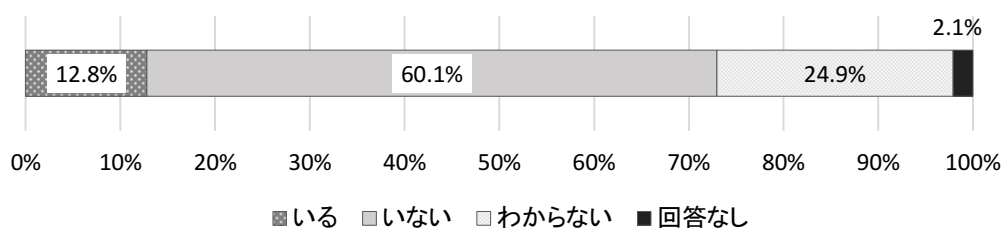
年齢×特別法(1969～2002)と義務教育を受けた時期の関係(2018年末を起点)

年齢	生年	1969(同和対策事業特別措置法施行時)年齢	小学校入学(7歳になる年)	中学校入学(13歳になる年)	2002(地対財特法失効年)末年齢
20歳未満	1999年～		2006～	2012～	3歳以下
20歳代	1989 - 1998		1996-2005	2002-2011	4-13歳
30歳代	1979 - 1988		1986-1995	1992-2001	14-23歳
40歳代	1969 - 1978	～0歳	1976-1985	1982-1991	24-33歳
50歳代	1959 - 1968	1～10歳	1966-1975	1972-1981	34-43歳
60歳代	1949 - 1958	11～20歳	1956-1965	1962-1971	44-53歳
70歳以上	～1948	21歳～	～1955	～1961	54歳～

Q12,22 親しくしている人の中にいるか



Q16 知り合いや友人の中に性的マイリティの人があるか



性・年齢×Q12親しくしている人の中に外国人はいるか

		親しくしている人がある	親しくしている人はいない	わからない	回答なし	合計
性別	男性	118	303	59	9	489
		24.1%	62.0%	12.1%	1.8%	100.0%
	女性	127	278	61	10	476
		26.7%	58.4%	12.8%	2.1%	100.0%
	回答しない	9	13	0	2	24
	37.5%	54.2%	0.0%	8.3%	100.0%	
	性別回答なし	1	6	1	1	9
		11.1%	66.7%	11.1%	11.1%	100.0%
年齢	10・20歳代	25	48	3	0	76
		32.9%	63.2%	3.9%	0.0%	100.0%
	30歳代	34	73	11	0	118
		28.8%	61.9%	9.3%	0.0%	100.0%
	40歳代	46	81	25	2	154
		29.9%	52.6%	16.2%	1.3%	100.0%
	50歳代	58	93	23	2	176
		33.0%	52.8%	13.1%	1.1%	100.0%
60歳代	49	150	28	5	232	
	21.1%	64.7%	12.1%	2.2%	100.0%	
70歳以上	42	148	31	12	233	
	18.0%	63.5%	13.3%	5.2%	100.0%	
	年齢回答なし	1	7	0	1	9
		11.1%	77.8%	0.0%	11.1%	100.0%
合計		255	600	121	22	998
		25.6%	60.1%	12.1%	2.2%	100.0%

性・年齢× Q22親しくしている人の中に部落出身の人がいるか

		親しくしている人 がいる	親しくしている人 はいない	わからない	回答なし	合計
性別	男性	78 16.0%	142 29.0%	261 53.4%	8 1.6%	489 100.0%
	女性	72 15.1%	151 31.7%	246 51.7%	7 1.5%	476 100.0%
	回答しない	3 12.5%	5 20.8%	16 66.7%	0 0.0%	24 100.0%
	性別回答なし	1 11.1%	2 22.2%	5 55.6%	1 11.1%	9 100.0%
	合計	154 15.4%	300 30.1%	528 52.9%	16 1.6%	998 100.0%
年齢	10・20歳代	6 7.9%	18 23.7%	52 68.4%	0 0.0%	76 100.0%
	30歳代	11 9.3%	27 22.9%	78 66.1%	2 1.7%	118 100.0%
	40歳代	19 12.3%	42 27.3%	93 60.4%	0 0.0%	154 100.0%
	50歳代	31 17.6%	51 29.0%	91 51.7%	3 1.7%	176 100.0%
	60歳代	44 19.0%	80 34.5%	106 45.7%	2 0.9%	232 100.0%
	70歳以上	42 18.0%	80 34.3%	103 44.2%	8 3.4%	233 100.0%
	年齢回答なし	1 11.1%	2 22.2%	5 55.6%	1 11.1%	9 100.0%
	合計	154 15.4%	300 30.1%	528 52.9%	16 1.6%	998 100.0%

性・年齢×Q16知り合いや友人の中に性的マイリティの人がいるか

		いる	いない	わからない	回答なし	合計
性別	男性	50 10.2%	301 61.6%	129 26.4%	9 1.8%	489 100.0%
	女性	72 15.1%	283 59.5%	112 23.5%	9 1.9%	476 100.0%
	回答しない	6 25.0%	10 41.7%	6 25.0%	2 8.3%	24 100.0%
	性別回答なし	0 0.0%	6 66.7%	2 22.2%	1 11.1%	9 100.0%
	合計	128 12.8%	600 60.1%	249 24.9%	21 2.1%	998 100.0%
年齢	10・20歳代	26 34.2%	27 35.5%	23 30.3%	0 0.0%	76 100.0%
	30歳代	28 23.7%	56 47.5%	34 28.8%	0 0.0%	118 100.0%
	40歳代	24 15.6%	80 51.9%	46 29.9%	4 2.6%	154 100.0%
	50歳代	28 15.9%	108 61.4%	38 21.6%	2 1.1%	176 100.0%
	60歳代	19 8.2%	155 66.8%	55 23.7%	3 1.3%	232 100.0%
	70歳以上	3 1.3%	169 72.5%	50 21.5%	11 4.7%	233 100.0%
	年齢回答なし	0 0.0%	5 55.6%	3 33.3%	1 11.1%	9 100.0%
	合計	128 12.8%	600 60.1%	249 24.9%	21 2.1%	998 100.0%

Q17mfa 結婚相手に求める条件（男性回答者—相手が女性の場合）

		Q17mfa相手が女性の場合に求める条件*																
		F職業	F性格	F家庭環境	F収入・財産	F容姿・身なり	F教養・マナー	F思想・信条	F行動力・実行力	F趣味・特技	F健康状況	F学歴	F家事能力	F年齢	F宗教	F回答なし	合計	
年齢2	10-20歳代	0	24	5	3	12	10	5	2	9	4	1	4	3	0	2	30	
		0.0%	80.0%	16.7%	10.0%	40.0%	33.3%	16.7%	6.7%	30.0%	13.3%	3.3%	13.3%	10.0%	0.0%	6.7%		
	30歳代	1	44	3	2	23	10	6	10	14	21	0	12	9	1	2	54	
		1.9%	81.5%	5.6%	3.7%	42.6%	18.5%	11.1%	18.5%	25.9%	38.9%	0.0%	22.2%	16.7%	1.9%	3.7%		
	40歳代	4	64	5	4	24	15	17	7	12	24	3	15	11	2	6	77	
		5.2%	83.1%	6.5%	5.2%	31.2%	19.5%	22.1%	9.1%	15.6%	31.2%	3.9%	19.5%	14.3%	2.6%	7.8%		
	50歳代	3	73	12	2	25	21	19	8	11	49	0	12	9	5	8	91	
		3.3%	80.2%	13.2%	2.2%	27.5%	23.1%	20.9%	8.8%	12.1%	53.8%	0.0%	13.2%	9.9%	5.5%	8.8%		
	60歳代	5	91	16	1	35	18	11	9	11	72	0	22	10	6	11	114	
		4.4%	79.8%	14.0%	0.9%	30.7%	15.8%	9.6%	7.9%	9.6%	63.2%	0.0%	19.3%	8.8%	5.3%	9.6%		
	70歳以上	6	85	20	5	23	21	11	8	4	69	0	26	13	2	23	123	
		4.9%	69.1%	16.3%	4.1%	18.7%	17.1%	8.9%	6.5%	3.3%	56.1%	0.0%	21.1%	10.6%	1.6%	18.7%		
	職業	自営業	1	41	8	1	17	8	6	3	6	31	0	12	4	3	3	50
			2.0%	82.0%	16.0%	2.0%	34.0%	16.0%	12.0%	6.0%	12.0%	62.0%	0.0%	24.0%	8.0%	6.0%	6.0%	
公務員、教員		1	11	3	0	4	6	1	2	5	12	0	3	1	0	0	17	
		5.9%	64.7%	17.6%	0.0%	23.5%	35.3%	5.9%	11.8%	29.4%	70.6%	0.0%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%		
民間企業・団体の経営者、役員		0	12	4	1	4	4	1	3	1	5	1	0	2	1	1	14	
		0.0%	85.7%	28.6%	7.1%	28.6%	28.6%	7.1%	21.4%	7.1%	35.7%	7.1%	0.0%	14.3%	7.1%	7.1%		
民間企業・団体の正規職員		4	141	18	8	61	41	33	20	28	62	1	26	21	4	11	168	
		2.4%	83.9%	10.7%	4.8%	36.3%	24.4%	19.6%	11.9%	16.7%	36.9%	0.6%	15.5%	12.5%	2.4%	6.5%		
非正規職員（パート、派遣職員、アルバイト）		2	41	6	4	15	7	7	4	6	27	0	11	6	3	5	52	
		3.8%	78.8%	11.5%	7.7%	28.8%	13.5%	13.5%	7.7%	11.5%	51.9%	0.0%	21.2%	11.5%	5.8%	9.6%		
学生		0	2	0	1	0	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0	3	
	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
無職	8	115	20	2	33	25	18	9	9	87	2	32	18	5	28	158		
	5.1%	72.8%	12.7%	1.3%	20.9%	15.8%	11.4%	5.7%	5.7%	55.1%	1.3%	20.3%	11.4%	3.2%	17.7%			
その他	3	14	2	0	7	1	2	2	5	10	0	6	2	0	2	21		
	14.3%	66.7%	9.5%	0.0%	33.3%	4.8%	9.5%	9.5%	23.8%	47.6%	0.0%	28.6%	9.5%	0.0%	9.5%			
職業回答なし	0	4	0	0	1	2	1	0	0	2	0	1	1	0	2	6		
	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%			
Q23啓発リンク	なし	9	253	30	8	101	55	51	25	45	151	3	61	38	11	40	325	
		2.8%	77.8%	9.2%	2.5%	31.1%	16.9%	15.7%	7.7%	13.8%	46.5%	0.9%	18.8%	11.1%	3.4%	12.3%		
	低群	3	39	8	3	11	10	4	2	3	22	0	10	10	1	3	45	
		6.7%	86.7%	17.8%	6.7%	24.4%	22.2%	8.9%	4.4%	6.7%	48.9%	0.0%	22.2%	22.2%	2.2%	6.7%		
	中・低群	2	31	6	1	7	11	7	5	4	26	0	5	6	0	3	40	
		5.0%	77.5%	15.0%	2.5%	17.5%	27.5%	17.5%	12.5%	10.0%	65.0%	0.0%	12.5%	15.0%	0.0%	7.5%		
中・高群	3	32	10	2	11	9	3	6	5	24	0	9	1	1	1	40		
	7.5%	80.0%	25.0%	5.0%	27.5%	22.5%	7.5%	15.0%	12.5%	60.0%	0.0%	22.5%	2.5%	2.5%	2.5%			
高群	2	26	7	3	12	10	4	6	4	16	1	6	2	3	5	39		
	5.1%	66.7%	17.9%	7.7%	30.8%	25.6%	10.3%	15.4%	10.3%	41.0%	2.6%	15.4%	5.1%	7.7%	12.8%			
Q22親しくしている人の中に部落出身の人がいるか	親しくしている人がいる	3	63	8	2	16	16	12	12	11	45	0	17	5	1	5	78	
		3.8%	80.8%	10.3%	2.6%	20.5%	20.5%	15.4%	15.4%	14.1%	57.7%	0.0%	21.8%	6.4%	1.3%	6.4%		
	親しくしている人はいない	9	107	26	7	40	19	17	14	10	66	2	33	15	5	18	142	
		6.3%	75.4%	18.3%	4.9%	28.2%	13.4%	12.0%	9.9%	7.0%	46.5%	1.4%	23.2%	10.6%	3.5%	12.7%		
	わからない	7	208	26	8	84	60	40	18	40	124	2	40	34	10	25	261	
		2.7%	79.7%	10.0%	3.1%	32.2%	23.0%	15.3%	6.9%	15.3%	47.5%	0.8%	15.3%	13.0%	3.8%	9.6%		
回答なし	0	3	1	0	2	0	0	0	0	4	0	1	1	0	4	8		
	0.0%	37.5%	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	50.0%			
Q21m部落差別・学校での学習経験*	小学校で学んだ	2	112	13	5	49	35	31	13	21	50	1	26	16	5	9	134	
		1.5%	83.6%	9.7%	3.7%	36.6%	26.1%	23.1%	9.7%	15.7%	37.3%	0.7%	19.4%	11.9%	3.7%	4.5%		
	中学校で学んだ	4	92	12	6	28	21	24	12	22	53	0	23	8	8	5	110	
		3.6%	83.6%	10.9%	5.5%	25.5%	19.1%	21.8%	10.9%	20.0%	48.2%	0.0%	20.9%	7.3%	7.3%	4.5%		
	高等・高等専修学校で学んだ	2	42	6	2	6	14	16	9	9	33	0	10	2	2	2	53	
		3.8%	79.2%	11.3%	3.8%	11.3%	26.4%	30.2%	17.0%	17.0%	62.3%	0.0%	18.9%	3.8%	3.8%	3.8%		
	短大・大学・専門学校（それ以上の学校は卒業していない）	1	9	2	0	2	4	3	2	1	10	0	1	1	0	0	12	
		8.3%	75.0%	16.7%	0.0%	16.7%	33.3%	25.0%	16.7%	8.3%	83.3%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%		
	はっきりと覚えていない	11	97	14	2	30	19	11	14	16	71	2	27	17	3	13	125	
8.8%		77.6%	11.2%	1.6%	24.0%	15.2%	8.8%	11.2%	12.8%	56.8%	1.6%	21.6%	13.6%	2.4%	10.4%			
学校で学んだ経験はない	3	97	19	6	44	21	11	10	10	67	1	22	14	4	20	132		
	2.3%	73.5%	14.4%	4.5%	33.3%	15.9%	8.3%	7.6%	7.6%	50.8%	0.8%	16.7%	10.6%	3.0%	15.2%			
回答なし	0	6	2	0	2	0	1	0	0	8	0	2	1	0	7	15		
	0.0%	40.0%	13.3%	0.0%	13.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	53.3%	0.0%	13.3%	6.7%	0.0%	46.7%			
合計		19	381	61	17	142	95	69	44	61	239	4	91	55	16	52	489	
		3.9%	77.9%	12.5%	3.5%	29.0%	19.4%	14.1%	9.0%	12.5%	48.9%	0.8%	18.6%	11.2%	3.3%	10.6%	100.0%	

Q17ma 結婚相手に求める条件（女性回答者—相手が男性の場合）

年齢	条件Q17ma相手が男性の場合に求める*																合計
	M職業	M性格	M家庭環境	M収入・財産	M容姿・身なり	M教養・マナー	M思想・信条	M行動力・実行力	M趣味・特技	M健康状況	M学歴	M家事能力	M年齢	M宗教	M回答なし		
年齢	10・20歳代	13	41	3	18	8	10	6	8	9	8	2	2	3	1	45	
		28.9%	91.1%	6.7%	40.0%	17.8%	22.2%	13.3%	17.8%	20.0%	17.8%	0.0%	4.4%	4.4%	6.7%	2.2%	100.0%
	30歳代	14	44	6	29	7	7	5	15	7	18	2	1	2	4	57	
		24.6%	77.2%	10.5%	50.9%	12.3%	12.3%	8.8%	26.3%	12.3%	31.6%	3.5%	1.8%	3.5%	3.5%	7.0%	100.0%
	40歳代	10	59	12	30	6	8	18	17	5	27	1	4	2	8	70	
		14.3%	84.3%	17.1%	42.9%	8.6%	11.4%	25.7%	24.3%	7.1%	38.6%	1.4%	5.7%	2.9%	11.4%	1.4%	100.0%
	50歳代	14	67	12	29	5	12	19	20	6	28	1	0	4	8	80	
		17.5%	83.8%	15.0%	36.3%	6.3%	15.0%	23.8%	25.0%	7.5%	35.0%	1.3%	0.0%	5.0%	10.0%	5.0%	100.0%
	60歳代	33	86	30	29	2	8	15	31	4	67	0	1	5	9	117	
		28.2%	73.5%	25.6%	24.8%	1.7%	6.8%	12.8%	26.5%	3.4%	57.3%	0.0%	0.9%	4.3%	7.7%	8.5%	100.0%
	70歳以上	32	68	20	23	3	9	8	37	0	58	4	0	2	6	107	
		29.9%	63.6%	18.7%	21.5%	2.8%	8.4%	7.5%	34.6%	0.0%	54.2%	3.7%	0.0%	1.9%	5.6%	15.0%	100.0%
職業	自営業	6	13	7	4	2	6	4	3	1	15	0	0	2	0	24	
		25.0%	54.2%	29.2%	16.7%	8.3%	25.0%	16.7%	12.5%	4.2%	62.5%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	12.5%	100.0%
	公務員・教員	7	19	1	7	2	6	4	1	1	8	1	1	1	0	20	
		35.0%	95.0%	5.0%	35.0%	10.0%	30.0%	20.0%	5.0%	5.0%	40.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	100.0%
	民間企業・団体の正規職員	13	65	8	35	7	9	21	21	11	28	1	2	2	7	78	
		16.7%	83.3%	10.3%	44.9%	9.0%	11.5%	26.9%	26.9%	14.1%	35.9%	1.3%	2.6%	2.6%	9.0%	1.3%	100.0%
	非正規職員（パート、派遣職員、アルバイト）	35	118	29	51	10	11	23	38	8	58	3	4	7	12	144	
		24.3%	81.9%	20.1%	35.4%	6.9%	7.6%	16.0%	26.4%	5.6%	40.3%	2.1%	2.8%	4.9%	8.3%	4.9%	100.0%
	学生	2	7	0	1	1	2	1	2	4	1	0	0	0	0	7	
		28.6%	100.0%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無職	48	126	34	53	7	15	16	53	4	90	2	1	5	14	180		
	26.7%	70.0%	18.9%	29.4%	3.9%	8.3%	8.9%	29.4%	2.2%	50.0%	1.1%	0.6%	2.8%	7.8%	12.8%	100.0%	
その他	5	15	2	7	2	5	1	10	2	5	1	0	0	2	1	20	
	25.0%	75.0%	10.0%	35.0%	10.0%	25.0%	5.0%	50.0%	10.0%	25.0%	5.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	100.0%	
職業回答なし	0	2	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3		
	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%	
Q23容発接 触度ランク	なし	82	270	60	114	22	37	50	88	22	142	5	6	13	25	341	
		24.0%	79.2%	17.6%	33.4%	6.5%	10.9%	14.7%	25.8%	6.5%	41.6%	1.5%	1.8%	3.8%	7.3%	7.9%	100.0%
	低群	10	31	6	19	4	4	6	10	3	23	1	2	2	3	44	
		22.7%	70.5%	13.6%	43.2%	9.1%	9.1%	13.6%	22.7%	6.8%	52.3%	2.3%	4.5%	4.5%	4.5%	6.8%	100.0%
	中・低群	16	32	10	13	2	4	5	15	3	21	2	0	1	3	4	47
		34.0%	68.1%	21.3%	27.7%	4.3%	8.5%	10.6%	31.9%	6.4%	44.7%	4.3%	0.0%	2.1%	6.4%	8.5%	100.0%
	中・高群	2	14	2	4	0	5	5	5	1	9	0	0	0	4	0	17
11.8%		82.4%	11.8%	23.5%	0.0%	29.4%	29.4%	29.4%	5.9%	52.9%	0.0%	0.0%	0.0%	23.5%	0.0%	100.0%	
高群	6	18	5	8	3	4	5	10	2	11	0	0	1	2	2	27	
	22.2%	66.7%	18.5%	29.6%	11.1%	14.8%	18.5%	37.0%	7.4%	40.7%	0.0%	0.0%	3.7%	7.4%	7.4%	100.0%	
Q22親しく している人 の中に部落 出身の人が いるか	親しくして いる人が いる	18	52	12	20	3	9	16	25	8	31	1	1	0	6	4	72
		25.0%	72.2%	16.7%	27.8%	4.2%	12.5%	22.2%	34.7%	11.1%	43.1%	1.4%	1.4%	0.0%	8.3%	5.6%	100.0%
	親しくして いる人は いない	41	120	29	48	9	12	18	40	7	74	2	3	9	7	11	151
		27.2%	79.5%	19.2%	31.8%	6.0%	7.9%	11.9%	26.5%	4.6%	49.0%	1.3%	2.0%	6.0%	4.6%	7.3%	100.0%
	わからない	57	192	42	90	19	33	37	62	16	100	5	4	8	23	15	246
23.2%		78.0%	17.1%	36.6%	7.7%	13.4%	15.0%	25.2%	6.5%	40.7%	2.0%	1.6%	3.3%	9.3%	6.1%	100.0%	
回答なし	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6	7	
	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.7%	100.0%	
Q21ma部落 差別・学校 での学習経 験	小学校で学 んだ	25	109	25	56	11	12	29	32	12	49	1	4	5	10	5	132
		18.9%	82.6%	18.9%	42.4%	8.3%	9.1%	22.0%	24.2%	9.1%	37.1%	0.8%	3.0%	3.8%	7.6%	3.8%	100.0%
	中学校で学 んだ	23	87	11	40	7	14	20	29	11	39	3	0	3	7	4	102
		22.5%	85.3%	10.8%	39.2%	6.9%	13.7%	19.6%	28.4%	10.8%	38.2%	2.9%	0.0%	2.9%	6.9%	3.9%	100.0%
	高等・高等 専修学校で 学んだ	15	43	5	22	3	10	7	16	4	24	1	1	2	4	0	53
		28.3%	81.1%	9.4%	41.5%	5.7%	18.9%	13.2%	30.2%	7.5%	45.3%	1.9%	1.9%	3.8%	7.5%	0.0%	100.0%
	短大・大学 専門学校（そ れ以上の学 校）で学んだ	4	4	3	3	0	1	2	2	1	3	0	0	0	1	1	9
		44.4%	44.4%	33.3%	33.3%	0.0%	11.1%	22.2%	22.2%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	100.0%
はっきりと 覚えていな い	40	114	29	40	7	18	15	43	8	73	2	3	3	9	14	150	
	26.7%	76.0%	19.3%	26.7%	4.7%	12.0%	10.0%	28.7%	5.3%	48.7%	1.3%	2.0%	2.0%	6.0%	9.3%	100.0%	
学校で学ん だ経験はな い	30	69	19	32	6	11	15	23	2	50	3	0	6	10	7	99	
	30.3%	69.7%	19.2%	32.3%	6.1%	11.1%	15.2%	23.2%	2.0%	50.5%	3.0%	0.0%	6.1%	10.1%	7.1%	100.0%	
回答なし	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	7	9	
	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	77.8%	100.0%	
合計	116	385	83	158	31	54	71	128	31	206	8	8	17	36	36	476	
	24.4%	76.7%	17.4%	33.2%	6.5%	11.3%	14.9%	26.9%	6.5%	43.3%	1.7%	1.7%	3.6%	7.6%	7.6%	100.0%	

Q17結婚相手に求める条件

	職業	性格	家庭環境	収入・財産	容姿・身なり	教養・マナー	思想・信条	行動力・実行力	趣味・特技	健康状況	学歴	家事能力	年齢	宗教	回答なし
男性(対女性)	3.9%	77.9%	12.5%	3.5%	29.0%	19.4%	14.1%	9.0%	12.5%	48.9%	0.8%	18.6%	11.2%	3.3%	10.6%
女性(対男性)	24.4%	76.7%	17.4%	33.2%	6.5%	11.3%	14.9%	26.9%	6.5%	43.3%	1.7%	1.7%	3.6%	7.6%	7.6%
男性-女性		1.2%			22.5%	8.1%			6.0%	5.6%		16.9%	7.7%		3.1%
女性-男性	20.5%		5.0%	29.7%			0.8%	17.9%			0.9%			4.3%	

Q17A部落出身者との結婚に対する態度

		Q17A部落出身者							
		迷わず結婚する	家族や親せきの反対があればできるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば結婚しない	結婚しない	回答なし	合計	する	しない
性別	男性	95	189	73	91	41	489	58.1%	33.5%
		19.4%	38.7%	14.9%	18.6%	8.4%	100.0%		
	女性	67	199	82	103	25	476		
		14.1%	41.8%	17.2%	21.6%	5.3%	100.0%		
	回答しない	5	9	0	9	1	24		
	20.8%	37.5%	0.0%	37.5%	4.2%	100.0%	58.3%	37.5%	
	性別回答なし	2	2	0	1	4	9	44.4%	11.1%
		22.2%	22.2%	0.0%	11.1%	44.4%	100.0%		
合計		169	399	155	204	71	998	56.9%	36.0%
		16.9%	40.0%	15.5%	20.4%	7.1%	100.0%		

Q17B日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人との結婚に対する態度

		Q17B日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人							
		迷わず結婚する	家族や親せきの反対があればできるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば結婚しない	結婚しない	回答なし	合計	する	しない
性別	男性	84	186	73	103	43	489	55.2%	36.0%
		17.2%	38.0%	14.9%	21.1%	8.8%	100.0%		
	女性	62	214	68	102	30	476		
		13.0%	45.0%	14.3%	21.4%	6.3%	100.0%		
	回答しない	3	9	0	11	1	24		
	12.5%	37.5%	0.0%	45.8%	4.2%	100.0%	58.0%	35.7%	
	性別回答なし	2	2	0	1	4	9	50.0%	45.8%
		22.2%	22.2%	0.0%	11.1%	44.4%	100.0%	44.4%	11.1%
合計		151	411	141	217	78	998	56.3%	35.9%
		15.1%	41.2%	14.1%	21.7%	7.8%	100.0%		

Q17C障がいのある人との結婚に対する態度

		Q17C障がいのある人							
		迷わず結婚する	家族や親せきの反対があればできるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば結婚しない	結婚しない	回答なし	合計	する	しない
性別	男性	53	181	78	134	43	489	47.9%	43.4%
		10.8%	37.0%	16.0%	27.4%	8.8%	100.0%		
	女性	30	214	77	124	31	476		
		6.3%	45.0%	16.2%	26.1%	6.5%	100.0%		
	回答しない	3	12	2	6	1	24		
	12.5%	50.0%	8.3%	25.0%	4.2%	100.0%	51.3%	42.2%	
	性別回答なし	1	3	1	0	4	9	62.5%	33.3%
		11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	44.4%	100.0%	44.4%	11.1%
合計		87	410	158	264	79	998	49.8%	42.3%
		8.7%	41.1%	15.8%	26.5%	7.9%	100.0%		

結婚相手に求める条件（男性回答者—相手が女性の場合）

	職業	性格	家庭環境	収入・財産	容姿・身なり	教養・セシ	思想・信条	行動力・実行力	趣味・特技	健康状況	学歴	家事能力	年齢	宗教	回答なし	
ABCとも“結婚する”	n=198	1.5%	83.3%	10.1%	3.0%	36.4%	26.8%	19.2%	10.1%	17.7%	44.4%	-	19.2%	10.6%	2.5%	4.0%
ABCとも“結婚しない”	n=122	4.1%	74.6%	13.1%	3.3%	28.7%	13.9%	13.9%	6.6%	8.2%	52.5%	1.6%	21.3%	13.9%	4.1%	12.3%
(上段-下段)		-2.6%	8.7%	-3.0%	-0.2%	7.7%	12.8%	5.3%	3.5%	9.5%	-8.0%	-2.1%	-3.3%	-1.6%	-8.3%	

結婚相手に求める条件（女性回答者—相手が男性の場合）

	職業	性格	家庭環境	収入・財産	容姿・身なり	教養・セシ	思想・信条	行動力・実行力	趣味・特技	健康状況	学歴	家事能力	年齢	宗教	回答なし	
ABCとも“結婚する”	n=199	16.6%	81.4%	12.6%	32.2%	9.0%	16.1%	21.1%	31.2%	9.0%	42.7%	-	3.0%	3.0%	7.5%	4.5%
ABCとも“結婚しない”	n=127	33.9%	75.6%	23.6%	37.0%	6.3%	3.1%	8.7%	22.0%	5.5%	40.9%	3.1%	0.8%	3.9%	8.7%	7.9%
(上段-下段)		-17.3%	5.8%	-11.1%	-4.8%	2.7%	12.9%	12.4%	9.1%	3.5%	1.8%	2.2%	-0.9%	-1.1%	-3.4%	

A: 部落出身者、B: 日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人、C: 障がいのある人

Q18A 現在、部落差別があると思うか—日常の交流や交際

		Q18A日常の交流や交際						合計	ある	ない
		あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし			
性別	男性	18 3.7%	69 14.1%	148 30.3%	77 15.7%	152 31.1%	25 5.1%	489 100.0%	17.8%	46.0%
	女性	7 1.5%	33 6.9%	149 31.3%	89 18.7%	180 37.8%	18 3.8%	476 100.0%	8.4%	50.0%
	回答しない	1 4.2%	2 8.3%	4 16.7%	2 8.3%	15 62.5%	0 0.0%	24 100.0%	12.5%	25.0%
	性別回答なし	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	9 100.0%	0.0%	55.6%
	合計	26 2.6%	104 10.4%	304 30.5%	170 17.0%	349 35.0%	45 4.5%	998 100.0%	13.0%	47.5%
年齢	10・20歳代	1 1.3%	12 15.8%	14 18.4%	11 14.5%	38 50.0%	0 0.0%	76 100.0%	17.1%	32.9%
	30歳代	3 2.5%	14 11.9%	32 27.1%	24 20.3%	44 37.3%	1 0.8%	118 100.0%	14.4%	47.5%
	40歳代	6 3.9%	15 9.7%	55 35.7%	24 15.6%	53 34.4%	1 0.6%	154 100.0%	13.6%	51.3%
	50歳代	5 2.8%	17 9.7%	53 30.1%	33 18.8%	66 37.5%	2 1.1%	176 100.0%	12.5%	48.9%
	60歳代	5 2.2%	27 11.6%	71 30.6%	42 18.1%	73 31.5%	14 6.0%	232 100.0%	13.8%	48.7%
	70歳以上	6 2.6%	19 8.2%	77 33.0%	35 15.0%	71 30.5%	25 10.7%	233 100.0%	10.7%	48.1%
	年齢回答なし	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	4 44.4%	2 22.2%	9 100.0%	0.0%	33.3%
	合計	26 2.6%	104 10.4%	304 30.5%	170 17.0%	349 35.0%	45 4.5%	998 100.0%	13.0%	47.5%
	職業	自営業	2 2.6%	9 11.7%	27 35.1%	16 20.8%	18 23.4%	5 6.5%	77 100.0%	14.3%
公務員、教員		0 0.0%	7 18.9%	14 37.8%	5 13.5%	11 29.7%	0 0.0%	37 100.0%	18.9%	51.4%
民間企業・団体の経営者、役員		1 7.1%	4 28.6%	3 21.4%	5 35.7%	1 7.1%	0 0.0%	14 100.0%	35.7%	57.1%
民間企業・団体の正規職員		7 2.7%	30 11.7%	79 30.7%	47 18.3%	92 35.8%	2 0.8%	257 100.0%	14.4%	49.0%
非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト)		5 2.5%	16 8.1%	69 35.0%	39 19.8%	64 32.5%	4 2.0%	197 100.0%	10.7%	54.8%
学生		0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	8 80.0%	0 0.0%	10 100.0%	10.0%	10.0%
無職		10 2.9%	32 9.3%	97 28.1%	51 14.8%	126 36.5%	29 8.4%	345 100.0%	12.2%	42.9%
その他		1 2.3%	4 9.1%	10 22.7%	5 11.4%	22 50.0%	2 4.5%	44 100.0%	11.4%	34.1%
職業回答なし		0 0.0%	1 5.9%	4 23.5%	2 11.8%	7 41.2%	3 17.6%	17 100.0%	5.9%	35.3%
合計		26 2.6%	104 10.4%	304 30.5%	170 17.0%	349 35.0%	45 4.5%	998 100.0%	13.0%	47.5%
Q23啓発接触度ランク	なし	15 2.2%	59 8.5%	177 25.5%	121 17.4%	282 40.6%	40 5.8%	694 100.0%	10.7%	42.9%
	低群	3 3.3%	14 15.4%	35 38.5%	14 15.4%	23 25.3%	2 2.2%	91 100.0%	18.7%	53.8%
	中・低群	1 1.1%	11 12.5%	34 38.6%	16 18.2%	25 28.4%	1 1.1%	88 100.0%	13.6%	56.8%
	中・高群	4 7.0%	8 14.0%	29 50.9%	5 8.8%	11 19.3%	0 0.0%	57 100.0%	21.1%	59.6%
	高群	3 4.4%	12 17.6%	29 42.6%	14 20.6%	8 11.8%	2 2.9%	68 100.0%	22.1%	63.2%
	合計	26 2.6%	104 10.4%	304 30.5%	170 17.0%	349 35.0%	45 4.5%	998 100.0%	13.0%	47.5%
Q21ma部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	8 2.9%	27 9.9%	94 34.4%	56 20.5%	86 31.5%	2 0.7%	273 100.0%	12.8%	54.9%
	中学校で学んだ	7 3.2%	28 13.0%	85 39.4%	41 19.0%	54 25.0%	1 0.5%	216 100.0%	16.2%	58.3%
	高等・高等専修学校で学んだ	3 2.8%	12 11.0%	44 40.4%	30 27.5%	20 18.3%	0 0.0%	109 100.0%	13.8%	67.9%
	短大・大学・専門学校(それ以上の学)	1 4.5%	2 9.1%	8 36.4%	5 22.7%	6 27.3%	0 0.0%	22 100.0%	13.6%	59.1%
	はっきりと覚えていない	2 0.7%	28 9.8%	87 30.4%	41 14.3%	116 40.6%	12 4.2%	286 100.0%	10.5%	44.8%
	学校で学んだ経験はない	12 5.0%	24 10.0%	61 25.5%	34 14.2%	93 38.9%	15 6.3%	239 100.0%	15.1%	39.7%
	回答なし	1 3.8%	2 7.7%	2 7.7%	1 3.8%	5 19.2%	15 57.7%	26 100.0%	11.5%	11.5%
	合計	26 2.6%	104 10.4%	304 30.5%	170 17.0%	349 35.0%	45 4.5%	998 100.0%	13.0%	47.5%

Q18B 現在、部落差別があると思うかー学校生活における教員や子どもとの交流

		Q18B学校生活における教員や子どもとの交流において								
		あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし	合計	ある	ない
性別	男性	12 2.5%	59 12.1%	145 29.7%	69 14.1%	178 36.4%	26 5.3%	489 100.0%	14.5%	43.8%
	女性	4 0.8%	28 5.9%	141 29.6%	87 18.3%	196 41.2%	20 4.2%	476 100.0%	6.7%	47.9%
	回答しない	0 0.0%	3 12.5%	3 12.5%	2 8.3%	16 66.7%	0 0.0%	24 100.0%	12.5%	20.8%
	性別回答なし	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	5 55.6%	1 11.1%	2 22.2%	9 100.0%	0.0%	66.7%
年齢2	10・20歳代	1 1.3%	10 13.2%	15 19.7%	13 17.1%	37 48.7%	0 0.0%	76 100.0%	14.5%	36.8%
	30歳代	2 1.7%	15 12.7%	34 28.8%	24 20.3%	41 34.7%	2 1.7%	118 100.0%	14.4%	49.2%
	40歳代	3 1.9%	17 11.0%	45 29.2%	21 13.6%	65 42.2%	3 1.9%	154 100.0%	13.0%	42.9%
	50歳代	4 2.3%	18 10.2%	48 27.3%	31 17.6%	72 40.9%	3 1.7%	176 100.0%	12.5%	44.9%
	60歳代	3 1.3%	22 9.5%	71 30.6%	36 15.5%	87 37.5%	13 5.6%	232 100.0%	10.8%	46.1%
	70歳以上	3 1.3%	8 3.4%	76 32.6%	35 15.0%	86 36.9%	25 10.7%	233 100.0%	4.7%	47.6%
	年齢回答なし	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	3 33.3%	3 33.3%	2 22.2%	9 100.0%	0.0%	44.4%
	職業	自営業	1 1.3%	8 10.4%	17 22.1%	17 22.1%	29 37.7%	5 6.5%	77 100.0%	11.7%
公務員、教員	0 0.0%	3 8.1%	16 43.2%	5 13.5%	12 32.4%	1 2.7%	37 100.0%	8.1%	56.8%	
民間企業・団体の経営者、役員	0 0.0%	4 28.6%	3 21.4%	5 35.7%	1 7.1%	1 7.1%	14 100.0%	28.6%	57.1%	
民間企業・団体の正規職員	5 1.9%	32 12.5%	71 27.6%	48 18.7%	98 38.1%	3 1.2%	257 100.0%	14.4%	46.3%	
非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト)	4 2.0%	15 7.6%	70 35.5%	31 15.7%	74 37.6%	3 1.5%	197 100.0%	9.6%	51.3%	
学生	0 0.0%	1 10.0%	3 30.0%	0 0.0%	6 60.0%	0 0.0%	10 100.0%	10.0%	30.0%	
無職	4 1.2%	24 7.0%	98 28.4%	49 14.2%	142 41.2%	28 8.1%	345 100.0%	8.1%	42.6%	
その他	2 4.5%	1 2.3%	10 22.7%	4 9.1%	23 52.3%	4 9.1%	44 100.0%	6.8%	31.8%	
職業回答なし	0 0.0%	2 11.8%	2 11.8%	4 23.5%	6 35.3%	3 17.6%	17 100.0%	11.8%	35.3%	
Q23啓発接触度ランク	なし	7 1.0%	53 7.6%	162 23.3%	121 17.4%	310 44.7%	41 5.9%	694 100.0%	8.6%	40.8%
	低群	1 1.1%	9 9.9%	41 45.1%	12 13.2%	26 28.6%	2 2.2%	91 100.0%	11.0%	58.2%
	中・低群	1 1.1%	11 12.5%	37 42.0%	12 13.6%	26 29.5%	1 1.1%	88 100.0%	13.6%	55.7%
	中・高群	4 7.0%	7 12.3%	22 38.6%	6 10.5%	17 29.8%	1 1.8%	57 100.0%	19.3%	49.1%
	高群	3 4.4%	10 14.7%	28 41.2%	12 17.6%	12 17.6%	3 4.4%	68 100.0%	19.1%	58.8%
	Q21ma部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	6 2.2%	28 10.3%	86 31.5%	54 19.8%	96 35.2%	3 1.1%	273 100.0%	12.5%
中学校で学んだ	4 1.9%	27 12.5%	81 37.5%	46 21.3%	56 25.9%	2 0.9%	216 100.0%	14.4%	58.8%	
高等・高等専修学校で学んだ	2 1.8%	13 11.9%	34 31.2%	34 31.2%	24 22.0%	2 1.8%	109 100.0%	13.8%	62.4%	
短大・大学・専門学校(それ以上の学校)で学んだ	0 0.0%	2 9.1%	10 45.5%	4 18.2%	6 27.3%	0 0.0%	22 100.0%	9.1%	63.6%	
はっきりと覚えていない	2 0.7%	15 5.2%	92 32.2%	36 12.6%	130 45.5%	11 3.8%	286 100.0%	5.9%	44.8%	
学校で学んだ経験はない	7 2.9%	21 8.8%	54 22.6%	32 13.4%	108 45.2%	17 7.1%	239 100.0%	11.7%	36.0%	
回答なし	0 0.0%	2 7.7%	1 3.8%	1 3.8%	7 26.9%	15 57.7%	26 100.0%	7.7%	7.7%	
合計	16 1.6%	90 9.0%	290 29.1%	163 16.3%	391 39.2%	48 4.8%	998 100.0%	10.6%	45.4%	

Q18C 現在、部落差別があると思うか—就職

		Q18C就職について								
		あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし	合計	ある	ない
性別	男性	22	105	109	65	162	26	489	26.0%	35.6%
		4.5%	21.5%	22.3%	13.3%	33.1%	5.3%	100.0%		
	女性	12	65	117	55	206	21	476		
		2.5%	13.7%	24.6%	11.6%	43.3%	4.4%	100.0%		
	回答しない	0	3	5	0	16	0	24	12.5%	20.8%
		0.0%	12.5%	20.8%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%		
	性別回答なし	1	0	1	2	3	2	9		
		11.1%	0.0%	11.1%	22.2%	33.3%	22.2%	100.0%		
年齢2	10・20歳代	4	14	12	10	36	0	76	23.7%	28.9%
		5.3%	18.4%	15.8%	13.2%	47.4%	0.0%	100.0%		
	30歳代	1	23	33	14	46	1	118	20.3%	39.8%
		0.8%	19.5%	28.0%	11.9%	39.0%	0.8%	100.0%		
	40歳代	10	27	43	14	59	1	154	24.0%	37.0%
		6.5%	17.5%	27.9%	9.1%	38.3%	0.6%	100.0%		
	50歳代	9	36	30	25	74	2	176	25.6%	31.3%
		5.1%	20.5%	17.0%	14.2%	42.0%	1.1%	100.0%		
60歳代	4	42	56	27	86	17	232	19.8%	35.8%	
	1.7%	18.1%	24.1%	11.6%	37.1%	7.3%	100.0%			
70歳以上	6	31	56	31	83	26	233	15.9%	37.3%	
	2.6%	13.3%	24.0%	13.3%	35.6%	11.2%	100.0%			
	年齢回答なし	1	0	2	1	3	2	9	11.1%	33.3%
		11.1%	0.0%	22.2%	11.1%	33.3%	22.2%	100.0%		
職業	自営業	2	13	17	14	25	6	77	19.5%	40.3%
		2.6%	16.9%	22.1%	18.2%	32.5%	7.8%	100.0%		
	公務員、教員	0	12	10	3	12	0	37	32.4%	35.1%
		0.0%	32.4%	27.0%	8.1%	32.4%	0.0%	100.0%		
	民間企業・団体の経営者、役員	1	4	3	4	2	0	14	35.7%	50.0%
		7.1%	28.6%	21.4%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%		
	民間企業・団体の正規職員	9	50	57	36	103	2	257	23.0%	36.2%
		3.5%	19.5%	22.2%	14.0%	40.1%	0.8%	100.0%		
	非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト)	9	33	56	20	76	3	197	21.3%	38.6%
		4.6%	16.8%	28.4%	10.2%	38.6%	1.5%	100.0%		
学生	1	2	2	0	5	0	10	30.0%	20.0%	
	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%			
無職	10	51	74	41	136	33	345	17.7%	33.3%	
	2.9%	14.8%	21.4%	11.9%	39.4%	9.6%	100.0%			
その他	2	7	9	2	22	2	44	20.5%	25.0%	
	4.5%	15.9%	20.5%	4.5%	50.0%	4.5%	100.0%			
	職業回答なし	1	1	4	2	6	3	17	11.8%	35.3%
		5.9%	5.9%	23.5%	11.8%	35.3%	17.6%	100.0%		
Q23啓発接触度ランク	なし	23	104	131	87	308	41	694	18.3%	31.4%
		3.3%	15.0%	18.9%	12.5%	44.4%	5.9%	100.0%		
	低群	1	22	28	10	27	3	91	25.3%	41.8%
		1.1%	24.2%	30.8%	11.0%	29.7%	3.3%	100.0%		
	中・低群	3	14	29	12	29	1	88	19.3%	46.6%
		3.4%	15.9%	33.0%	13.6%	33.0%	1.1%	100.0%		
中・高群	7	15	18	3	13	1	57	38.6%	36.8%	
	12.3%	26.3%	31.6%	5.3%	22.8%	1.8%	100.0%			
高群	1	18	26	10	10	3	68	27.9%	52.9%	
	1.5%	26.5%	38.2%	14.7%	14.7%	4.4%	100.0%			
Q21ma部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	9	60	68	38	96	2	273	25.3%	38.8%
		3.3%	22.0%	24.9%	13.9%	35.2%	0.7%	100.0%		
	中学校で学んだ	10	46	63	33	62	2	216	25.9%	44.4%
		4.6%	21.3%	29.2%	15.3%	28.7%	0.9%	100.0%		
	高等・高等専修学校で学んだ	2	22	37	20	28	0	109	22.0%	52.3%
		1.8%	20.2%	33.9%	18.3%	25.7%	0.0%	100.0%		
	短大・大学・専門学校(それ以上の学	1	6	7	0	8	0	22	31.8%	31.8%
		4.5%	27.3%	31.8%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%		
	はっきりと覚えていない	8	39	69	34	125	11	286	16.4%	36.0%
	2.8%	13.6%	24.1%	11.9%	43.7%	3.8%	100.0%			
学校で学んだ経験はない	11	38	44	26	101	19	239	20.5%	29.3%	
	4.6%	15.9%	18.4%	10.9%	42.3%	7.9%	100.0%			
	回答なし	1	2	0	1	7	15	26	11.5%	3.8%
		3.8%	7.7%	0.0%	3.8%	26.9%	57.7%	100.0%		
合計		35	173	232	122	387	49	998	20.8%	35.5%
		3.5%	17.3%	23.2%	12.2%	38.8%	4.9%	100.0%		

Q18D 現在、部落差別があると思うか—結婚

		Q18D結婚について								
		あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし	合計	ある	ない
性別	男性	32	155	77	40	161	24	489	38.2%	23.9%
		6.5%	31.7%	15.7%	8.2%	32.9%	4.9%	100.0%		
	女性	26	141	75	33	183	18	476	35.1%	22.7%
		5.5%	29.6%	15.8%	6.9%	38.4%	3.8%	100.0%		
		回答しない	1	5	2	1	15	0	24	25.0%
	性別回答なし	1	2	0	3	1	2	9	33.3%	33.3%
		11.1%	22.2%	0.0%	33.3%	11.1%	22.2%	100.0%		
年齢2	10・20歳代	4	17	11	9	35	0	76	27.6%	26.3%
		5.3%	22.4%	14.5%	11.8%	46.1%	0.0%	100.0%		
	30歳代	5	36	22	12	42	1	118	34.7%	28.8%
		4.2%	30.5%	18.6%	10.2%	35.6%	0.8%	100.0%		
	40歳代	12	55	26	5	54	2	154	43.5%	20.1%
		7.8%	35.7%	16.9%	3.2%	35.1%	1.3%	100.0%		
	50歳代	11	54	26	13	70	2	176	36.9%	22.2%
		6.3%	30.7%	14.8%	7.4%	39.8%	1.1%	100.0%		
	60歳代	14	78	34	16	76	14	232	39.7%	21.6%
6.0%		33.6%	14.7%	6.9%	32.8%	6.0%	100.0%			
70歳以上	13	61	35	20	81	23	233	31.8%	23.6%	
	5.6%	26.2%	15.0%	8.6%	34.8%	9.9%	100.0%			
	年齢回答なし	1	2	0	2	2	9	33.3%	22.2%	
		11.1%	22.2%	0.0%	22.2%	22.2%	22.2%	100.0%		
職業	自営業	3	22	10	9	28	5	77	32.5%	24.7%
		3.9%	28.6%	13.0%	11.7%	36.4%	6.5%	100.0%		
	公務員、教員	3	16	8	1	9	0	37	51.4%	24.3%
		8.1%	43.2%	21.6%	2.7%	24.3%	0.0%	100.0%		
	民間企業・団体の経営者、役員	0	7	4	1	2	0	14	50.0%	35.7%
		0.0%	50.0%	28.6%	7.1%	14.3%	0.0%	100.0%		
	民間企業・団体の正規職員	11	78	43	23	100	2	257	34.6%	25.7%
		4.3%	30.4%	16.7%	8.9%	38.9%	0.8%	100.0%		
	非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト)	14	64	33	15	68	3	197	39.6%	24.4%
		7.1%	32.5%	16.8%	7.6%	34.5%	1.5%	100.0%		
	学生	1	4	1	0	4	0	10	50.0%	10.0%
10.0%		40.0%	10.0%	0.0%	40.0%	0.0%	100.0%			
無職	21	101	47	26	121	29	345	35.4%	21.2%	
	6.1%	29.3%	13.6%	7.5%	35.1%	8.4%	100.0%			
その他	6	7	7	0	22	2	44	29.5%	15.9%	
	13.6%	15.9%	15.9%	0.0%	50.0%	4.5%	100.0%			
	職業回答なし	1	4	1	2	6	17	29.4%	17.6%	
		5.9%	23.5%	5.9%	11.8%	35.3%	17.6%	100.0%		
Q23啓発接触度ランク	なし	37	189	86	59	286	37	694	32.6%	20.9%
		5.3%	27.2%	12.4%	8.5%	41.2%	5.3%	100.0%		
	低群	6	31	19	9	24	2	91	40.7%	30.8%
		6.6%	34.1%	20.9%	9.9%	26.4%	2.2%	100.0%		
	中・低群	4	35	15	4	28	2	88	44.3%	21.6%
		4.5%	39.8%	17.0%	4.5%	31.8%	2.3%	100.0%		
中・高群	7	22	14	1	13	0	57	50.9%	26.3%	
	12.3%	38.6%	24.6%	1.8%	22.8%	0.0%	100.0%			
高群	6	26	20	4	9	3	68	47.1%	35.3%	
	8.8%	38.2%	29.4%	5.9%	13.2%	4.4%	100.0%			
Q21ma部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	20	99	37	24	92	1	273	43.6%	22.3%
		7.3%	36.3%	13.6%	8.8%	33.7%	0.4%	100.0%		
	中学校で学んだ	21	85	36	17	55	2	216	49.1%	24.5%
		9.7%	39.4%	16.7%	7.9%	25.5%	0.9%	100.0%		
	高等・高等専修学校で学んだ	6	48	18	11	26	0	109	49.5%	26.6%
		5.5%	44.0%	16.5%	10.1%	23.9%	0.0%	100.0%		
	短大・大学・専門学校(それ以上の学)	3	6	6	0	7	0	22	40.9%	27.3%
		13.6%	27.3%	27.3%	0.0%	31.8%	0.0%	100.0%		
	はっきりと覚えていない	9	73	52	19	123	10	286	28.7%	24.8%
		3.1%	25.5%	18.2%	6.6%	43.0%	3.5%	100.0%		
学校で学んだ経験はない	18	64	28	19	94	16	239	34.3%	19.7%	
	7.5%	26.8%	11.7%	7.9%	39.3%	6.7%	100.0%			
	回答なし	1	2	1	1	6	15	11.5%	7.7%	
		3.8%	7.7%	3.8%	3.8%	23.1%	57.7%	100.0%		
合計		60	303	154	77	360	44	998	36.4%	23.1%
		6.0%	30.4%	15.4%	7.7%	36.1%	4.4%	100.0%		

Q18E 現在、部落差別があると思うか—引っ越しや住宅の購入

		Q18E引っ越しや住宅の購入に関して								
		あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし	合計	ある	ない
性別	男性	13 2.7%	80 16.4%	111 22.7%	72 14.7%	190 38.9%	23 4.7%	489 100.0%	19.0%	37.4%
	女性	9 1.9%	61 12.8%	106 22.3%	48 10.1%	231 48.5%	21 4.4%	476 100.0%	14.7%	32.4%
	回答しない	1 4.2%	1 4.2%	4 16.7%	1 4.2%	17 70.8%	0 0.0%	24 100.0%	8.3%	20.8%
	性別回答なし	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	4 44.4%	2 22.2%	9 100.0%	11.1%	22.2%
年齢	10・20歳代	1 1.3%	13 17.1%	10 13.2%	12 15.8%	40 52.6%	0 0.0%	76 100.0%	18.4%	28.9%
	30歳代	4 3.4%	23 19.5%	23 19.5%	12 10.2%	55 46.6%	1 0.8%	118 100.0%	22.9%	29.7%
	40歳代	5 3.2%	25 16.2%	38 24.7%	15 9.7%	70 45.5%	1 0.6%	154 100.0%	19.5%	34.4%
	50歳代	6 3.4%	22 12.5%	44 25.0%	25 14.2%	77 43.8%	2 1.1%	176 100.0%	15.9%	39.2%
	60歳代	3 1.3%	35 15.1%	58 25.0%	22 9.5%	97 41.8%	17 7.3%	232 100.0%	16.4%	34.5%
	70歳以上	4 1.7%	24 10.3%	48 20.6%	36 15.5%	98 42.1%	23 9.9%	233 100.0%	12.0%	36.1%
	年齢回答なし	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	5 55.6%	2 22.2%	9 100.0%	11.1%	11.1%
	職業	自営業	1 1.3%	6 7.8%	20 26.0%	11 14.3%	33 42.9%	6 7.8%	77 100.0%	9.1%
公務員、教員		0 0.0%	8 21.6%	13 35.1%	2 5.4%	14 37.8%	0 0.0%	37 100.0%	21.6%	40.5%
民間企業・団体の経営者、役員		0 0.0%	4 28.6%	4 28.6%	5 35.7%	1 7.1%	0 0.0%	14 100.0%	28.6%	64.3%
民間企業・団体の正規職員		9 3.5%	43 16.7%	55 21.4%	36 14.0%	113 44.0%	1 0.4%	257 100.0%	20.2%	35.4%
非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト)		5 2.5%	31 15.7%	52 26.4%	21 10.7%	85 43.1%	3 1.5%	197 100.0%	18.3%	37.1%
学生		0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%	6 60.0%	0 0.0%	10 100.0%	20.0%	20.0%
無職		4 1.2%	41 11.9%	68 19.7%	45 13.0%	156 45.2%	31 9.0%	345 100.0%	13.0%	32.8%
その他		4 9.1%	5 11.4%	7 15.9%	1 2.3%	25 56.8%	2 4.5%	44 100.0%	20.5%	18.2%
職業回答なし		0 0.0%	3 17.6%	1 5.9%	1 5.9%	9 52.9%	3 17.6%	17 100.0%	17.6%	11.8%
Q23啓発接触度ランク		なし	15 2.2%	91 13.1%	122 17.6%	82 11.8%	345 49.7%	39 5.6%	694 100.0%	15.3%
	低群	1 1.1%	10 11.0%	30 33.0%	13 14.3%	35 38.5%	2 2.2%	91 100.0%	12.1%	47.3%
	中・低群	1 1.1%	16 18.2%	25 28.4%	12 13.6%	32 36.4%	2 2.3%	88 100.0%	19.3%	42.0%
	中・高群	3 5.3%	11 19.3%	17 29.8%	6 10.5%	19 33.3%	1 1.8%	57 100.0%	24.6%	40.4%
	高群	3 4.4%	15 22.1%	27 39.7%	10 14.7%	11 16.2%	2 2.9%	68 100.0%	26.5%	54.4%
	Q21ma部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	9 3.3%	53 19.4%	64 23.4%	35 12.8%	111 40.7%	1 0.4%	273 100.0%	22.7%
中学校で学んだ		9 4.2%	48 22.2%	58 26.9%	33 15.3%	67 31.0%	1 0.5%	216 100.0%	26.4%	42.1%
高等・高等専修学校で学んだ		4 3.7%	18 16.5%	34 31.2%	18 16.5%	35 32.1%	0 0.0%	109 100.0%	20.2%	47.7%
短大・大学・専門学校(それ以上の学		0 0.0%	3 13.6%	10 45.5%	1 4.5%	8 36.4%	0 0.0%	22 100.0%	13.6%	50.0%
はつきりと覚えていない		4 1.4%	30 10.5%	65 22.7%	31 10.8%	142 49.7%	14 4.9%	286 100.0%	11.9%	33.6%
学校で学んだ経験はない		4 1.7%	25 10.5%	43 18.0%	29 12.1%	122 51.0%	16 6.7%	239 100.0%	12.1%	30.1%
回答なし		1 3.8%	2 7.7%	1 3.8%	1 3.8%	7 26.9%	14 53.8%	26 100.0%	11.5%	7.7%
合計		23 2.3%	143 14.3%	221 22.1%	123 12.3%	442 44.3%	46 4.6%	998 100.0%	16.6%	34.5%

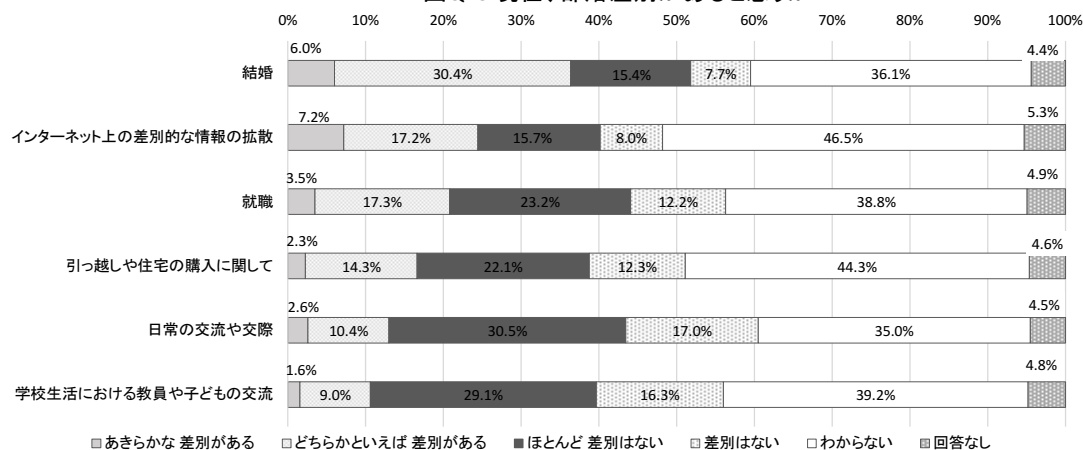
Q18F 現在、部落差別があると思うか—インターネット上の差別的な情報の拡散

		Q18Fインターネット上の差別的な情報の拡散							合計	ある	ない
		あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし				
性別	男性	45	93	85	44	192	30	489	28.2%	26.4%	
		9.2%	19.0%	17.4%	9.0%	39.3%	6.1%	100.0%			
	女性	23	75	69	33	255	21	476	20.6%	21.4%	
		4.8%	15.8%	14.5%	6.9%	53.6%	4.4%	100.0%			
回答しない	4	3	2	1	14	0	24	29.2%	12.5%		
性別回答なし	0	1	1	2	3	2	9	11.1%	33.3%		
		0.0%	11.1%	11.1%	22.2%	33.3%	22.2%	100.0%			
年齢2	10・20歳代	8	15	11	6	35	1	76	30.3%	22.4%	
		10.5%	19.7%	14.5%	7.9%	46.1%	1.3%	100.0%			
	30歳代	9	31	20	12	45	1	118	33.9%	27.1%	
		7.6%	26.3%	16.9%	10.2%	38.1%	0.8%	100.0%			
	40歳代	20	27	25	9	72	1	154	30.5%	22.1%	
		13.0%	17.5%	16.2%	5.8%	46.8%	0.6%	100.0%			
	50歳代	18	36	29	16	75	2	176	30.7%	25.6%	
		10.2%	20.5%	16.5%	9.1%	42.6%	1.1%	100.0%			
60歳代	10	36	34	15	120	17	232	19.8%	21.1%		
	4.3%	15.5%	14.7%	6.5%	51.7%	7.3%	100.0%				
70歳以上	7	25	37	21	114	29	233	13.7%	24.9%		
	3.0%	10.7%	15.9%	9.0%	48.9%	12.4%	100.0%				
年齢回答なし	0	2	1	1	3	2	9	22.2%	22.2%		
		0.0%	22.2%	11.1%	11.1%	33.3%	22.2%	100.0%			
職業	自営業	4	14	15	9	28	7	77	23.4%	31.2%	
		5.2%	18.2%	19.5%	11.7%	36.4%	9.1%	100.0%			
	公務員、教員	4	16	4	1	12	0	37	54.1%	13.5%	
		10.8%	43.2%	10.8%	2.7%	32.4%	0.0%	100.0%			
	民間企業・団体の経営者、役員	1	3	3	1	6	0	14	28.6%	28.6%	
		7.1%	21.4%	21.4%	7.1%	42.9%	0.0%	100.0%			
	民間企業・団体の正規職員	27	50	45	30	104	1	257	30.0%	29.2%	
		10.5%	19.5%	17.5%	11.7%	40.5%	0.4%	100.0%			
	非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト)	15	33	39	14	90	6	197	24.4%	26.9%	
		7.6%	16.8%	19.8%	7.1%	45.7%	3.0%	100.0%			
学生	0	3	1	0	6	0	10	30.0%	10.0%		
無職	15	46	42	23	185	34	345	17.7%	18.8%		
	4.3%	13.3%	12.2%	6.7%	53.6%	9.9%	100.0%				
その他	5	2	6	1	28	2	44	15.9%	15.9%		
	11.4%	4.5%	13.6%	2.3%	63.6%	4.5%	100.0%				
職業回答なし	1	5	2	1	5	3	17	35.3%	17.6%		
		5.9%	29.4%	11.8%	5.9%	29.4%	17.6%	100.0%			
Q23啓発ランク	なし	42	108	85	55	358	46	694	21.6%	20.2%	
		6.1%	15.6%	12.2%	7.9%	51.6%	6.6%	100.0%			
	低群	6	17	18	9	39	2	91	25.3%	29.7%	
		6.6%	18.7%	19.8%	9.9%	42.9%	2.2%	100.0%			
	中・低群	6	20	23	5	32	2	88	29.5%	31.8%	
		6.8%	22.7%	26.1%	5.7%	36.4%	2.3%	100.0%			
中・高群	11	12	9	3	22	0	57	40.4%	21.1%		
	19.3%	21.1%	15.8%	5.3%	38.6%	0.0%	100.0%				
高群	7	15	22	8	13	3	68	32.4%	44.1%		
		10.3%	22.1%	32.4%	11.8%	19.1%	4.4%	100.0%			
Q21ma部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	28	64	46	26	106	3	273	33.7%	26.4%	
		10.3%	23.4%	16.8%	9.5%	38.8%	1.1%	100.0%			
	中学校で学んだ	19	61	39	20	75	2	216	37.0%	27.3%	
		8.8%	28.2%	18.1%	9.3%	34.7%	0.9%	100.0%			
	高等・高等専修学校で学んだ	9	34	20	11	35	0	109	39.4%	28.4%	
		8.3%	31.2%	18.3%	10.1%	32.1%	0.0%	100.0%			
	短大・大学・専門学校(それ以上の学校)で学んだ	2	7	3	0	10	0	22	40.9%	13.6%	
		9.1%	31.8%	13.6%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%			
はっきりと覚えていない	15	30	46	20	159	16	286	15.7%	23.1%		
	5.2%	10.5%	16.1%	7.0%	55.6%	5.6%	100.0%				
学校で学んだ経験はない	16	31	34	18	122	18	239	19.7%	21.8%		
	6.7%	13.0%	14.2%	7.5%	51.0%	7.5%	100.0%				
回答なし	2	1	0	1	7	15	26	11.5%	3.8%		
		7.7%	3.8%	0.0%	3.8%	26.9%	57.7%	100.0%			
合計		72	172	157	80	464	53	998	24.4%	23.7%	
		7.2%	17.2%	15.7%	8.0%	46.5%	5.3%	100.0%			

	あきらかな差別がある	どちらかといえば差別がある	ほとんど差別はない	差別はない	わからない	回答なし	ある	ない
結婚	6.0%	30.4%	15.4%	7.7%	36.1%	4.4%	36.4%	23.1%
インターネット上の差別的な情報の拡散	7.2%	17.2%	15.7%	8.0%	46.5%	5.3%	24.4%	23.7%
就職	3.5%	17.3%	23.2%	12.2%	38.8%	4.9%	20.8%	35.5%
引っ越しや住宅の購入に関して	2.3%	14.3%	22.1%	12.3%	44.3%	4.6%	16.6%	34.5%
日常の交流や交際	2.6%	10.4%	30.5%	17.0%	35.0%	4.5%	13.0%	47.5%
学校生活における教員や子どもの交流	1.6%	9.0%	29.1%	16.3%	39.2%	4.8%	10.6%	45.4%

※差別が“ある”と答えた割合の多かった順に上から並べ替えている。

図Q18 現在、部落差別があると思うか



Q20家の購入・マンション賃貸など住宅を選ぶ際、同和地区や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思うか

		Q20住宅を選ぶ際、同和地区や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思うか						
		同和地区や同じ小学校区にある物件は避けると思う	同和地区にある物件は避けるが同じ小学校区にある物件は避けないと思う	いずれにあってもこだわらない	その他	回答なし	合計	
性別	男性	135 27.6%	105 21.5%	220 45.0%	6 1.2%	23 4.7%	489 100.0%	
	女性	133 27.9%	145 30.5%	163 34.2%	18 3.8%	17 3.6%	476 100.0%	
	回答しない	8 33.3%	5 20.8%	9 37.5%	1 4.2%	1 4.2%	24 100.0%	
	性別回答なし	3 33.3%	1 11.1%	3 33.3%	1 11.1%	1 11.1%	9 100.0%	
	合計	279 28.0%	256 25.7%	395 39.6%	26 2.6%	42 4.2%	998 100.0%	
年齢	10-20歳代	24 31.6%	12 15.8%	35 46.1%	4 5.3%	1 1.3%	76 100.0%	
	30歳代	35 29.7%	36 30.5%	40 33.9%	3 2.5%	4 3.4%	118 100.0%	
	40歳代	41 26.6%	41 26.6%	67 43.5%	3 1.9%	2 1.3%	154 100.0%	
	50歳代	48 27.3%	44 25.0%	69 39.2%	6 3.4%	9 5.1%	176 100.0%	
	60歳代	73 31.5%	65 28.0%	81 34.9%	5 2.2%	8 3.4%	232 100.0%	
	70歳以上	54 23.2%	56 24.0%	102 43.8%	4 1.7%	17 7.3%	233 100.0%	
	年齢回答なし	4 44.4%	2 22.2%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%	9 100.0%	
	合計	279 28.0%	256 25.7%	395 39.6%	26 2.6%	42 4.2%	998 100.0%	
	職業	自営業	22 28.6%	25 32.5%	27 35.1%	1 1.3%	2 2.6%	77 100.0%
公務員、教員		9 24.3%	16 43.2%	11 29.7%	0 0.0%	1 2.7%	37 100.0%	
民間企業・団体の経営者、役員		3 21.4%	4 28.6%	7 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 100.0%	
民間企業・団体の正規職員		77 30.0%	57 22.2%	106 41.2%	10 3.9%	7 2.7%	257 100.0%	
非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト等)		66 33.5%	55 27.9%	68 34.5%	5 2.5%	3 1.5%	197 100.0%	
学生		1 10.0%	1 10.0%	7 70.0%	1 10.0%	0 0.0%	10 100.0%	
無職		81 23.5%	87 25.2%	147 42.6%	8 2.3%	22 6.4%	345 100.0%	
その他		14 31.8%	7 15.9%	17 38.6%	0 0.0%	6 13.6%	44 100.0%	
職業回答なし		6 35.3%	4 23.5%	5 29.4%	1 5.9%	1 5.9%	17 100.0%	
合計		279 28.0%	256 25.7%	395 39.6%	26 2.6%	42 4.2%	998 100.0%	
Q23啓発接触度ランク	なし	206 29.7%	168 24.2%	260 37.5%	19 2.7%	41 5.9%	694 100.0%	
	低群	19 20.9%	28 30.8%	44 48.4%	0 0.0%	0 0.0%	91 100.0%	
	中・低群	21 23.9%	24 27.3%	37 42.0%	5 5.7%	1 1.1%	88 100.0%	
	中・高群	12 21.1%	17 29.8%	27 47.4%	1 1.8%	0 0.0%	57 100.0%	
	高群	21 30.9%	19 27.9%	27 39.7%	1 1.5%	0 0.0%	68 100.0%	
	合計	279 28.0%	256 25.7%	395 39.6%	26 2.6%	42 4.2%	998 100.0%	
Q22親しくしている人の中に部落出身の人がいるか	親しくしている人がいる	30 19.5%	37 24.0%	81 52.6%	4 2.6%	2 1.3%	154 100.0%	
	親しくしている人はいない	120 40.0%	80 26.7%	90 30.0%	3 1.0%	7 2.3%	300 100.0%	
	わからない	129 24.4%	138 26.1%	223 42.2%	19 3.6%	19 3.6%	528 100.0%	
	回答なし	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%	14 87.5%	16 100.0%	
	合計	279 28.0%	256 25.7%	395 39.6%	26 2.6%	42 4.2%	998 100.0%	
	Q21na部落差別・学校での学習経験	小学校で学んだ	79 28.9%	73 26.7%	109 39.9%	8 2.9%	4 1.5%	273 100.0%
		中学校で学んだ	72 33.3%	65 30.1%	73 33.8%	4 1.9%	2 0.9%	216 100.0%
高等・高等専修学校で学んだ		30 27.5%	28 25.7%	46 42.2%	2 1.8%	3 2.8%	109 100.0%	
短大・大学・専門学校(それ以上の学校)で学んだ		5 22.7%	6 27.3%	11 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%	
はっきりと覚えていない		82 28.7%	74 25.9%	115 40.2%	8 2.8%	7 2.4%	286 100.0%	
学校で学んだ経験はない		69 28.9%	49 20.5%	107 44.8%	7 2.9%	7 2.9%	239 100.0%	
回答なし		0 0.0%	2 7.7%	1 3.8%	1 3.8%	22 84.6%	26 100.0%	
合計		279 28.0%	256 25.7%	395 39.6%	26 2.6%	42 4.2%	998 100.0%	

部落差別についての「現状認識」と「態度」のずれ

	現状認識		態度	
結婚	差別が“ある”	36.4%	結婚する	56.9%
	差別が“ない”	23.1%	結婚しない	36.0%
住宅・土地	差別が“ある”	16.6%	避ける	53.6%
	差別が“ない”	34.5%	こだわらない	39.6%

Q18D×Q17A 【結婚】 部落差別の現状認識 × 自分自身の態度①

			Q17A部落出身者				
			迷わず結婚する	家族や親せきの反対があればできるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば結婚しない	結婚しない	回答なし
Q18D結婚	差別が“ある”	n=363	14.0%	39.4%	16.5%	26.2%	3.9%
	差別が“ない”	n=231	26.0%	45.0%	14.7%	10.0%	4.3%
	わからない	n=360	15.0%	41.4%	16.1%	22.5%	5.0%
	回答なし	n=44	9.1%	6.8%	6.8%	11.4%	65.9%
合計		n=998	16.9%	40.0%	15.5%	20.4%	7.1%

Q18D×Q17A 【結婚】 部落差別の現状認識 × 自分自身の態度②

			YN17A		
			“結婚する”	“結婚しない”	回答なし
Q18D結婚	差別が“ある”	n=363	53.4%	42.7%	3.9%
	差別が“ない”	n=231	71.0%	24.7%	4.3%
	わからない	n=360	56.4%	38.6%	5.0%
	回答なし	n=44	15.9%	18.2%	65.9%
合計		n=998	56.9%	36.0%	7.1%

Q18E× Q20 【住宅・土地】 部落差別の現状認識 × 自分自身の態度①

			Q20住宅を選ぶ際、同和地区や同じ校区の物件は避けることがあると思うか				
			同和地区や同じ小学校区に同和地区がある物件は避けると思う	同和地区にある物件は避けるが同じ小学校区に同和地区がある物件は避けたいと思う	いずれにあってもこだわらない	その他	回答なし
Q18EYN住	差別が“ある”	n=166	39.2%	27.7%	28.9%	1.8%	2.4%
	差別が“ない”	n=344	22.7%	30.8%	43.0%	2.0%	1.5%
	わからない	n=442	28.7%	22.4%	41.6%	3.4%	3.8%
	回答なし	n=46	19.6%	10.9%	32.6%	2.2%	34.8%
合計		n=998	28.0%	25.7%	39.6%	2.6%	4.2%

Q18E× Q20 【住宅・土地】 部落差別の現状認識 × 自分自身の態度②

			Q20YN家の購入			
			同和地区は“避ける”	いずれにあってもこだわらない	その他	回答なし
Q18EYN住	差別が“ある”	n=166	66.9%	28.9%	1.8%	2.4%
	差別が“ない”	n=344	53.5%	43.0%	2.0%	1.5%
	わからない	n=442	51.1%	41.6%	3.4%	3.8%
	回答なし	n=46	30.4%	32.6%	2.2%	34.8%
合計		n=998	53.6%	39.6%	2.6%	4.2%

Q23スコア(啓発接触)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1	91	9.1	29.9	29.9
2	88	8.8	28.9	58.9
3	57	5.7	18.8	77.6
4	19	1.9	6.3	83.9
5	14	1.4	4.6	88.5
6	6	0.6	2.0	90.5
7	7	0.7	2.3	92.8
8	22	2.2	7.2	100.0
合計	304	30.5	100.0	
システム欠損値	694	69.5		
合計	998	100.0		

接触
低 1
中・低 2
中・高 3
高 4~8

なし

A~Hまでの8項目について、「とても役に立った」「役に立った」「役に立たなかった」のいずれかを選択した者は、ともかくもこれらの啓発事業・媒体に接触していることになるので、1点を与え、「参加していない」または「回答なし」は0点とし、これを回答者ごとに合計し、啓発接触度スコアを算出した(8項目すべてに接触していれば8点、全くなければ0点となる。実際、回答者のスコアは0~8の間に散らばった)。

Q23啓発ランク度数(確認用)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	694	69.5	69.5
	低群	91	9.1	78.7
	中・低群	88	8.8	87.5
	中・高群	57	5.7	93.2
	高群	68	6.8	100.0
合計	998	100.0	100.0	

さらにスコアの度数分布を算出したところ、0点が694人あったので、これを接触「なし」とし、1~8点までの回答者については、スコアの低~高の順に、できるだけ回答者の1/4ずつが含まれるようグループに分け、啓発との接触度「低群」(1点)、「中・低群」(2点)、「中・高群」(3点)、「高群」(4~8点)とし、これを「啓発との接触度ランク」とした。

※とりあえず、差が8%(小数点以下第一位四捨五入)以上あるもの(多い方)にアミかけた

Q18-Q17A×Q23 【結婚】現状認識→態度のずれと、啓発接触ランク

			Q23啓発ランク				
			なし	低群	中・低群	中・高群	高群
Q18Q17A結婚態度変更	差別が“ある”→“結婚する”	n=194	52.6%	11.9%	13.4%	11.9%	10.3%
	差別が“ある”→“結婚しない”	n=155	72.9%	9.0%	7.1%	3.9%	7.1%
(上段-下段)			-20.3%	2.8%	6.3%	8.0%	3.2%

			Q23啓発ランク				
			なし	低群	中・低群	中・高群	高群
Q18Q17A結婚態度変更	差別が“ある”→“結婚する”	n=194	52.6%	11.9%	13.4%	11.9%	10.3%
	差別が“ない”→“結婚する”	n=164	63.4%	12.2%	7.3%	6.1%	11.0%
(上段-下段)			-10.8%	-0.3%	6.1%	5.8%	-0.7%

Q18-Q17A×Q23 【結婚】現状認識→態度のずれと、学校での学習経験

			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校(それ以上)で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	回答なし
Q18Q17A結婚態度変更	差別が“ある”→“結婚する”	n=194	37.6%	30.9%	20.1%	3.6%	21.1%	19.1%	0.0%
	差別が“ある”→“結婚しない”	n=155	28.4%	28.4%	8.4%	1.3%	24.5%	25.2%	1.9%
(上段-下段)			9.2%	2.5%	11.7%	2.3%	-3.4%	-6.1%	-1.9%

			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校(それ以上)で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	回答なし
Q18Q17A結婚態度変更	差別が“ある”→“結婚する”	n=194	37.6%	30.9%	20.1%	3.6%	21.1%	19.1%	0.0%
	差別が“ない”→“結婚する”	n=164	29.9%	23.2%	12.2%	3.0%	29.9%	18.3%	0.6%
(上段-下段)			7.8%	7.8%	7.9%	0.6%	-8.7%	0.8%	-0.6%

Q18-Q20×Q23 【住宅・土地】現状認識→態度のずれと、啓発接触ランク

			Q23啓発ランク				
			なし	低群	中・低群	中・高群	高群
Q18Q20住宅 態度変更	差別が“ある”→こだわらない	n=48	66.7%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%
	差別が“ある”→“同和地区は避ける”	n=111	63.1%	6.3%	9.9%	8.1%	12.6%
(上段-下段)			3.6%	2.0%	-1.6%	0.2%	-4.3%

			Q23啓発ランク				
			なし	低群	中・低群	中・高群	高群
Q18Q20住宅 態度変更	差別が“ある”→こだわらない	n=48	66.7%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%
	差別が“ない”→こだわらない	n=148	54.1%	15.5%	10.8%	8.1%	11.5%
(上段-下段)			12.6%	-7.2%	-2.5%	0.2%	-3.2%

Q18-Q20×Q23 【住宅・土地】現状認識→態度のずれと、学校での学習経験

			Q21ma部落差別・学校での学習経験 ^a						
			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校(それ以上の学校)で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	回答なし
Q18Q20住宅 態度変更	差別が“ある”→こだわらない	n=48	31.3%	33.3%	16.7%	2.1%	20.8%	22.9%	0.0%
	差別が“ある”→“同和地区は避ける”	n=111	39.6%	36.9%	12.6%	1.8%	20.7%	15.3%	0.9%
(上段-下段)			-8.4%	-3.6%	4.1%	0.3%	0.1%	7.6%	-0.9%

			Q21ma部落差別・学校での学習経験 ^a						
			小学校で学んだ	中学校で学んだ	高等・高等専修学校で学んだ	短大・大学・専門学校(それ以上の学校)で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	回答なし
Q18Q20住宅 態度変更	差別が“ある”→こだわらない	n=48	31.3%	33.3%	16.7%	2.1%	20.8%	22.9%	0.0%
	差別が“ない”→こだわらない	n=148	29.1%	18.9%	13.5%	4.1%	27.7%	26.4%	0.0%
(上段-下段)			2.2%	14.4%	3.2%	-2.0%	-6.9%	-3.4%	0.0%

回転後の因子行列^a

	第1因子	第2因子	第3因子
A人権問題は、差別する人だけでなく、差別される人にも 問題がある	0.621	0.007	0.067
C社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある	0.604	0.222	-0.119
B介護や介助を受ける人があまりあれこれ自己主張するのはよくない	0.538	0.252	-0.037
J現代は競争社会であり、個人の能力差があることで差別が生じるのはしかたがない	0.314	0.189	-0.010
H学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ	0.292	0.585	0.061
I個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ	0.207	0.532	0.054
G思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	0.019	0.354	0.141
F自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人 が増えている	0.241	0.339	0.098
D人権問題を解決する責任は、まず行政にある	0.052	0.049	0.837
E差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ	-0.078	0.201	0.426

信頼度係数(Cronbachのα)

0.65 自己責任・自助努力志向

0.56 徳目・地域志向

0.55 法・制度志向

因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法(直交回転)

a. 5 回の反復で回転が収束しました。

説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	2.580	25.804	25.804	1.925	19.253	19.253	1.333	13.332	13.332
2	1.506	15.059	40.864	0.975	9.748	29.001	1.057	10.570	23.901
3	1.024	10.243	51.107	0.429	4.289	33.290	0.939	9.389	33.290
4	0.883	8.830	59.937						
5	0.844	8.437	68.374						
6	0.786	7.859	76.232						
7	0.689	6.886	83.118						
8	0.631	6.310	89.428						
9	0.549	5.486	94.914						
10	0.509	5.086	100.000						

因子抽出法: 主因子法

自己責任・自助努力スコア

	度数	パーセン ト	有効パー セント	累積パー セント
有効	4.00	9	0.9	0.9
	5.00	21	2.1	3.0
	5.50	1	0.1	3.1
	6.00	37	3.7	6.8
	6.50	1	0.1	6.9
	7.00	56	5.6	12.5
	7.50	1	0.1	12.6
	8.00	89	8.9	21.5
	8.50	4	0.4	21.9
	9.00	124	12.4	34.4
	9.50	3	0.3	34.7
	10.00	173	17.3	52.0
	10.50	9	0.9	52.9
	11.00	155	15.5	68.4
	11.50	4	0.4	68.8
	12.00	130	13.0	81.9
	12.50	4	0.4	82.3
	13.00	75	7.5	89.8
	13.50	3	0.3	90.1
	14.00	48	4.8	94.9
	15.00	27	2.7	97.6
	16.00	24	2.4	100.0
合計		998	100.0	100.0

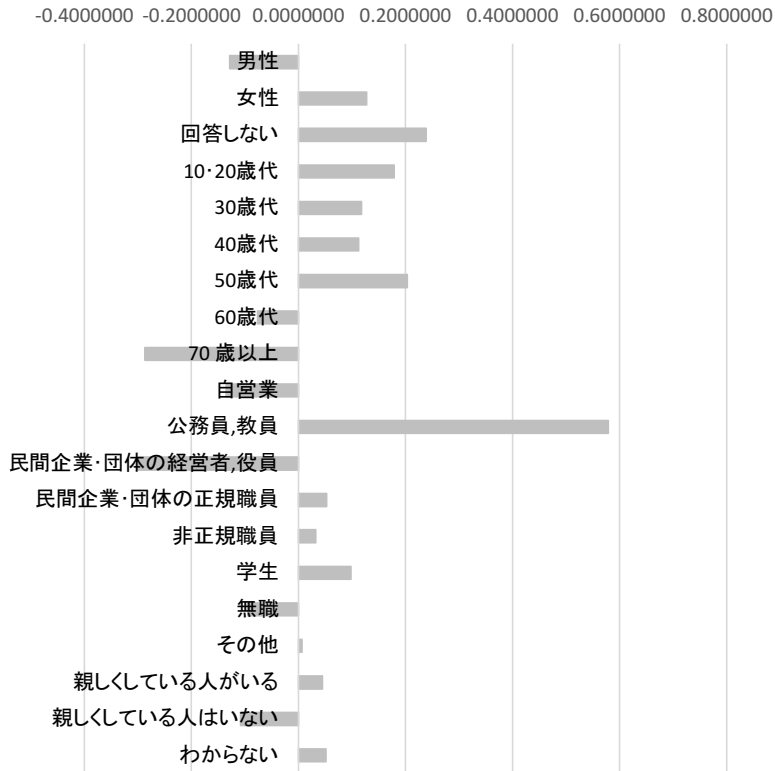
徳目・共同体志向スコア

	度数	パーセン ト	有効パー セント	累積パー セント
有効	4.00	28	2.8	2.8
	5.00	46	4.6	7.4
	6.00	92	9.2	16.6
	6.50	3	0.3	16.9
	7.00	106	10.6	27.6
	7.50	1	0.1	27.7
	8.00	165	16.5	44.2
	8.50	9	0.9	45.1
	9.00	184	18.4	63.5
	9.50	10	1.0	64.5
	10.00	171	17.1	81.7
	10.50	2	0.2	81.9
	11.00	80	8.0	89.9
	11.50	1	0.1	90.0
	12.00	50	5.0	95.0
	12.50	1	0.1	95.1
	13.00	30	3.0	98.1
	14.00	10	1.0	99.1
	15.00	5	0.5	99.6
	16.00	4	0.4	100.0
合計		998	100.0	100.0

法・制度志向スコア

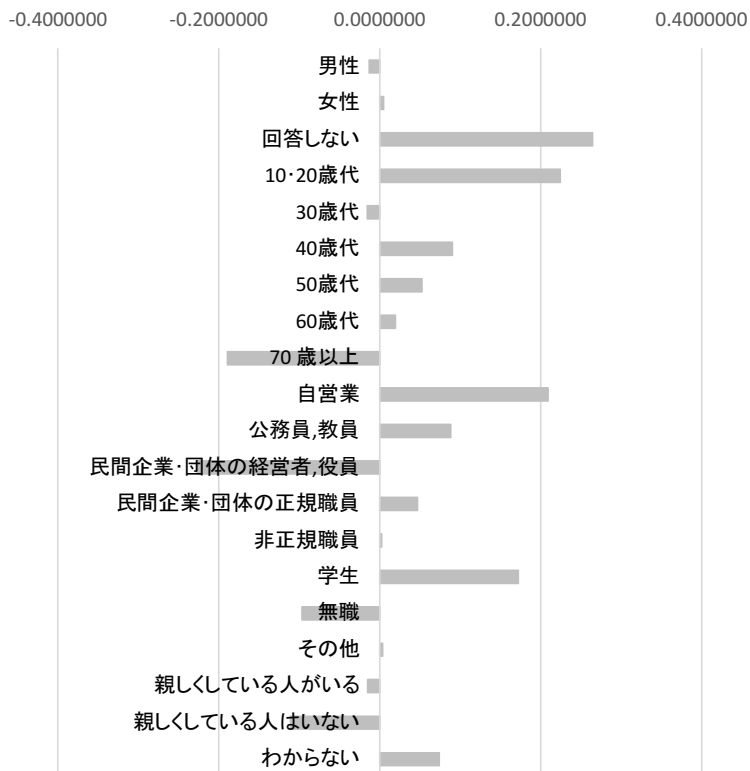
	度数	パーセン ト	有効パー セント	累積パー セント
有効	2.00	89	8.9	8.9
	3.00	87	8.7	17.6
	3.50	4	0.4	18.0
	4.00	203	20.3	38.4
	4.50	4	0.4	38.8
	5.00	256	25.7	64.4
	5.50	5	0.5	64.9
	6.00	190	19.0	84.0
	6.50	3	0.3	84.3
	7.00	102	10.2	94.5
	8.00	55	5.5	100.0
合計		998	100.0	100.0

1.自己責任・自助努力志向因子得点

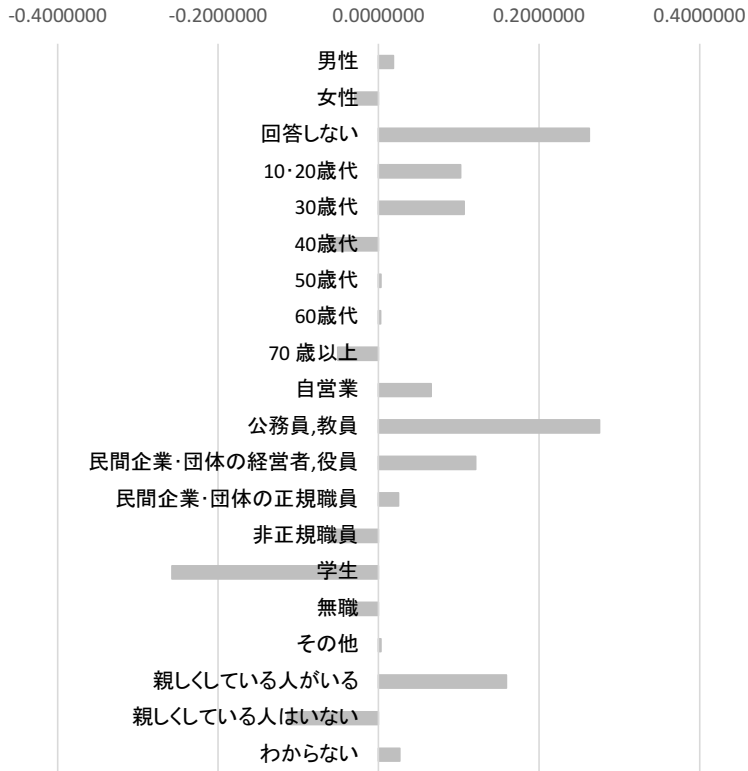


※問4（A～J）の回答を逆転させていないので、左（マイナス）のほうが、その志向性を強く表し、右（プラス）のほうが、その志向性の弱さを示すことになる。

2.徳目・地域志向因子得点



3.法・制度志向因子得点



Q17A部落出身者との結婚に対する態度

		Q17A部落出身者					合計	する	しない
		迷わず結婚する	家族や親せきの反対があればできるだけ理解を得て結婚する	家族や親せきの反対があれば結婚しない	結婚しない	回答なし			
徳目・共同体志向ランク	低	47	91	49	62	26	275	50.2%	40.4%
		17.1%	33.1%	17.8%	22.5%	9.5%	100.0%		
	中・低	31	66	36	35	7	175	55.4%	40.6%
		17.7%	37.7%	20.6%	20.0%	4.0%	100.0%		
	中・高	26	90	30	35	13	194	59.8%	33.5%
		13.4%	46.4%	15.5%	18.0%	6.7%	100.0%		
	高	65	152	40	72	25	354	61.3%	31.6%
		18.4%	42.9%	11.3%	20.3%	7.1%	100.0%		
法・制度志向ランク	低	31	62	20	48	19	180	51.7%	37.8%
		17.2%	34.4%	11.1%	26.7%	10.6%	100.0%		
	中・低	32	86	37	38	14	207	57.0%	36.2%
		15.5%	41.5%	17.9%	18.4%	6.8%	100.0%		
	中・高	37	102	60	43	19	261	53.3%	39.5%
		14.2%	39.1%	23.0%	16.5%	7.3%	100.0%		
	高	69	149	38	75	19	350	62.3%	32.3%
		19.7%	42.6%	10.9%	21.4%	5.4%	100.0%		
自己責任・自助努力ランク	低	30	62	37	67	23	219	42.0%	47.5%
		13.7%	28.3%	16.9%	30.6%	10.5%	100.0%		
	中・低	41	118	58	63	20	300	53.0%	40.3%
		13.7%	39.3%	19.3%	21.0%	6.7%	100.0%		
	中・高	52	135	44	47	20	298	62.8%	30.5%
		17.4%	45.3%	14.8%	15.8%	6.7%	100.0%		
	高	46	84	16	27	8	181	71.8%	23.8%
		25.4%	46.4%	8.8%	14.9%	4.4%	100.0%		
合計		169	399	155	204	71	998	56.9%	36.0%
		16.9%	40.0%	15.5%	20.4%	7.1%	100.0%		

Q20家の購入・マンション賃貸など住宅を選ぶ際、同和地区や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思うか

		Q20家の購入・マンション賃貸など住宅を選ぶ際、同和地区や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思うか						同和地区を避ける
		同和地区や同じ小学校区に同和地区がある物件は避けると思う	同和地区にある物件は避けるが同じ小学校区に同和地区がある物件は避けないと思う	いずれにあってもこだわらない	その他	回答なし	合計	
徳目・共同体志向ランク	低	75	55	79	1	9	219	59.4%
		34.2%	25.1%	36.1%	0.5%	4.1%	100.0%	
	中・低	97	78	101	11	13	300	58.3%
		32.3%	26.0%	33.7%	3.7%	4.3%	100.0%	
	中・高	65	81	132	9	11	298	49.0%
		21.8%	27.2%	44.3%	3.0%	3.7%	100.0%	
	高	42	42	83	5	9	181	46.4%
		23.2%	23.2%	45.9%	2.8%	5.0%	100.0%	
法・制度志向ランク	低	85	61	116	4	9	275	53.1%
		30.9%	22.2%	42.2%	1.5%	3.3%	100.0%	
	中・低	54	44	67	3	7	175	56.0%
		30.9%	25.1%	38.3%	1.7%	4.0%	100.0%	
	中・高	50	54	73	6	11	194	53.6%
		25.8%	27.8%	37.6%	3.1%	5.7%	100.0%	
	高	90	97	139	13	15	354	52.8%
		25.4%	27.4%	39.3%	3.7%	4.2%	100.0%	
自己責任・自助努力ランク	低	46	38	80	4	12	180	46.7%
		25.6%	21.1%	44.4%	2.2%	6.7%	100.0%	
	中・低	60	60	75	6	6	207	58.0%
		29.0%	29.0%	36.2%	2.9%	2.9%	100.0%	
	中・高	75	68	101	4	13	261	54.8%
		28.7%	26.1%	38.7%	1.5%	5.0%	100.0%	
	高	98	90	139	12	11	350	53.7%
		28.0%	25.7%	39.7%	3.4%	3.1%	100.0%	
合計		279	256	395	26	42	998	53.6%
		28.0%	25.7%	39.6%	2.6%	4.2%	100.0%	

Q2今の日本は人権が尊重されている社会

		Q2今の日本は人権が尊重されている社会				合計
		そう思う	どちらともいえない	そうは思えない	回答なし	
徳目・共同体志向ランク	低	68	91	55	5	219
		31.1%	41.6%	25.1%	2.3%	100.0%
	中・低	77	145	69	9	300
		25.7%	48.3%	23.0%	3.0%	100.0%
	中・高	58	151	80	9	298
		19.5%	50.7%	26.8%	3.0%	100.0%
	高	39	69	69	4	181
		21.5%	38.1%	38.1%	2.2%	100.0%
法・制度志向ランク	低	75	105	89	6	275
		27.3%	38.2%	32.4%	2.2%	100.0%
	中・低	45	88	38	4	175
		25.7%	50.3%	21.7%	2.3%	100.0%
	中・高	46	98	45	5	194
		23.7%	50.5%	23.2%	2.6%	100.0%
	高	76	165	101	12	354
		21.5%	46.6%	28.5%	3.4%	100.0%
自己責任・自助努力ランク	低	40	73	63	4	180
		22.2%	40.6%	35.0%	2.2%	100.0%
	中・低	53	87	59	8	207
		25.6%	42.0%	28.5%	3.9%	100.0%
	中・高	57	137	59	8	261
		21.8%	52.5%	22.6%	3.1%	100.0%
	高	92	159	92	7	350
		26.3%	45.4%	26.3%	2.0%	100.0%
合計		242	456	273	27	998
		24.2%	45.7%	27.4%	2.7%	100.0%

V. 調査票

あまがさきししみんきょうどうきょく じんけん しみんいしきちょうさ
尼崎市市民協働局 人権についての市民意識調査

きょうりょく ねが ねん
ご協力のお願い(2018年)

この調査は、今後の人権教育・啓発施策を進めるうえでの基礎資料として活用するため、市民(外国籍住民も含む)のみなさまに、人権についてのお考えをお聞きするものです。

このアンケート(人権についての市民意識調査)は、18歳以上の市民のみなさまの中から、ランダムに選び出した3,000名の方にお送りしております。

結果はすべて統計的に処理しますので、個人の秘密が他人にもれたり、ご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。また、上記の目的以外に使用することはありません。

大変お忙しいとは存じますが、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2018年10月

あまがさきししみんきょうどうきょく
尼崎市市民協働局

次ページの「ご記入についてのお願い」をお読みになったうえで、

アンケートにお答えいただき、10月31日(水)までに、

同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れて、ポストへ入れてください。

ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

あまがさきししみんきょうどうきょく すいしんか
尼崎市市民協働局 ダイバーシティ推進課

◆住所 〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1号(尼崎市役所 本庁中館7階)

◆電話番号 06-6489-6658 ◆ファックス番号 06-6489-6661

◆メールアドレス ama-jinken@city.amagasaki.hyogo.jp

【実査委託先】

かぶしがいしゃ
株式会社エムアールビジネス

※尼崎市市民協働局で上記事業者へ調査業務を委託しています。

【ご記入についてのお願い】

- あて名のご本人がお答えになってください。
- お名前を書いていただく必要はありません。
- お答えは、あてはまる答えの**番号に〇印**をつけてください。
「その他」に〇印をつけられた方は、()の中に具体的な内容をご記入ください。
- お答えいただいた調査票は、**10月31日(水)までに**、
同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れて、ポストへ入れてください。
- この調査票を読んだり書いたりすることがむずかしい場合は、親しい方などにお手伝いいただいてお答えくだされば幸いです。
- 調査について質問などがありましたら、表紙に記載しているお問い合わせ先までご連絡ください。

人権全般についておうかがいします。

問1. あなたは、「人権」ということを、どの程度身近に感じられますか。あなたのお気持ちにいちばん近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 非常に身近に感じている | 4 あまり身近に感じていない |
| 2 かなり身近に感じている | 5 まったく身近に感じていない |
| 3 どちらともいえない | |

問2. 日本社会の人権について「今の日本は、人権が尊重されている社会である」という意見がありますが、あなたのお考えに近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 そう思う | 3 そうは思えない |
| 2 どちらともいえない | |

問3. 日本の社会には、人権にかかわるいろいろな問題がありますが、あなたが、関心を持っているもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)

- 1 女性に関する問題
- 2 子どもに関する問題
- 3 高齢者に関する問題
- 4 障がいのある人に関する問題
- 5 外国籍住民に関する問題
- 6 部落差別（同和問題）に関する問題
- 7 アイヌの人々に関する問題
- 8 刑を終えて出所した人に関する問題
- 9 犯罪被害者に関する問題
- 10 エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者に関する問題
- 11 ハンセン病患者・回復者に関する問題
- 12 インターネットによる人権侵害の問題
- 13 ホームレスに関する問題
- 14 性的マイノリティ（少数者）（※下欄参照）に関する問題
- 15 その他（具体的に： _____）
- 16 とくに関心をもっているものはない

解説

「性的マイノリティ（少数者）」とは

性的マイノリティは、性的少数者を表す言葉で、代表的な性的マイノリティの頭文字をとって「LGBT」（L：レズビアン・女性同性愛者、G：ゲイ・男性同性愛者、B：バイセクシュアル・両性愛者、T：トランスジェンダー・「身体の性」と「心の性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人）と表現することがあります。

L レズビアン

女性を好きになる女性

G ゲイ

男性を好きになる男性

B バイセクシュアル

男女どちらも好きになる人

T トランスジェンダー

生まれた時の性別と自分で認識している性別が異なる人や、身体の性別に違和感を持つ人

「好きになる性」の
マイノリティ

「心の性」の
マイノリティ

問4. 人権についていろいろな考え方があります。次のことについてあなたはどのように思われますか。
あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

1	2	3	4
そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない	あまり そう思わない

回答方向 

A	人権問題は、差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	1	2	3	4
B	介護や介助を受ける人があまりあれこれ自己主張するのはよくない	1	2	3	4
C	社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある	1	2	3	4
D	人権問題を解決する責任は、まず行政にある	1	2	3	4
E	差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だ	1	2	3	4
F	自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えている	1	2	3	4
G	思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	1	2	3	4
H	学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ	1	2	3	4
I	個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだ	1	2	3	4
J	現代は競争社会であり、個人の能力差があることで差別が生じるのはしかたがない	1	2	3	4

問5. あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思われたことがありますか。(○は1つだけ)

1 ある

2 ない

3 わからない

↓
問5-1、問5-2へ

↘
P.6の問6へ

《自分の人権が侵害されたことが「ある」とお答えいただいた方は次の2つの質問にお答えください。》

問5-1. どのような人権侵害でしたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。

(○はいくつでも)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 あらぬ噂や悪口により、名誉・信頼等を侵害された2 公的機関や企業・団体により不当な扱いをされた3 地域、家庭、職場等での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれなどを受けた4 差別待遇（信条・性別・社会的身分・国籍や民族・病気や障がい等）により不平等または不利益な扱いをされた5 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けた6 ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）による人権侵害7 パワー・ハラスメント（職場で職務権限を用いて行う、いやがらせやいじめ）を受けた8 インターネット（パソコン、スマートフォン）による人権侵害9 性的指向や性自認に関して嘲笑的言動や差別的言動を受けた10 その他（具体的に： _____)11 おぼえていない |
|---|

問5-2. 人権侵害を受けたとき、どうされましたか。あてはまるもの全部に○をおつけください。

(○はいくつでも)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 友達、同僚などに相談した2 家族、親戚に相談した3 警察に相談した4 弁護士に相談した5 県や市町村に相談した6 法務局や人権擁護委員などの国の機関に相談した7 民間団体などに相談した8 民生児童委員などの地域の人に相談した9 新聞などマスコミに訴えた10 自分で相手に抗議した11 とくに何もしなかった12 その他（具体的に： _____)13 おぼえていない |
|--|

障がい者問題と外国人問題についておうかがいします。

問6. 2016年に障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法ができました。障がいのある人の人権、外国籍住民の人権に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。(○はそれぞれ1つずつ)

1	2	3	4
そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない	あまり そう思わない

回答方向 

A	障がいがあることを理由に、入店を断られることは問題だ	1	2	3	4
B	多動の子ども(下欄※1参照)が、じっとすることができないことを(親のしつけが悪い)というのはまちがっている	1	2	3	4
C	精神に障がいのある人は行動が不安定なので不安を感じる	1	2	3	4
D	障がいのある人が、住宅やマンション等の入居を拒否されるのはしかたがない	1	2	3	4
E	外国籍住民が住宅を借りようとすると、拒否されるのはしかたがない	1	2	3	4
F	外国籍住民が堂々と本名(民族名)を名乗れる環境づくりを整備することが望ましい	1	2	3	4
G	国や自治体は、外国籍住民に対するヘイトスピーチを繰り返す団体に、毅然とした態度をとるべきだ	1	2	3	4
H	日本に居住している外国籍住民は納税の義務を果たしている ので、外国人学校や民族学校は、日本の学校と同じように処遇されるべきだ(下欄※2参照)	1	2	3	4

解説

※1…多動の子どもとは、集中力がない、じっとしてられない、落ち着きがないなどの傾向が見られる発達障がいの子どものことをいいます。

※2…外国人学校や民族学校は、義務教育課程に相当する教育を実施しているとみなされているものの、学校教育法第1条に規定されている学校ではない(各種学校扱い)ことから、私立学校と同等の補助を受けられていない現状があります。

さまざまな人権問題についておうかがいします。

問7. 女性の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。

(○はいくつでも)

- 1 アダルトビデオやポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など
- 2 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
- 3 固定的な男女の役割分担の意識（男は仕事、女は家庭など）に基づく差別的言動
- 4 昇給や昇進の格差など、職場での男女の差別的な待遇
- 5 配偶者やパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス）
- 6 女性の社会参画のための支援制度の不備
- 7 ストーカー行為
- 8 売春・買春、援助交際
- 9 妊娠・出産等を理由に職場で嫌がらせや不当な扱いを受けること（マタニティ・ハラスメント）
- 10 その他（具体的に： _____）

問8. 子どもの人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。

(○はいくつでも)

- 1 いうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を加えること
- 2 教師や親が、子どもに対して自分の意見を主張させないこと
- 3 勝手に手紙や日記などを見るといった、子どものプライバシーを侵害すること
- 4 子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること
- 5 子ども同士の「暴力」、「仲間はずれ」、「無視」などのいじめ
- 6 学校内での教師の体罰や子どもに過剰な負担を強いる指導
- 7 児童買春や児童ポルノの対象となること
- 8 ビデオ・インターネットなどにおける性情報のはんらん
- 9 家庭の経済的な理由で進学や就職等に支障があること（子どもの貧困）
- 10 その他（具体的に： _____）

問9. 高齢者の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。

(○はいくつでも)

- 1 悪徳商法や詐欺などの被害が多いこと
- 2 情報を分かりやすく伝える配慮が足りないこと
- 3 働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分でないこと
- 4 病院での看護、福祉施設での介護や対応が十分でないこと
- 5 邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと
- 6 家族が世話をしなかったり、虐待をすること
- 7 家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
- 8 道路の段差やエレベーターの未設置など、暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと
- 9 賃貸住宅等への入居が難しいこと
- 10 その他（具体的に： _____）

問10. 障がいのある人の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1 賃貸住宅等への入居が難しいこと
- 2 スポーツ活動や文化活動などへの参加が容易にできないこと
- 3 企業等における雇用が進まないこと
- 4 障がいのある人の移動が自由にできないこと
- 5 学校や職場で不利な扱いを受けること
- 6 病院での看護、福祉施設での介護や対応が十分でないこと
- 7 社会復帰や社会参加への受入体制が十分でないこと
- 8 日常生活に必要な情報をわかりやすく伝えられていないこと
- 9 発達障がいや精神障がいの理解が進まないこと
- 10 その他(具体的に: _____)

問11. 日本に居住している外国籍住民の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1 賃貸住宅等への入居にあたり、4割の外国籍住民が入居を断られている事実
- 2 本名では生活しづらいことから、多くの人が通称名(日本名)を使用せざるを得ないこと
- 3 就職を断られたり職場で賃金や昇進などで不利な処遇をうけること
- 4 外国人学校や民族学校が日本の学校と同じように処遇されていないこと
- 5 文化や生活習慣の違いを受け入れられなかったり、その違いのため、いやがらせを受けること
- 6 病院や施設などで、外国語表記などの対応が不十分であること
- 7 年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること
- 8 住民投票への参加や地方参政権が認められないなど地方政治に意見が十分に反映されないこと
- 9 特定の民族や国籍の人に対する差別的言動(ヘイトスピーチ)
- 10 その他(具体的に: _____)

問12. あなたが、親しくしている人の中に外国人はいますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------|
| 1 親しくしている人がいる | 3 わからない |
| 2 親しくしている人はいない | |

問13. 犯罪被害者の方やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1 犯罪行為による被害者遺族や近親者の精神的・経済的負担が大きいこと
- 2 報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること
- 3 事件に関して周囲にうわさ話をされること
- 4 捜査や刑事裁判において精神的・経済的負担が大きいこと
- 5 刑事裁判手続きにおいて被害者や家族の声が十分に反映されていないこと
- 6 被害者やその家族を支援する制度が十分に周知されていないこと
- 7 その他(具体的に: _____)

問14. インターネット（ホームページ、ブログ、メール、SNSなど）を悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

- 1 他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などが掲載されていること
- 2 差別を扇動したり助長する表現や内容が掲載されていること
- 3 犯罪捜査の対象となっている未成年者の名前や顔写真が掲載されていること
- 4 わいせつな画像や残虐な映像が掲載されていること
- 5 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること
- 6 個人情報流出などの問題が多く発生していること
- 7 インターネット上の人権侵害に対する救済や規制に関する法制度が不十分であること
- 8 デマや歪曲された記載など、事実と異なる情報が掲載されていること
- 9 その他（具体的に： _____）

問15. 性的マイノリティ（少数者）の人権に関して、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

- 1 学校や職場でいじめや嫌がらせを受けること
- 2 就職や職場において不利な扱いを受けること
- 3 家族や友達から理解されないこと
- 4 周囲の偏見を恐れ、誰にも相談できないこと
- 5 賃貸住宅等への入居が難しいこと
- 6 法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること
- 7 施設、病院において、自認する性とは別の扱いを受けることがあること
- 8 その他（具体的に： _____）

問16. あなたの知り合いや友人の中に性的マイノリティ（少数者）の人はいますか。

（〇は1つだけ）

- | | |
|-------|---------|
| 1 いる | 3 わからない |
| 2 いない | |

結婚についておうかがいします。

問17. あなたがもし結婚するとして、結婚相手としてどのような条件を重視しますか。相手が女性の場合、男性の場合について、とくに重要だと思うものをそれぞれ3つ選んで、()内に番号をご記入ください。(それぞれ3つまで)

- | | |
|----------|-----------|
| 1 職業 | 8 行動力・実行力 |
| 2 性格 | 9 趣味・特技 |
| 3 家庭環境 | 10 健康状況 |
| 4 収入・財産 | 11 学歴 |
| 5 容姿・身なり | 12 家事能力 |
| 6 教養・センス | 13 年齢 |
| 7 思想・信条 | 14 宗教 |

相手が女性の場合 → () () ()

相手が男性の場合 → () () ()

問17-1. 問17で選んだ条件を満たしている人が現れたとして、次のような人であった場合、あなたはどうされますか。あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。

(○はそれぞれ1つずつ)

※次のような人とは⇒〔部落出身者(同和地区出身者)、日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人、障がいのある人〕

- | | | | | |
|--|---------|------------------------------|-------|---------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 迷わず結婚する | 家族や親せきの反対があれば、できるだけ理解を得て結婚する | 結婚しない | 家族や親せきの反対があれば、結婚しない |

回答方向

A 部落出身者(同和地区出身者)	1	2	3	4
B 日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人	1	2	3	4
C 障がいのある人	1	2	3	4

部落差別(同和問題)についておうかがいします。

問18. 現在、次のことについて部落差別(同和問題)があると思いますか。

(○はそれぞれ1つつ)

	1	2	3	4	5
	差別がある	あきらかな差別がある	どちらかといえば	差別はない	わからない

回答方向 

A	日常の交流や交際	1	2	3	4	5
B	学校生活における教員や子どもの交流において	1	2	3	4	5
C	就職について	1	2	3	4	5
D	結婚について	1	2	3	4	5
E	引っ越しや住宅の購入に関して	1	2	3	4	5
F	インターネット上の差別的な情報の拡散	1	2	3	4	5

問19. 部落差別(同和問題)について、初めて知ったきっかけは、何からですか。次の中から1つ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた
- 2 親戚の人から聞いた
- 3 近所の人から聞いた
- 4 職場の人から聞いた
- 5 友達から聞いた
- 6 学校の授業で教わった
- 7 テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った
- 8 インターネットで知った
- 9 部落差別(同和問題)に関する集会や研修会で知った
- 10 県や市の広報紙や冊子で知った
- 11 部落差別解消推進法の施行により知った
- 12 部落差別(同和問題)は知っているがきっかけは覚えていない
- 13 部落差別(同和問題)を知らない

問20. もし、あなたが家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、「同和地区」や同じ小学校区にある物件は避けることがあると思いますか。あなたのお考えにいちばん近いものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- 1 「同和地区」や同じ小学校区に同和地区がある物件は避けると思う
- 2 「同和地区」にある物件は避けるが、同じ小学校区に同和地区がある物件は避けないと思う
- 3 いずれにあってもこだわらない
- 4 その他(具体的に: _____)

問21. あなたは、学校で部落差別(同和問題)について、学習したことがありますか。あてはまるもの全部に○をおつけください。(○はいくつでも)

- 1 小学校で学んだ
- 2 中学校で学んだ
- 3 高等・高等専修学校で学んだ
- 4 短大・大学・専門学校(それ以上の学校も含む)で学んだ
- 5 はっきりと覚えていない
- 6 学校で学んだ経験はない

問22. あなたが親しくしている人の中に部落出身(同和地区出身)の人はいますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------|
| 1 親しくしている人がいる | 3 わからない |
| 2 親しくしている人はいない | |

人権問題に関する学習経験についておうかがいします。

問23. 人権問題について、市民の理解を深めるために、「じんけんを考える市民のつどい」など、さまざまな形で催し物や広報紙などによる啓発を行っていますが、ここ数年の間に、あなたは参加した（読んだ）ことがありますか。参加したものについて意見をお聞かせください。あてはまるものに○をおつけください。（○はそれぞれ1つずつ）

	1	2	3	4
	とても役に立った	役に立った	役に立たなかった	参加して（読んで）いない

回答方向

	1	2	3	4
A 講演会	1	2	3	4
B 研修会・学習会	1	2	3	4
C 映画上映会	1	2	3	4
D 啓発展示会	1	2	3	4
E 地域交流の夏まつりなど	1	2	3	4
F 新聞やテレビ、ラジオを活用した啓発	1	2	3	4
G 広報紙、パンフレット、ポスターの作成や配布	1	2	3	4
H ホームページ、インターネット等を活用した啓発	1	2	3	4
I その他（具体的に：_____）	1	2	3	4

問23-1. 参加されて、良かったと思う点や逆に良くなかった点があればご自由にお書きください。

法などの認知度についておうかがいします。

問24. あなたは次の2016（平成28）年度に施行された差別解消に関する3つの法律についての程度ご存知ですか。あてはまるものに○をおつけください。（○はそれぞれ1つつづ）

	1	2	3
	知っている	内容も含め ことがある	名前は聞いた 知らない
A	1	2	3
B	1	2	3
C	1	2	3

回答方向 

解説

「人権三法」とは

2016（平成28）年度に、差別を解消するための3つの法律が施行されました。

●障害者差別解消法

すべての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的とした法律です。

この法律では、障がいを理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項や、国の行政機関、地方公共団体等及び民間事業者における障がいを理由とする差別を解消するための支援措置などについて定めています。

●ヘイトスピーチ解消法

特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動、いわゆるヘイトスピーチは人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねません。

ヘイトスピーチ解消法は、外国人に対する差別的言動の解消を目的とした法律です。この法律では、私たちは不当な差別的言動のない社会に向け努めることが基本理念として示されています。

●部落差別解消推進法

部落差別の解消に向けた「同和対策事業特別措置法」期限後も、差別的な文章をインターネットなどを利用して意図的に広めるなどの部落差別問題が起こっています。

部落差別解消推進法は、現在もなお部落差別が存在することを踏まえ、すべての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものであるとの認識のもと、部落差別の解消を推進することを目的とした法律です。

この法律では、「現在もなお部落差別が存在する」とし、「部落差別のない社会を実現する」と定めています。

最後に、あなたご自身のことについておうかがいします。

※これまでお聞きしたことを統計的に分析するために必要ですので、ご協力をお願いいたします。

A. あなたの性別は。あてはまるものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|------|---------|
| 1 男性 | 3 回答しない |
| 2 女性 | |

B. あなたのお年は。あてはまるものに○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------|---------|
| 1 10歳代 | 5 50歳代 |
| 2 20歳代 | 6 60歳代 |
| 3 30歳代 | 7 70歳以上 |
| 4 40歳代 | |

C. あなたの現在しているお仕事で、いちばん近いとお考えのものに○をおつけください。

(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1 自営業 | 5 非正規職員(パート、派遣職員、アルバイト等) |
| 2 公務員、教員 | 6 学生 |
| 3 民間企業・団体の経営者、役員 | 7 無職 |
| 4 民間企業・団体の正規職員 | 8 その他 |

D. あなたのお住まいの地域に○をおつけください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------|--------|
| 1 中央地区 | 4 立花地区 |
| 2 小田地区 | 5 武庫地区 |
| 3 大庄地区 | 6 園田地区 |

アンケートはこれで終了です。

ご協力ありがとうございました。